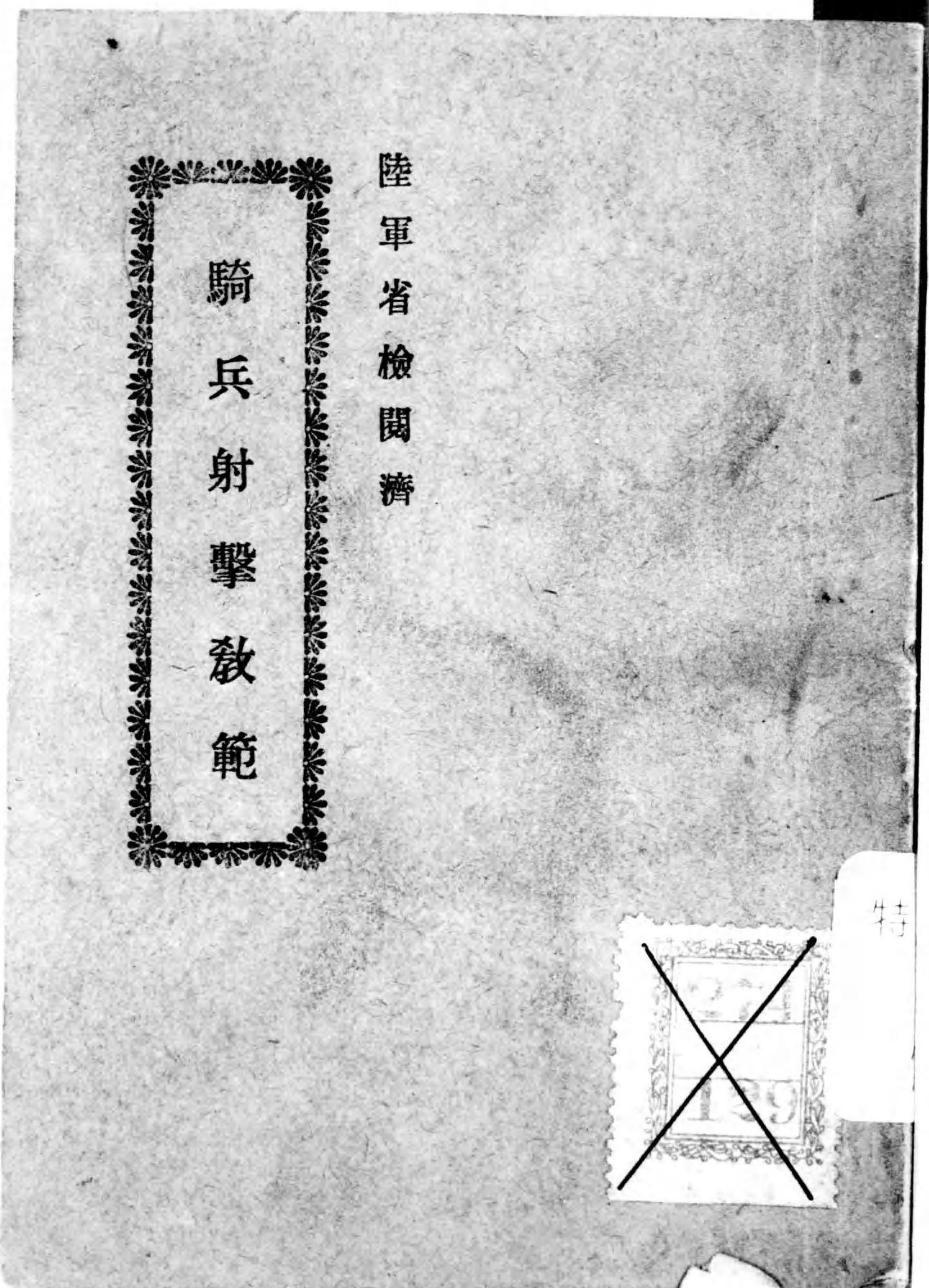
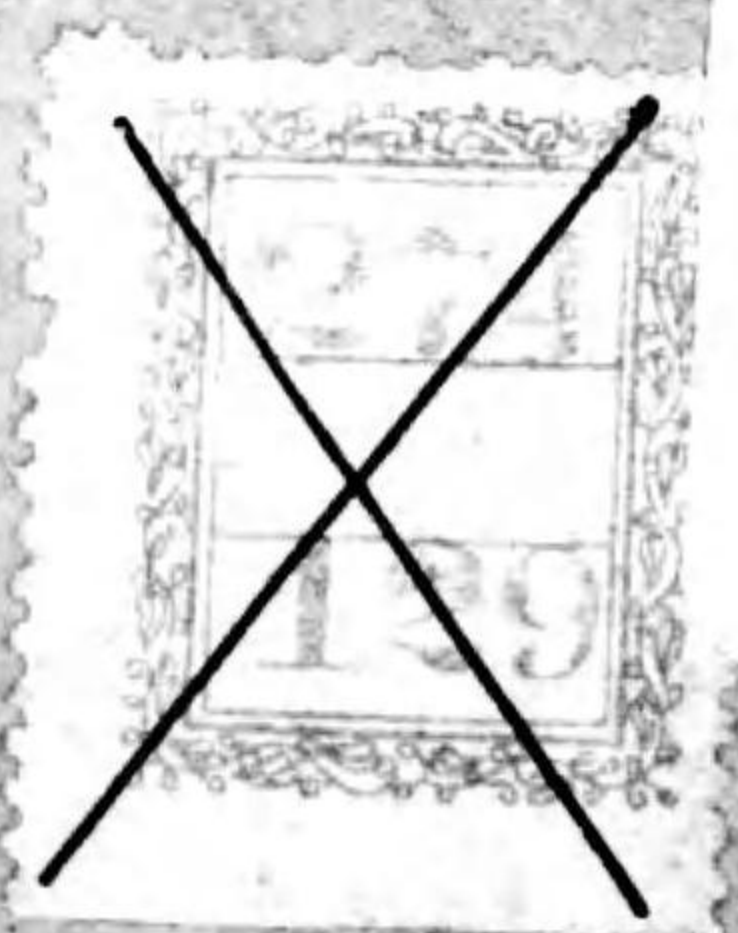


始



陸軍省檢閱濟

騎兵射擊教範



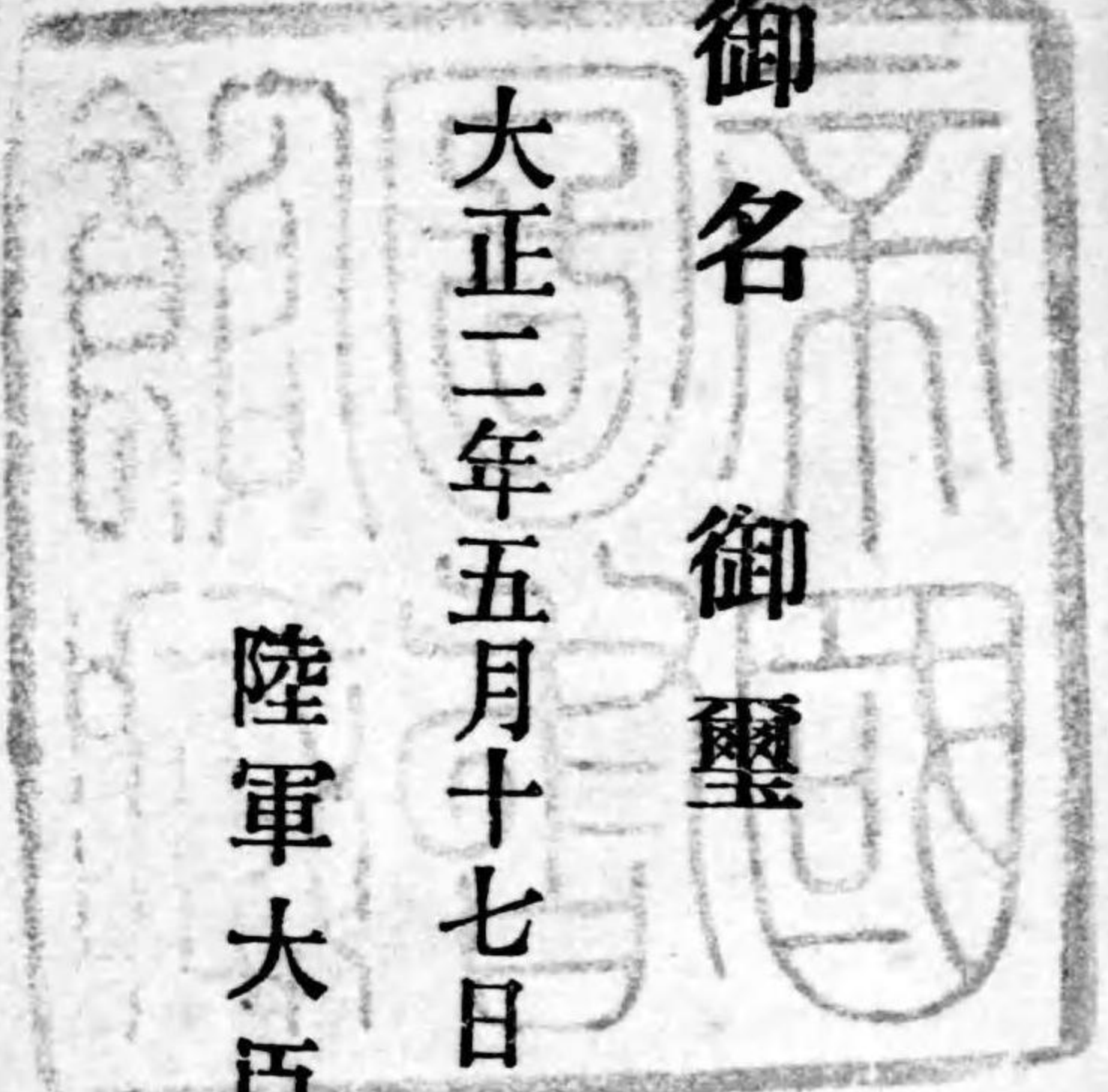
特

持100
72

ス

朕騎兵射擊教範ヲ改定シ之カ施行ヲ命

御名 御璽



大正二年五月十七日

陸軍大臣男爵木越安綱

大正
2. 5. 28
内交

軍令陸第三號
騎兵射擊教範



騎兵射擊教範目次

總則

第一篇 射擊ニ關スル定説

第一章 彈道及照準機

第二章 射擊上天候及氣象ノ感及

第三章 射彈ノ散布

第四章 四四式及三八式騎銃ノ性能

第二篇 射擊教育

第一章 一般ノ要領

目次

一頁 四 四 九 十 十八 十八 十九

第二章 射擊隊行演習

二十二

要則

二十二

照準

二十四

射擊ノ方法

三十

照尺ノ用法及照準點ノ選定

三十八

第三章 狹窄射擊

四十二

第四章 基本射擊

四十六

要則

四十六

射手ノ等級及射擊ノ實施

四十八

射擊場ノ勤務及射手ノ動作

五十五

射擊場ノ警戒

六十九

第五章 戰鬥射擊

七十一

要則

七十一

實施

七十六

其一 要旨

七十六

其二 射擊指揮

八十

第六章 特別射擊

八十六

第七章 乘馬射擊

八十七

第八章 拳銃射擊

八十八

第九章 距離測量

九十一

第三篇 銃ノ命中試験

九十九

第四篇 射撃材料

百一

第一章 標的

百一

第二章 射撃用具

百五

第五篇 彈藥

百七

第六篇 記録及報告

百十一

第一章 記録

百十一

第二章 報告

百十三

附録

百十五

其一 氣球隊ノ射撃教育

百十五

其二 輜重兵隊ノ射撃教育

百二十一

其三 三十年式騎銃使用ニ關スル特別ノ

規定

百二十八

其四 目標設置要領

百二十四

騎兵射擊教範目次終

騎兵射擊教範

總則

第一 射擊ハ徒歩戰ノ目的ヲ達スル爲緊要ナル手段ニシテ其技能ノ精熟ハ戰鬪ノ效果ヲ大ナラシムルモノナリ

第二 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ノ射擊技能ヲ訓練シテ之ニ精熟セシメ以テ徒歩戰ニ於ケル各種ノ任務ヲ完全ニ遂行シ得シムルニ在リ

適切ナル射擊指揮、嚴肅ナル射擊軍紀特ニ熟練ナル射擊術ハ射撃ノ效果ヲ收ムルノ素因ナリ

第三 射擊學理ノ適切ナル應用並操典上射擊ニ關スル諸制式及法則ノ完全ナル實施ハ射擊教育ノ完成ニ密接ノ關係ヲ有スルモノトス

第四 射擊教育就中射擊術ノ訓練ニ方リテハ教官ハ特ニ熱心ニシテ懇篤事ニ從フヲ要ス教育ノ進度ヲ急クト之カ練磨ヲ中絶スルトハ共ニ教育ノ良果ヲ收メ難キモノトス
射擊術訓練ノ要ハ兵卒全般ノ伎倆ヲ齊一ニ向上發達セシムルニ在リ故ニ苟モ此趣旨ニ反スル教育手段ヲ採ルヲ許サス

第五 射擊教育ト共ニ兵卒ニ兵器ヲ尊重愛護スルノ精神ヲ養成シ兵器保存ノ良否ハ射擊ノ效果ニ著シキ影響ヲ及ホスヘキコトヲ深ク肝銘セシムルヲ要ス

第六 中隊長ハ中隊ノ射擊教育ニ就キ其責ニ任ス

射擊教育ハ中隊長ノ射擊學理ノ精通及教育ノ目的、順序、方法等ノ完全ナル會得並熱心ニシテ且射擊技能ニ精熟セル教官ヲ得ルコトニ依リテ始メテ良成績ヲ收メ得ヘキモノトス故ニ中隊長ハ絶エス自己ノ技能ヲ練磨スルト共ニ銳意中隊附士官以下ノ幹部ヲ訓練シ其進歩ヲ圖ラサルヘカラス

第七 聯隊長ハ中隊ノ射擊教育ヲ監督指導シ其精熟ヲ圖ルヘシ

旅團長以上ノ團隊長ハ射擊教育ヲ統轄シ且之ヲ獎勵シ以テ其齊

一 進歩ヲ圖ルヘシ

第一篇 射撃ニ關スル定説

第一章 彈道及照準機

第八

發射セラレタル彈丸重心ノ過クル線ヲ彈道ト謂フ

彈道ノ形狀ハ速度、重力、空氣抗力、彈丸ノ旋動及銃ノ傾度ニ關係ス

第九

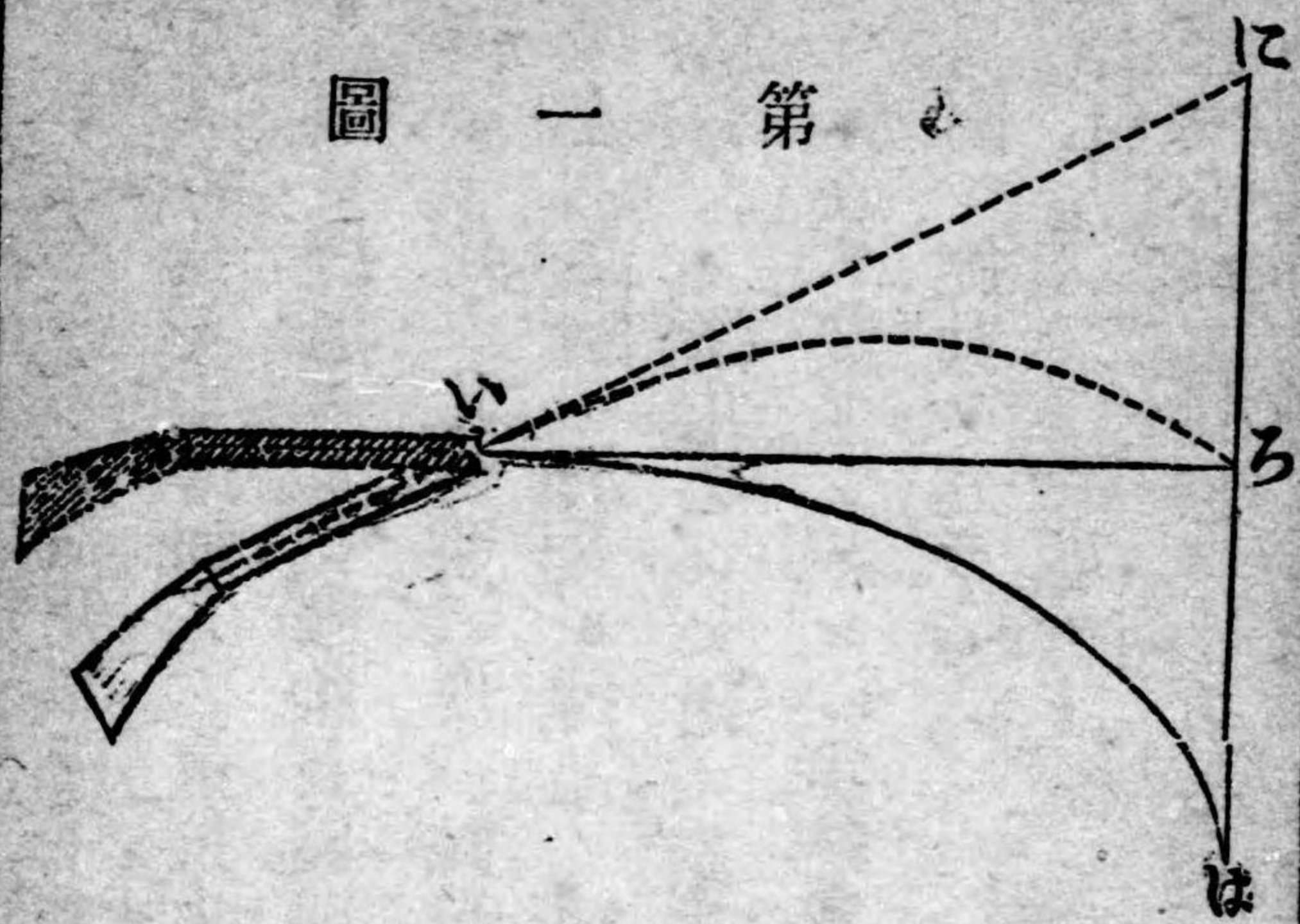
彈丸火藥瓦斯ノ壓力ヲ受クレハ某速度ヲ以テ銃腔外ニ迸出シ其銃口ヲ離ルルヤ忽チ重力及空氣抗力ニ交感ス其銃口ニ於ケル彈丸ノ速度ヲ初速ト謂フ

重力ハ飛行スル彈丸ヲ落下セシムルモノニシテ其落下尺度ハ經過時間ト共ニ増加ス空氣抗力ハ絶エス彈丸ノ飛行速度ヲ減シ同距離ヲ經過スルニ漸次長時間ヲ費スニ至ラシム之カ爲彈道ハ曲線狀ヲ爲シ其彎曲ノ度ハ銃口ヲ遠サカルニ從ヒ益々甚シ而シテ彈道ノ某點ニ於ケル彈丸ノ速度ヲ其點ノ存速ト謂フ

第十 彈丸ヲシテ絶エス其尖頭ヲ前方ニ維持セシメ終始規正ノ彈道ヲ畫カシメンカ爲銃身ニ腔綫ヲ施シ以テ飛行間其長軸ノ周圍ニ旋動ヲ爲サシム

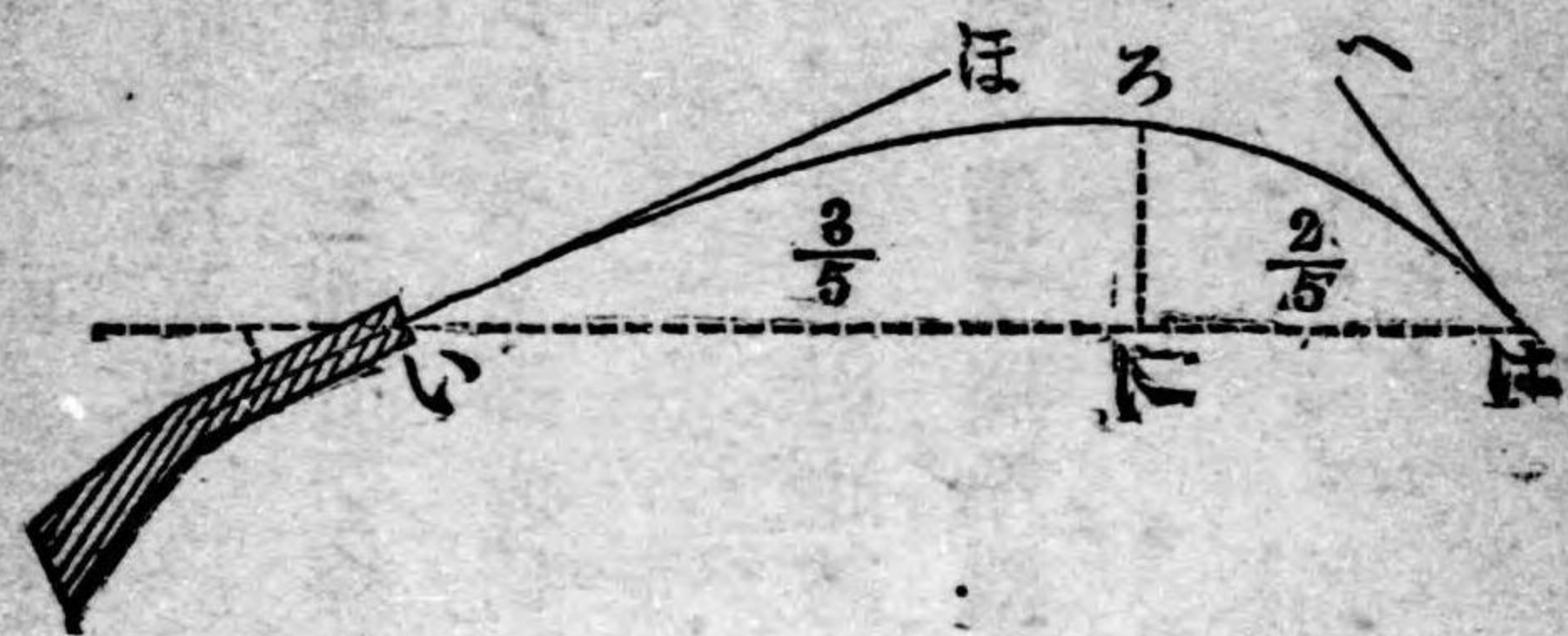
第十一 彈丸ヲ目標ニ命中セシメント欲セハ銃身軸ノ延線即チ射線ヲ目標ノ上方ニ向ハシメサルヘカラス其高上ノ度ハ彈

第一圖



丸ノ目標ニ達スル時間ニ落下スヘキ尺度ニ等シ
 「いろ」ヲ射線「ろ」ヲ目標「ろ」ハ「ヲ
 彈丸ノ「い」ヨリ「は」ニ達スル時間ニ
 落下スヘキ尺度トシテ「ろ」點ニ
 命中セシメンニハ射線ヲ「ろ」ハ「ニ
 等シキ」ニ「ろ」ノ高サニ向ハシメサ
 ルヘカラス
 第十一圖 彈道「いろ」ハ最初
 射線「いほ」ノ方向ニ漸次昇リテ最

第二圖



高點「ろ」ニ達シ次ニ漸次降リテ銃
 口ニ通スル水平面ト交會スルニ至
 ル其交會點「は」ヲ落點ト謂ヒ彈丸
 ノ目標又ハ地面ニ落達シタル點ヲ
 彈著點ト謂フ
 銃口「い」ト落點「は」トノ距離ヲ射
 距離ト謂フ然レトモ通常銃口ト彈
 著點トノ距離ヲ射距離ト稱ス
 彈道ノ最高點「ろ」ハ銃口ヨリ概ネ
 射距離ノ五分ノ三ノ所ニ在リ銃口

ニ通スル水平面ノ某點ヨリ彈道ニ至ル高サヲ其距離ニ於ケル彈道高ト謂ヒ最高點ドウコウニ通スル彈道高サイコウドニ於ケル最高度ト謂フ
銃口ニ於ケル彈道切線ト水平面ト爲ス角ハツシャカク「ほいは」ヲ發射角ト謂ヒ落點ニ於ケル彈道切線ト水平面ト爲ス角ラクカク「へはい」ヲ落角ト謂フ

第十三 各射距離ニ應スル傾度ヲ銃身ニ附與スル爲銃身上ニ照準機ヲ備フ照準機ハ照星セウセイ及照尺セウシヤクヨリ成リ照尺ニハ照門セウモンヲ備フ

照門上縁ノ中央ヨリ照星頂セウセイテウヲ通視スル直線ヲ照準線ト謂ヒ一點ニ照準線ヲ向クルヲ照準ト謂ヒ照準線ヲ向クル點ヲ照準點ト謂フ

第二章 射撃上天候及氣象ノ感及

第十四 空氣ノ濃淡即チ氣壓及溫度ノ高低等ハ彈丸ニ對スル抗力ニ差違ヲ生シ射距離ヲ増減ス

射距離ハ概シテ夏ニ於テ増シ冬ニ於テ減スルモノトス
後方或ハ前方ヨリ來ル風ハ射距離ヲ増減シ側方ヨリ來ル風ハ彈丸ヲ側方ニ偏セシム其量ハ射距離及風速ノ増加スルニ從ヒテ益々大ナリ

第十五 光線上方ヨリ照星ヲ照ストキハ射手ノ眼中ニ映ス

ル視像大トナルヲ以テ自然照星ヲ低ク照門内ニ現ハシ射距離ヲ減ス若側方ヨリ之ヲ照ストキハ照星ノ輝ク方ノ視像他ノ方ヨリ膨大スルヲ以テ自ラ照星頂ヲ一側ニ偏シテ照門内ニ現ハシ彈丸ヲシテ暗黒ナル方ニ偏セシム曇天、曉暮等總テ照星ヲ視ルコト明瞭ナラサルトキニ在リテハ自然之ヲ高ク現ハシ從テ射距離ヲ増大ス

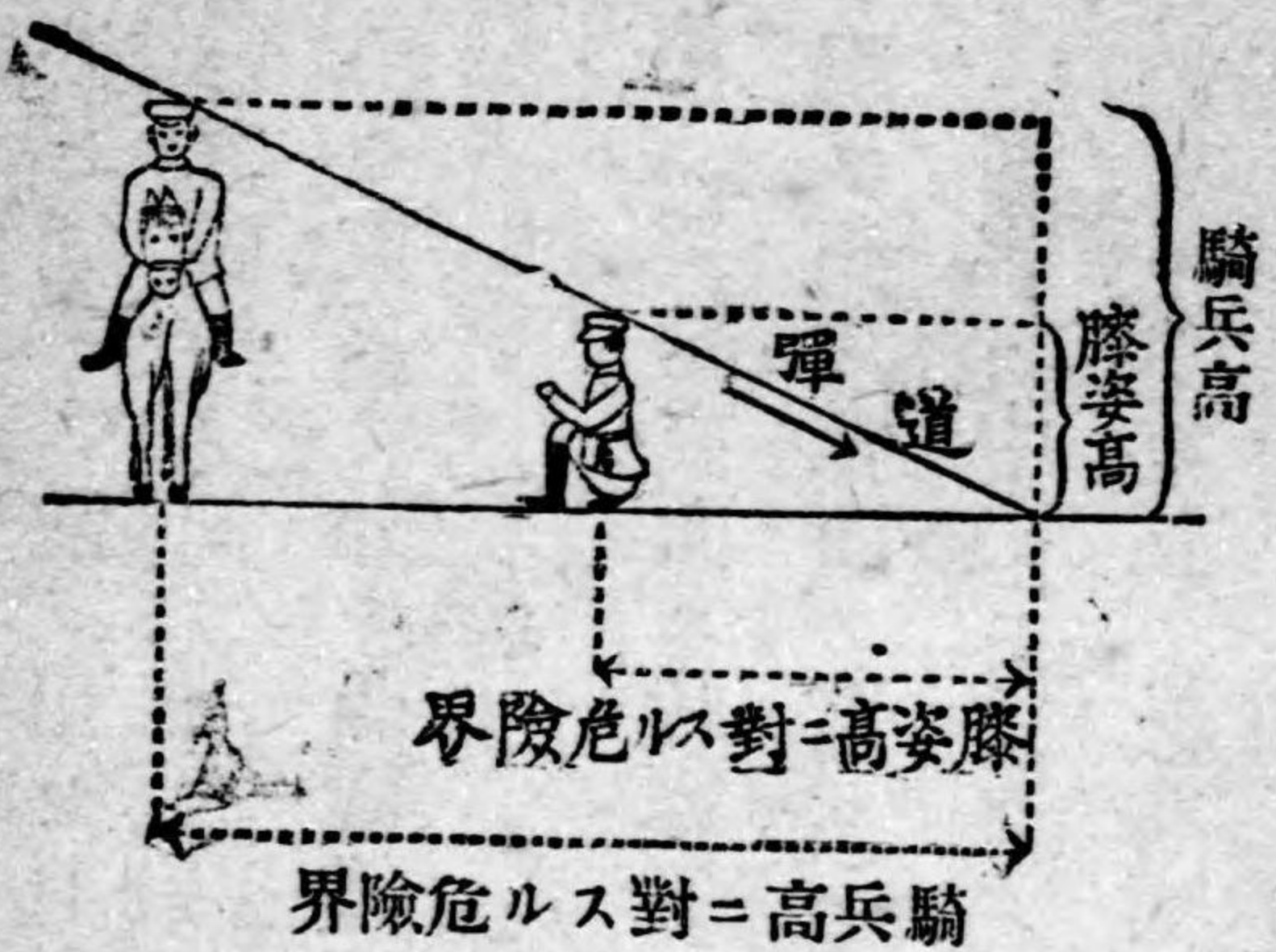
第三章 射彈ノ散布

第十六 銃器及彈藥ノ構造上ノ差違ハ彈道ノ形狀、命中ノ精粗、彈丸ノ侵徹力ニ關係ス

第十七

彈道ノ形狀ハ直線狀ニ近ツクニ從ヒ益々價值アルモノトス

第三圖



彈道ノ目標高ヲ超過セサル地界ノ長サヲ危險界ト謂フ其長短ハ射距離、目標高ノ外目標所在地ノ傾斜ニ從ヒ變化スルモノニシテ近距離ニ在リテハ射手ノ姿勢及照準點ノ位置モ亦之ニ影響ス

第十八

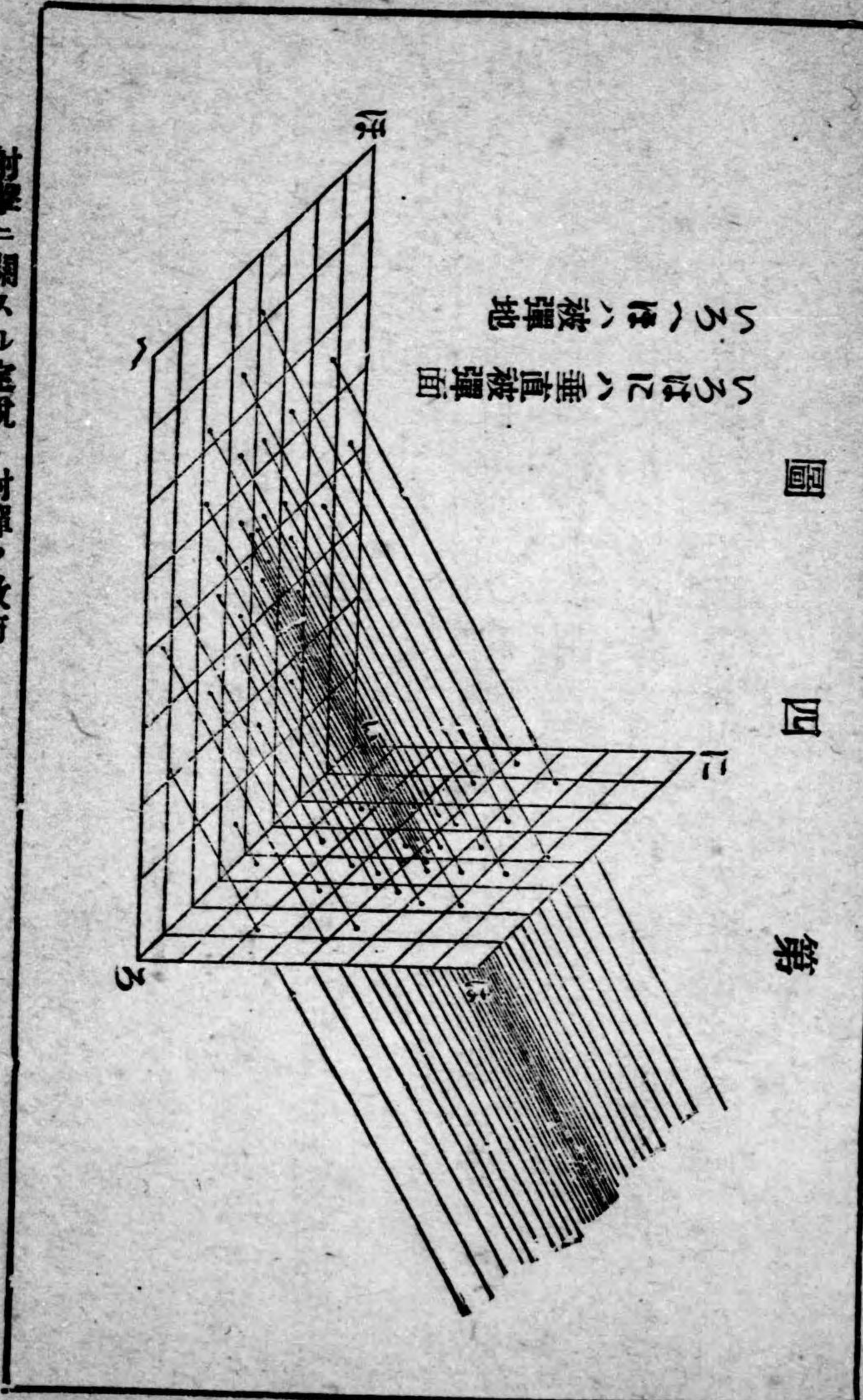
彈丸ハ諸種ノ原因

ニ依リ縦ヒ同一ノ銃ヲ用ヒ且銃身ノ位置ヲ同一ニシテ射撃ヲ行
フモ毎發其彈道ヲ同フセス故ニ多數ノ彈丸ヲ發射スルトキハ其
彈道ハ恰モ束藁ノ如キ曲圓錐形ヲ爲スモノニシテ之ヲ集束彈道
ト謂フ

第十九

垂直面ニ收容セラレタル集束彈ノ散布面ヲ垂直被
彈面ト謂フ此被彈面ノ高サハ概ネ其幅ヨリ大ニシテ彈數夥多ナ
ルトキハ彈著ハ中央ニ近ツクニ從ヒ益々稠密ナルモノトス第四圖
地上ニ於ケル集束彈ノ散布面ヲ被彈地ト謂フ其彈著疎密ノ景況
ハ垂直被彈面ニ等シクシテ其幅ハ距離ト共ニ増大スルモ其縱長
ハ距離ノ増加ニ伴ヒ落角愈々大トナルヲ以テ益々減縮スルモノト

圖 四 集

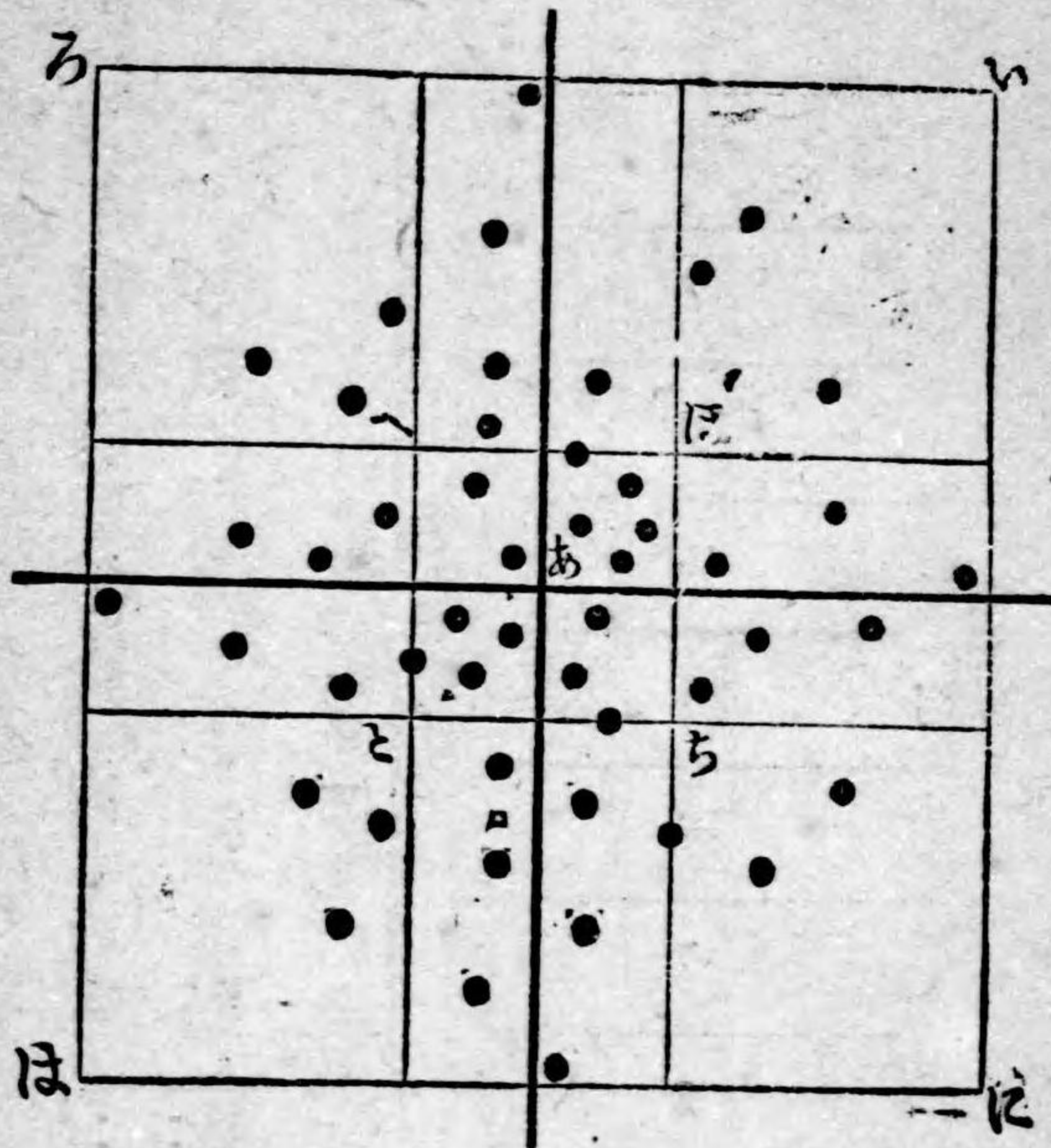


射撃ニ關スル定説 射彈ノ散布

ス其他被彈地ノ形狀ハ彈著地面ノ傾斜ニ依リテ變化ス
集束彈道益々縮小シテ垂直被彈面愈々狹小トナレハ命中從テ精確
ナリ而シテ距離ノ遠隔スルニ從ヒ其被彈面ハ愈々擴大スルヲ以
テ同一ノ大サヲ有スル目標ニ對シ命中ヲ期スルコト漸次困難ト
ナルモノナリ

第二十 垂直被彈面ノ總彈著ヲ上下左右平等ニ分ツヘキ縱
橫線ノ交點ヲ平均彈著點ト謂フ第五圖
平均彈著點ヲ中央トシ總彈著ノ半ヲ含ム部分ヲ垂直方向ニ區畫
スルトキハ其兩界線ハ平均彈著點ヨリ等距離ニ在ルモノトス此
兩界線間ノ長サヲ水平半數必中界ト謂フ又水平方向ニ區畫シタ
スイヘイハンズウヒツチウカイ

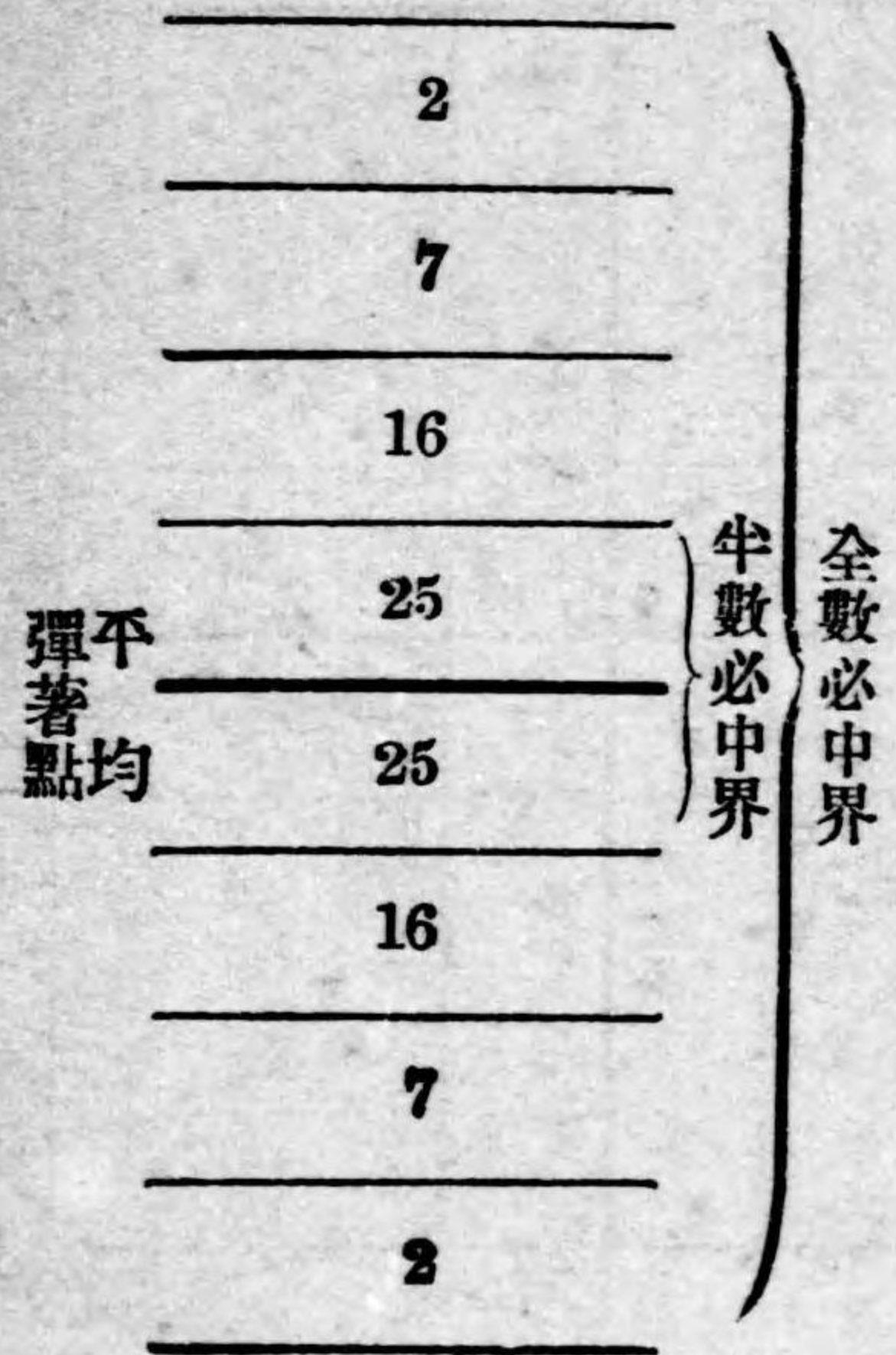
第五圖



いにハ全被彈面ノ高
いろハ全被彈面ノ幅
あハ平均彈著點
はちハ垂直半數必中
界
はへハ水平半數必中
界

ル場合ニ在リテハ之ヲ垂直半數必中界ト謂フ而シテ射彈ノ全數
スイキヨクハンスウヒツチウカイ
 ハ此兩半數必中界ノ各四倍ノ帶内ニ收容セラルルモノトス
 第二十一 多數ノ彈著ハ平均彈著點ニ對シ常ニ一定ノ關係

第六圖



備考
 圖ノ數字ハ發射彈
 百發ニ對スル命中
 彈數ヲ示ス

ニ散布スルモノニシテ垂直及水平方向ニ於ケル疎密ノ景況第六
 圖ノ如シ

第二十二 被彈面ノ景況ハ銃及彈藥ノ構造上ノ差違ニ依リ
 テ異ルノ外天候、氣象、目標ノ明暗並射手ノ教育程度、體力及
 精神ノ狀態、射撃速度等ニ依リ變化スルモノトス

第二十三 多數銃ヲ以テ一ノ目標ニ對シ同時ニ射撃スルト
 キハ單一銃ノ射撃ニ比シ彈道ノ集束ヲ増大シ從テ被彈面ヲ擴張
 ス然レトモ射撃散布ノ景況ハ尙單一銃ノ射撃ニ於ケルカ如シ

第二十四 射撃スヘキ物體ノ抗力同一ナルトキハ彈丸ノ侵
 徹量ハ彈丸ノ形狀、彈徑、金質、重量及命中ノ際ニ於ケル存速

ニ依リ差違アルモノトス

第四章 四四式及三八式騎銃ノ性能

第二十五 銃口前二十五米ニ於ケル存速ハ六百九十三米ニシテ其最大射距離ハ約四千米ナリ

第二十六 發射角、落角、半數必中界、危險界、經過時間、存速、彈道高、彈丸ノ侵徹量及氣溫、風速ニ關スル射距離ノ影響ハ附表第一乃至第四ニ之ヲ示セリ

第二篇 射撃教育

第一章 一般ノ要領

第二十七 射撃術ヲ訓練スルニハ射手ノ性質、體格ヲ審カニシ精密ノ注意ヲ以テ之ニ適應スル如ク教育シ徒ニ外形ノ齊一ヲ望ムヘカラス

射手ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サシメス射撃ノ嗜好心ヲ喚起セシムルハ其進歩上ニ著シキ效果アルモノトス故ニ教育者ハ特ニ此點ニ留意シテ教育スルヲ要ス

第二十八 射撃術ニ熟達セシムルハ主トシテ基本射撃ニ在リ故ニ此射撃ニ在リテハ諸種ノ手段ヲ盡シ命中ヲ良好ナラシメ

以テ銃器ト自己ノ伎倆トニ信賴セシムルヲ主眼トス蓋シ銃器ニ信賴シ自信カラ有スル兵卒ハ如何ナル狀況ニ在リテモ能ク精密ニ照準シ沈著シテ發射シ火戰ヲ有利ナラシメ得ルモノナレハナリ

第二十九 精神ノ沈著、姿勢ノ堅確並眼、心、指ノ一致ハ命中ヲ良好ナラシムルノ要素ナリ故ニ射撃豫行演習及實包射撃等ニ於テ特ニ此要素ヲ涵養スルニ勉ムルコト緊要ナリ
其他裝填ノ速カナルコト、照尺裝置ノ正シキコト、据銃ノ速カニシテ確實ナルコト、照準精密ニシテ且其時間ノ短少ナルコト等モ亦絶エス練習セシムヘキ要件ナリ

第二十 射撃教育ハ戰鬪射撃ニ於テ其完成ヲ期スヘキモノナリ故ニ此射撃ニ在リテハ指揮官及兵卒ヲシテ操典ノ規定ニ則リ射撃ノ諸法則ヲ適當ニ應用スルコトニ慣熟セシムルヲ主眼トス

第二十一 中隊附士官、准士官及下士ハ射撃ニ關スル定説ニ通曉シ射撃術ニ精熟スルノミナラス銃ヲ試射シ其特性ヲ認知シ且保存ノ景況ヲ檢知シ得ル伎倆ヲ備ヘサルヘカラス又兵卒ニハ射撃ニ關スル定説中直接銃ノ使用ニ必要ナル事項ヲ知得セシムルヲ以テ足レリトス

第二十二 中隊ニハ射撃掛トシテ下士二名ヲ置キ射撃ニ關

スル記録ヲ掌リ射撃場ノ設備、射撃材料ノ保存並彈藥及藥莢ノ出納ヲ擔任セシム

第二十三 聯隊本部附士官、下士ハ之ヲ中隊ニ配當シテ射撃ヲ行ハシムヘシ

第二章 射撃豫行演習

要則

第二十四 射撃豫行演習ハ射手ヲシテ据銃、照準及擊發ノ要領ヲ習得セシメ以テ射撃術ノ基礎ヲ爲シ且其伎倆ヲ進歩上達セシムルニ緊要ナルモノナリ故ニ教育ノ各期ヲ通シ絶エス之ヲ

行フヲ要ス

第二十五 射撃豫行演習ニ在リテハ立射、膝射、伏射ノ順序ヲ以テ教育シ次ニ胸墻及各種地物ヲ利用スル射撃動作ヲ教育スヘシ

第二十六 据銃及照準ノ演習ハ射手ノ熟スルニ從ヒ漸次目標距離ヲ伸ハシ終ニ各照尺相當距離ニ設置セル諸種ノ目標ニ對シ各種ノ姿勢ヲ以テ間斷ナク之ヲ行ヒ殊ニ射手ノ視力ヲ强健ナラシムル爲遠キ距離ニ在ル視エ難キ目標ニ對シ屢々演習スルヲ要ス

第二十七

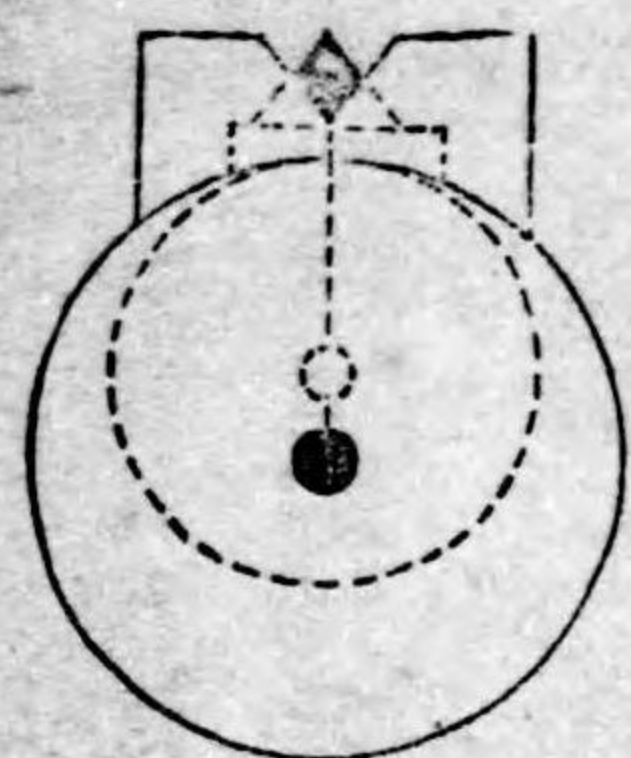
射撃豫行演習ト共ニ屢々體操ヲ實施シ殊ニ各種

ノ姿勢ニ於テ臂上ノ据銃法ヲ反覆練習シ以テ射撃ノ良成績ヲ得ルニ必要ナル關節ノ柔軟ト筋力ノ强健トヲ得シムヘシ

照準

第二十八 照準ハ如何ナル場合ニ在リテモ正確ナラサルヘカラス

第七圖



●ハ表尺脚直下ノ銃身軸
○ハ照星頂直下ノ銃身軸

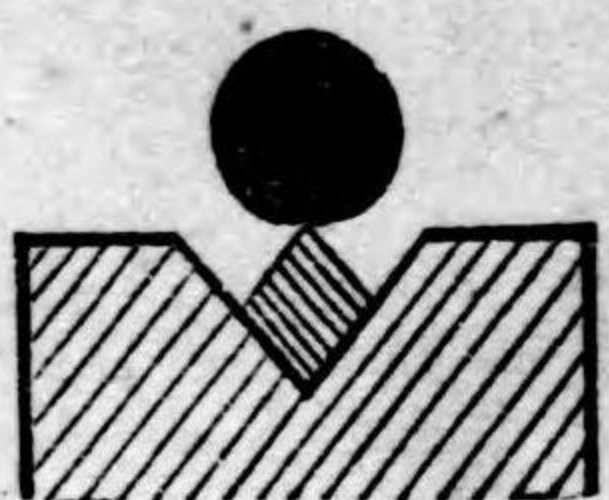
照準ヲ行フニハ距離ニ適當スル照尺ヲ採リ銃ヲ左右ニ傾クルコトナク照準線ヲ正シク照準點ニ向クルモノトス

照門ヨリ照星ヲ現ハスノ度ハ常ニ一定ナルヲ要ス即チ照星頂ヲ照門ノ中央ニシテ其兩縁ト水平ナラシムルモノトス第七圖

第二十九 初年兵ノ照準演習ヲ始ムル前ニ於テ銃ノ發射作用ヲ單簡ニ説示シ照準機ノ效用並照準ノ要領ヲ教ヘ且標的ノ説明ヲ爲スヘシ

第四十 初年兵ヲシテ照準ノ要領ヲ會得セシムルニハ銃ヲ托架上ニ安置セル砂囊上ニ置キ約十米ノ距離ニ在ル中徑零米○ニノ黒點ノ下際ニ正シク照準シタル景況第八圖ヲ知得セシム之カ

第八圖



爲要スレハ適宜身體ヲ支持セシメ以テ銃ニ觸ルルコトナク左眼ヲ閉チ右眼ヲ以テ床尾踵ノ後方ヨリ先ツ照門ノ兩縁水平ナルヤ否ヤヲ檢シ然ル後其中央ヨリ照星頂ヲ通視セシム

左眼ヲ閉ツルニ困難ナル者ニハ勉メテ之ヲ閉チ得ル如ク自習セシムヘシ然レトモ兩眼ヲ開キタル儘ニアラサレハ照準シ得サル者ハ之ヲ禁スルヲ要セス

第四十一 初年兵正シキ照準ノ景況ヲ知得セハ各自ニ砂囊上ニ在ル銃ニ就キ右眼ヲ床尾ノ後方ニシ頬ヲ床尾ニ觸ルルコト

ナク輕ク呼吸ヲ止メ照準ヲ爲サシム

教官ハ射手ノ照準ヲ檢查シ若誤アルトキハ之ヲ教示シ射手ヲシテ正シク照準シ得ルニ至ル迄之ヲ修正セシムヘシ

又照準ノ熟練ヲ圖ル爲各射手ヲシテ他ノ射手ノ照準シタル銃ヲ點檢シテ照準ノ正否ヲ發見セシムルヲ可トス

第四十二 照準ノ正否ヲ檢スル爲ニハ照準鑑査法ヲ行フ其法ハ銃ヲ砂囊上ニ置キ白紙ヲ貼リタル標的ヲ約十米ノ距離ニ設置シ射手ヲシテ助手ノ現ハス鑑査的即チ中心ニ細孔ヲ穿チタル中徑零米〇二ノ黒圓飯ニ細竿ヲ附シタルモノノ下際ヲ先ツ照準セシム

照準終レハ助手ハ鉛筆ヲ以テ鑑査的ノ中心ヲ記シ然ル後少シク之ヲ移動ス

射手ハ銃ニ觸ルルコトナク以前ノ照準線ヲ取り助手ヲシテ鑑査的ヲ動かサシメ其下際ヲ照準線ノ達スル點ニ導キ再ヒ其中心ヲ記サシム

此ノ如クスレハ多少隔リタル二點ヲ得ヘシ此離隔ノ大小ハ照準常ニ一樣ナルヤ否ヤヲ判別スルヲ得ルモノニシテ教官ハ更ニ助手ヲシテ其二點ノ中央ニ鑑査的ノ中心ヲ一致セシメ射手ノ照準シタル銃ヲ動カスコトナク其照準線ハ正シク鑑査的ノ下際ニ導カレタルヤ否ヤヲ點檢スルモノトス若ニ點ニテ不十分ナルトキ

ハ尙一回行ハシメ三點ヲ以テスルヲ可トス

第四十三

照準ノ際生シ易キ諸種ノ照準誤差ハ左ノ如キ結果ヲ來ス

照星ノ顯出過高第九圖甲ナルトキハ彈著ヲ高カラシメ之ニ反シ過低

第九圖乙ナルトキハ彈著ヲ低カラシム

照星ノ顯出一側ニ偏第九圖丙スルトキハ其偏シタル方ニ彈著ヲ偏セシム

シム

銃ヲ右或ハ左ニ傾ケテ照準スルトキハ彈著ハ銃ノ傾キタル方ニ偏シ且彈著ヲ低カラシム第九圖丁

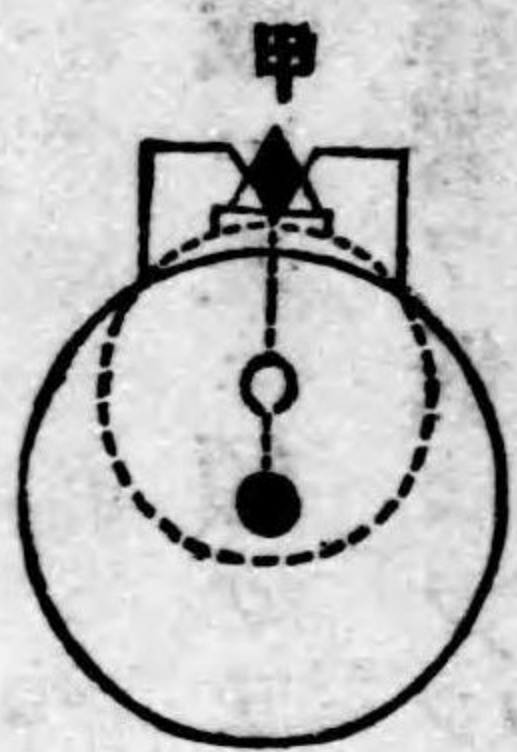
此等照準誤差ヨリ生スル結果ハケウヤクシヤゲキツツバウ狹窄射擊實包ヲ用ヒテ證明スル

ヲ便トス

第

九

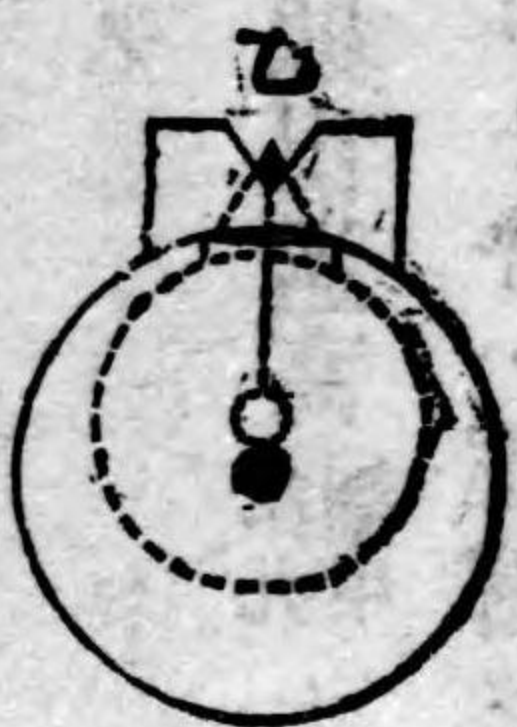
圖



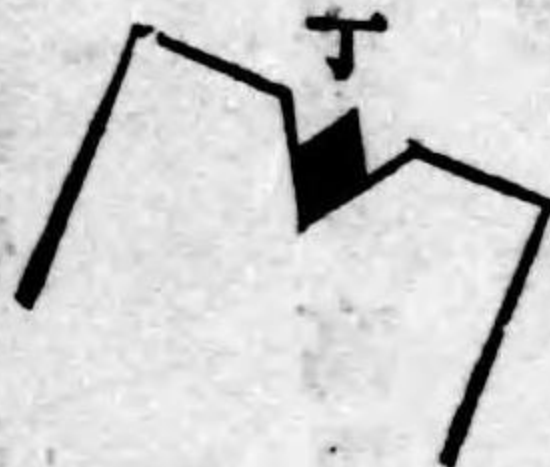
過高



偏倚



過低



銃ノ傾キタルモノ

●表尺脚直下ノ銃身軸
照星頂直下ノ銃身軸

射撃ノ方法

第四十四

射撃ノ姿勢ニ在リテハ身體ハ凝ルコトナク堅固ニ保チ自然ノ状態ニ在ルヲ要ス否ラサレハ銃ノ安靜ヲ得サルノミナラス照準頗ル困難ナリ而シテ被服及装具ノ身體ニ適合セサルモノモ亦射手ノ動作ヲ妨害スルモノトス

第四十五

立射ハ射撃術ノ要領ヲ兵卒ニ會得セシムルニ最モ容易ナルノミナラス教官ハ其動作ノ過失ヲ發見シ且之ヲ矯正スルニ便ナルモノトス

第四十六

立射ノ姿勢ニ於テ据銃、照準及擊發ノ動作ヲ教フルニハ最初托架ヲ用フルヲ可トス是銃ヲ托架ニ支フルカ爲射手ノ疲勞ヲ減シ得ルヲ以テ綿密ニ其姿勢動作ヲ矯正シ得レハナ

第四十七

立射ノ姿勢ニ在リテ据銃スルニハ銃口ヲ上クルコトナク兩手ヲ以テ體ニ近ク銃ヲ上ケ主トシテ右手ヲ以テ床尾飯ヲ肩ノ凹ミ即チ襟ト肩頭トノ間ニ確實ニ壓著シ同時ニ右肘ヲ殆ト肩ノ高サト等シクシ左肘ヲ成ルヘク垂直ニス

床尾飯ヲ壓著スル爲故ラニ肩ヲ上ケ或ハ前ニ出スヘカラス

既ニ据銃シタル後ハ右手ヲ緩メ又ハ床尾飯ノ位置ヲ動カスヘカラス銃把ハ通常右側面ヨリ握ルモノトス

教官ハ射手ノ据銃法ニ過失アルヲ發見セハ其姿勢ヲ變セシムルコトナク直ニ之ヲ矯正スルヲ要ス然ルトキハ容易ニ其過失ヲ理

解セシメ且矯正ヲシテ實效アラシムルモノトス

第四十八

立射ノ姿勢ニ於テ照準スルニハ据銃スルト共ニ左眼ヲ閉チ直ニ銃ヲ照準セントスル點ニ向ケ精密ニ照準ス此際頭ハ殆ト自然ノ位置ニ保チ床尾ハ頬ニ確實ニ接シアルヲ要ス

第四十九

遠キ距離ノ照尺ヲ採リテ照準スルトキハ照準線ヲ眼ノ高サニ導ク爲照尺度ノ増加ニ從ヒ漸次右肘ヲ下ケ床尾飯ノ位置ヲ下方ニスルヲ要ス然ルトキハ銃把モ亦漸次下方ヨリ一層堅ク握リ左手ヲ用心鐵ニ近ツケ又射手ノ體格ニ依リ左掌ヲ内方ニ向クルモ妨ナシ然レトモ何レノ場合ニ在リテモ頭ハ殆ト自然ノ位置ニ在ルヲ要ス

第五十 撃發ノ方法ハ命中ニ影響スルコト頗ル大ナリ故ニ教官ハ精密ニ之ヲ教ヘ且絶エス注意スルヲ要ス
初年兵ニ撃發ノ方法ヲ教フルニハ最初据銃スルコトナク之ヲ行ヒ其要領ヲ會得セシムヘシ

第五十一 引鐵ヲ引ク場合ニハ食指ノ運動ヲ臂ニ波及セシメサル爲右手ヲ以テ銃把ヲ堅ク握リ食指ノ第二節ヲ引鐵ニ鉤ケ其第一段ヲ壓シ次ニ食指ノ前部二節ヲ曲ケ徐カニ第二段ヲ壓シ微弱ノ力ニテ終ニ撃發シ得ルニ至ラシム
射手ノ引鐵ヲ壓スル爲方ヲ加フル要領ヲ熟知スルコト緊要ナリ若此要領ヲ十分了解セサル者アルトキハ教官ハ射手ノ食指上ニ

自己ノ食指ヲ添ヘテ引鐵ヲ壓シ其引方ヲ知得セシムヘシ又射手ヲシテ自己ノ食指ヲ以テ教官ノ食指ヲ壓セシメ以テ此要領ヲ了解シタルヤ否ヤヲ檢知スヘシ此引鐵ヲ壓スル適否ヲ容易ニ檢知スルニハ食指ノ前部二節ノ運動ニ能ク注意スルヲ可トス之カ爲教官ハ通常射手ノ左側前ニ位置スルヲ適當トス

第五十二 立射ノ姿勢ニ於テ撃發スルニハ据銃シテ照準ヲ始ムルト共ニ引鐵ノ第一段ヲ壓シ次ニ呼吸ヲ止メ照準點ニ正シク照準線ヲ指向シ得タルトキ發射シ得ル如ク漸次引鐵ノ第二段ヲ壓スルモノトス

第五十三 發射ノ後ト雖尙瞬間撃發ノ姿勢ヲ保チ次ニ左

眼ヲ開キ徐カニ食指ヲ伸ハシ銃ヲ構フヘシ是射手ノ精神沈著セサルト姿勢動作ノ確實ナラサルトヨリ生スル過失ヲ豫防シ且之ヲ矯正センカ爲ナリ

發射ノ瞬間ニ於ケル照準線ト照準點トノ關係ヲ注視シ發射後其照準線ノ達シタル方向ヲ確認シテ報告セシムルハ極メテ必要ナリ然レトモ若之ヲ確認シ能ハサルトキハ其不明ナルコトヲ報告セシムヘシ此教育法ハ射手ノ伎倆ヲ進歩セシムルニ頗ル有益ナルモノトス

射撃豫行演習ニ於テ据銃、照準及撃發ノ動作ニ熟セル者ト雖實包射撃ニ於テ往々免レサル過失ハ照準宜シキニ適シタルトキ急劇ニ引鐵ヲ壓シ或ハ撃發ノ際右眼ヲ閉チ頭ヲ動カシ或ハ肩ヲ進ムル等ナリ此過失ハ撃發ノ好機ヲ失センコトヲ顧慮スルト爆音ニ慣レサルト反動ニ抗セントスル等ヨリ偶然犯スモノニシテ射手ハ勿論教官ト雖之ヲ知ルコト困難ナリ然レトモ不發彈アルトキハ容易ニ發見シ得ルモノトス故ニ之ヲ矯正スルニハ基本射撃ノ際射手ニ覺知セラレサル如ク不發彈若ハ實包ヲ裝填シ或ハ全ク裝填セサル銃ヲ與ヘテ射撃セシメ以テ自ラ其過失ヲ悟ラシムヘシ

第五十四 膝射ノ姿勢ニ在リテ据銃スルニハ左前臂ヲ左膝上ニ立テ立射ノ如ク行フモノトス其他照準及撃發ノ動作ハ立射

ト異ルコトナシ

第五十五 伏射ノ姿勢ニ在リテ据銃スルニハ兩肘ヲ支點トシ胸ヲ少シク地ヨリ離シ左手ハ概ネ立射ニ於ケル如ク右手ヲ以テ銃把ヲ稍々下方ヨリ握リ床尾飯ヲ鎖骨ニ接セサル如ク壓著スヘシ其他照準及擊發ノ動作ハ立射ト異ルコトナシ

照尺ノ用法及照準點ノ選定

第五十六 表尺ヲ倒シタルトキ其脚ニ在ル照門ハ三百米ニ表尺ヲ起シタルトキ其下部ノ照門ハ四百米ニ遊標照門ハ表尺飯ニ刻セル數字ノ距離ニ相當ス而シテ四百米ノ照尺ヲ探ルニハ遊標ヲ全ク上方ニ移スヘシ

照尺ヲ裝スルニハ右手ノ拇指ト食指トヲ以テ遊標ノ兩端ヲ撮ミ食指ヲ以テ遊標駐鉤ユウヘウチウコウヲ壓シ遊標ノ上縁ヲ正確ニ表尺飯上希望ノ分畫ニ裝置シ表尺ヲ起スモノトス

照尺ヲ復スルニハ概ネ前ト反對ノ方法ニ依ル

第五十七

照尺度ト距離ト一致シタルトキハ通常命中セシメントスル點ヲ照準スヘキモノトス然レトモ照尺ノ分畫ハ氣溫攝氏十五度氣壓七百六十密米ニシテ天候靜穩ノトキ規正シタル銃ニ就キ定メタルモノナルヲ以テ單一銃ヲ以テスル射撃ニ在リテハ目標ノ中央ニ彈道ヲ導ク爲距離其他天候、氣象及銃ノ特別ナル性質等ヲ顧慮シ適當ニ照準點及照尺ヲ選ハサルヘカラス

第五十八 側方ニ移動スル目標ヲ射撃スルニハ目標ノ運動ニ從ヒツツ其前方ヲ照準スルモノトス而シテ其照準點ハ距離及目標ノ速度ニ依リ異ルモノニシテ其標準左ノ如シ

距離	目標種類				
	速歩徒歩兵	駈歩徒歩兵	常歩乘馬兵	速歩乘馬兵	駈歩乘馬兵
二〇〇 ^米	〇、四四	〇、七五	〇、五二	一、〇八	一、六〇
三〇〇	〇、七〇	一、一八	〇、八二	一、七一	二、五三
四〇〇	〇、九八	一、六六	一、一五	二、四一	三、五七
五〇〇	一、三〇	二、一九	一、五二	三、一八	四、七〇
六〇〇	一、六二	二、七五	一、九〇	三、九九	五、八九

備考	一 本表ハ目標ノ中央ヨリ前方ヲ照準スヘキ尺度ヲ示ス				
	七〇〇	一、九七	三、三二	二、三〇	四、八三
八〇〇	二、三五	四、〇〇	二、七五	五、七七	八、五三
九〇〇	二、七四	四、六三	三、〇九	六、七二	九、九三
一〇〇〇	三、一六	五、三五	三、七一	七、七七	一一、一八

此演習ハ三等射手ニハ施行セサルモノトス

第五十九 照準ノ修正法ハ銃ノ特別ナル性質其他天候、氣象ノ交感等ヨリ生スル偏避ヲ修正スル方法ヲ教フルモノニシテ偏避ノ諸因ヲ假想シテ問題ヲ與ヘ或ハ彈著點ヲ示シ之ニ應スル修正ヲ爲サシメ其適否ヲ検査スルモノトス

此演習ハ初年兵ニ在リテハ照準一般ノ要領ヲ會得シタル後行フモノトス

第三章 狹窄射擊

第六十 狹窄射擊ハ狹窄射擊實包ヲ以テ射擊ノ動作殊ニ照準及擊發ノ要領ヲ練習スル爲ニ行フモノトス

第六十一 狹窄射擊ハ營内又ハ練兵場等適宜ノ地ニ於テ基本射擊ニ準シ之ヲ行フモノトス

教官ハ絶エス射手ノ動作ニ注意シ誤アレハ直ニ之ヲ矯正シ且監的手及其他ニ對シ危害ヲ豫防スヘシ

第六十二 中隊長ハ初年兵ヲシテ少クモ左表ノ射擊ヲ行ハシメ略々射擊ノ要領ヲ會得スルニ至リ始メテ基本射擊ニ移ラシムヘシ

此射擊ニ在リテハ射擊ノ動作ヲ練習スルヲ主トシ徒ニ命中成績ノ良否ニ重キヲ置クヘカラス

習會順次	距離	採用照尺	姿勢	彈數	標的
一	一五 ^米	三〇〇 ^米	架上立、	五	圈的ヲ十分ノ一ニ縮 小シ其圈數ヲ五線ト シヨリ五ニ至ル點 數ヲ附スニ至ル點 照準點ヲ指示スル爲 標的面上ニ中徑零米 ○二ノ黑點ヲ附ス
二	一五	三〇〇	立、	五	
三	一五	四〇〇	膝、	五	
四	一五	五〇〇	伏、	五	

備 一 立射ニ於テ銃ヲ依托スルニハ三脚架ニ載セタル砂囊上又ハ階段状ヲ爲シ
考 タル托架等適宜ノモノヲ用フルモノトス

第六十三 中隊長ハ適當ノ方法ヲ以テ各年次兵ヲシテ此射撃ヲ行ヒ其伎倆ヲ練磨セシムヘシ特ニ基本射撃ノ成績不良ナル者ニハ此射撃ニ於テ綿密ニ其動作ヲ矯正スルヲ要ス

第六十四 狹窄射撃ハ三十年式騎銃ヲ用ヒ通常十五米ノ距離ニ於テ行フモノトス而シテ距離十五米ニ於ケル各照尺ニ應スル照準點左ノ如シ

照 尺	照準點	照 尺	照準點
三〇〇 ^米	下方〇、〇五 ^米 <small>標的ノ中心ヨリ 照準點ノ下位 迄ノ尺度ヲ示ス</small>	一〇〇〇 ^米	下方〇、三七 ^米 <small>標的ノ中心ヨリ 照準點ノ下位 迄ノ尺度ヲ示ス</small>

四〇〇	下方〇、〇七	一〇〇〇	下方〇、四五
五〇〇	下方〇、一〇	一二〇〇	下方〇、五四
六〇〇	下方〇、一四	一三〇〇	下方〇、六五
七〇〇	下方〇、一八	一四〇〇	下方〇、七六
八〇〇	下方〇、二四	一五〇〇	下方〇、八八
九〇〇	下方〇、三〇		

第六十五 命中ヲ確實ナラシムル爲射撃前必ス銃腔ニ塗油スヘシ若同一銃ヲ以テ連續射撃スル場合ニハ約五發毎ニ塗油スルヲ要ス

射撃ノ際彈丸或ハ木栓銃腔ニ滯フルコトアラハ之ヲ脱キ更ニ銃腔ニ塗油スヘシ

第四章 基本射撃

要 則

第六十六 基本射撃ハ戦闘射撃ノ基礎教育ニシテ之ヲ分チテ豫習及實習トス

豫習射撃ハ實包射撃ノ要領ヲ精密ニ練習シ且銃ノ特性ヲ知得セシメ實習射撃ハ豫習射撃ニ於テ習得シタル伎倆ヲ向上シ益々射撃術ニ習熟セシムルヲ目的トス

第六十七 基本射撃ハ小銃射撃場ニ於テ之ヲ行フ而シテ射撃當日中隊長以下出場者ハ悉皆射撃ヲ行フモノトス

第六十八 執銃本分ノ射手ハ必ス各自ノ銃ヲ以テ射撃スヘシ若修理等ノ爲之ヲ使用シ得サルトキハ中隊長ノ許可ヲ受ケ一時他ノ銃ヲ以テ射撃スルコトヲ得然ルトキハ射撃成績表及射撃手簿ニ其銃ノ番號ヲ記シ置クヘシ

第六十九 初年兵ニハ基本射撃ニ移ル前其豫習トシテ一、二回ノ空包射撃ヲ行ハシムルヲ可トス
空包射撃ヲ行ヒタルトキハ銃腔ヲ拭ヒタル後ニアラサレハ實包射撃ヲ行ハシムヘカラス

第七十 基本射撃ノ際執銃本分ノ射手ハ刀ヲ佩ヒ彈藥盒ヲ著タルモノトス

射手ノ等級及射撃ノ實施

第七十一 初年兵候補生、一年志願兵モ之ニ準ス及未熟ナル射手ハ悉ク三等射手トス三等射手ノ各習會ニ合格シタル者ヲ二等射手ニ、二等射手ノ各習會ニ合格シタル者ヲ一等射手ニ昇級セシム士官ノ等級ハ中隊長ノ報告ニ基キ聯隊長之ヲ定ム成績不良ノ射手ト雖上級ヨリ下級ニ降スコトナシ故ニ此ノ如キ射手ハ特ニ注意シテ教育スルヲ要ス豫備役、後備役ノ者ニハ射手ノ等級ヲ定ムルコトナシ

第七十二 基本射撃ハ射手ノ等級ニ從ヒ左表ノ順次ニ依リ行フヘシ

合格點數ヲ定メサル習會ハ射手ヲシテ精密ニ一點ヲ照準シテ射撃セシメ其彈著ノ景況ニ依リ自己ノ動作ノ適否ヲ知得セシムルヲ主眼トス

各級射手基本射撃習會表

種別	習會順次		距離	離姿	勢標	合格點數
	三等射手	二等射手				
一	一	一	二〇〇米	架上立	圓的	一七
二	二	二	二〇〇伏	圓的	圓的	一七

習		實							習	
八	七	九	八	七	六	五	四	三	二	一
五〇〇	四〇〇	四〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
依托伏	伏	依托伏	膝	伏	膝	伏	胸立射 依托	膝	膝	依托伏
散兵的	散兵的	散兵的	膝的	膝的	圈頭的	圈頭的	圈頭的	圈的	圈的	圈的
／	／	一三	人像一 一三	人像一 一六	九	一〇	一一	一六	一六	／
一一	一三	／	／	人像一 二〇	一一	一二	一三	一八	一八	／
一三	一五	／	／	人像二 一六	一四	一五	一六	二〇	二〇	／

考 備

一 三等射手豫習射擊ニ用フル圈的ニ在リテハ射手ヲシテ照準ヲ容易ナ
ラシムル爲標的面上ニ中徑零米二〇ノ黑點ヲ適宜附著スルヲ得
二 第一習會ハ通常連續シテ射擊セシムルモノトス

豫備役、後備役射擊習會表

豫備役		後備役		距離	姿勢	標的	合格點數	
會順次	後備役	豫備役	後備役				豫備役	後備役
一	一	一	一	二〇〇米	依托伏	圈的	一六	一五
二	二	二	二	二〇〇	膝	圈的	一六	一五
三	／	三	／	三〇〇	胸立射 依托	圈頭的	一二	／
四	三	四	三	三〇〇	伏	圈頭的	一〇	九

備考 一 第一習會ハ通常連續シテ射撃セシムルモノトス

第七十三 一習會ノ彈數ハ第一習會ハ三發其他ニ在リテハ五發ヲ定規トス

合格點數ヲ定メタル習會ニ於テ其規定彈數ヲ以テ合格シ得サル射手ニハ其成績ト伎倆トニ依リ三發以内ノ彈藥ヲ補給シ合格セシムルコトヲ勉ムヘシ然ルトキハ總射彈ノ成績ヲ通算シテ其合否ヲ決スルモノトス

第七十四 射手ハ教育年度中ニ其等級ニ應スル各習會ヲ終ヘサルヘカラス故ニ中隊長ハ彈藥ノ現數ヲ顧慮シ一、二習會ノ射撃ニ合格セサル者モ次ノ習會ニ移ラシムルコトヲ得

習會ノ大部ヲ終ヘタル後彈藥ニ剩餘ヲ生スヘキヲ知リタルトキハ若干習會ノ不合格者ヲシテ更ニ其習會ノ射撃ヲ行ハシム
三等射手ヲシテ實習射撃ニ移ラシムルニハ成ルヘク豫習射撃ノ各習會ニ合格シタル後ニ於テスヘシ

病氣其他ノ事故ニ依リ教育年度ノ中途ヨリ教育ヲ始ムル者ニ在リテモ勉メテ多ク基本射撃ヲ其順序ニ從ヒ實施シ殊ニ戰鬥射撃ニハ成ルヘク出場セシムルヲ要ス

一年志願兵ニシテ最初六箇月間隊列勤務ニ服スル者ニハ少クモ豫習射撃ヲ終了セシムヘシ

第七十五 同一射手ヲシテ一日ニ二習會ヨリ多ク射撃セシ

ムヘカラス

第七十六 未熟ノ射手ニハ一、二彈著ノ景況ニ依リ直ニ照準ノ修正ヲ行ハシムヘカラス是命中ノ不良ハ往々射手ノ伎倆ニ基因スルコト多ク修正ノ爲却テ命中ヲ不良ナラシムルコトアルヲ以テナリ

第七十七 射撃ノ成績不良ニシテ其原因射手ニアラスト認メタルトキハ監視士官自ラ其銃ヲ以テ試射ヲ爲スカ或ハ良射手ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

射撃當日ノ天候、氣象著シク成績ニ影響スヘキトキモ亦前項ニ準シ試射ヲ爲シ要スレハ其照準點ヲ一般ニ告グルモノトス

第七十八

天候、氣象著シク不良ナルトキ中隊長ハ當日ノ射撃ヲ中止スルコトヲ得但其成績ノ採否ハ其當時ノ狀況ニ依リ中隊長ニ於テ決定スヘシ

銃及彈藥ノ故障ニ依リ射撃成績不良ナルトキハ其成績ヲ取消シ更ニ彈藥ヲ支給シ射撃セシムルコトヲ得

射撃場ノ勤務及射手ノ動作

第七十九 射撃場ニ在ル演習部隊ノ高級古參ノ將校ハ射撃場一般ノ取締ニ任スルモノトス

第八十

中隊長ハ中隊ノ射撃實施ヲ管理ス
中隊長ハ標的ノ設置及材料ノ設備正シキヤ標的ノ修理適當ナル

ヤ否ヤヲ検査シ且監的勤務ヲ監視ス射撃終レハ射耗彈ト殘彈トヲ確實ニ調査シ要スレハ武器、彈藥、射手ノ成績及射撃教育ノ方法等ニ就キ將來ニ關スル意見ヲ聯隊長ニ呈スルモノトス

第八十一 中隊ノ射撃掛ハ中隊長ノ指示ニ從ヒ射撃場ノ設備ニ任ス即チ標的其他所要材料ヲ準備シ必要ナル書類ヲ射撃場ニ携行シ諸當番卒ノ分任ヲ定メ彈藥及藥莢ノ出納ヲ掌リ且射撃終ラハ射撃場ヲ整理スルモノトス

第八十二 射場勤務左ノ如シ

- 一 監視者トシテ發射地點毎ニ士官若ハ准士官已ムヲ得サレハ射撃ニ熟練ナル下士一名射手ノ傍ニ在リテ其動作ヲ監視シ特ニ彈藥ノ裝填、抽

出及銃ノ安全裝置ニ注意シ又射場ノ記號ニ對スル監的手ノ應答不確實ナルトキハ之ヲ正スヘシ

監視者ハ射手ノ精神沈著セサルヲ認ムルトキハ銃ヲ下サシメ若ハ其位置ヲ退キテ休憩ノ後射撃ヲ續行セシメ又命中著シク不良ナル射手ハ中隊長ノ許可ヲ受ケ當日ノ射撃ヲ中止セシムヘシ而シテ中止セシメタル習會ノ射撃ヲ更ニ行ハシムルトキハ合否決定ノ爲前成績ヲ通算セサルモノトス射撃終レハ射撃成績ノ草稿表ニ記入ノ誤ナキヤ否ヤヲ調査スヘシ

- 二 記點者トシテ下士若ハ上等兵一名射手ノ傍ニ位置シ監的

手ノ記號ヲ視テ第八十三ノ規定ニ從ヒ命中成績ヲ射擊成績ノ草稿表及射擊手簿甲第六表ニ墨汁ヲ以テ筆記ス若射手ノ報告監的手ノ記號ト相違スルトキハ直ニ之ヲ射手ニ注意シ又銃及彈藥ニ故障アリタルトキ及試射ヲ行ヒタルトキハ摘要欄ニ記入シ射擊終レハ射擊手簿ヲ射手ニ渡ス

三 交代掛トシテ下士若ハ上等兵若干名ヲ置ク

交代掛ハ各級ノ射手ヲ四乃至六名ノ群ニ分チ各群ヲ標的數ニ配當シ銃ノ檢查ヲ行ヒ特ニ銃腔ニ外物ノ附著シアラサルヤ否ヤヲ檢查シタル後各群ヲ各發射地點ノ後方約十歩ノ所ニ誘導シ射擊掛ヨリ彈藥ヲ受領シテ之ヲ各射手ニ分配スル

モノトス

各群ノ射擊進捗ニ伴ヒ交代ノ爲時間ヲ徒費セサル如ク新ニ射擊スヘキ射手ヲ前項ニ準シテ準備スヘキモノトス

各群毎ニ射擊ヲ終リタルトキハ射手ヨリ藥莢ヲ受領シテ之ヲ射擊掛ニ返納シ銃及彈藥盒ヲ檢查シテ之ヲ舊位置ニ誘導スルモノトス

第八十三

命中成績彈著登記法左ノ如シ甲第一表參照

合格點數ヲ定メサル豫習射擊ニ在リテハ其彈著位置ヲ彈痕圖ダシヨソフ的標的ヲ適宜ノ相似形ニ縮小シタルモノノ相當位置ニ登記ス

命中點數ハ亞刺比亞數字ヲ以テ記シ其傍ニ點ヲ附シテ中心ニ關

スル彈著ノ位置ヲ示ス
命中セサル射彈及跳彈ノ命中セシモノハ〇ヲ以テ示ス
合格ヲ示スニハ十ヲ以テシ不合格ニハ一ヲ以テス
中止若ハ不合格者ノ命中成績ハ括弧ヲ附シ以テ更ニ行フ同一習
會ノ成績ト區別スヘシ
射撃終レハ全射彈總點數ヲ合計シテ記入スルモノトス

第八十四 射手ノ動作左ノ如シ

射撃ハ各群ノ右翼ヨリ一名一發宛行フ然レトモ膝射、伏射、依
托射撃ニ在リテハ監視者ノ指示ヲ以テ連續シテ數發ヲ射撃セシ
ムルコトヲ得

射手ハ始メテ發射スヘキ位置ニ出テ姿勢ヲ取りタルトキ五發特
示シタルヲ裝填スルモノトス
者ヲ除ク

發射スレハ直ニ第五十三ノ報告ヲ爲シ銃ヲ構ヘ遊底ヲ開キテ藥
莢ヲ出シタル後之ヲ閉チ銃ヲ安全裝置ニシ立銃ニ復シテ點數及
彈著方向ヲ報告シ藥莢ヲ拾ヒテ列中ニ退ク若藥莢ニ故障アルト
キハ之ヲ申告スルモノトス

射撃全ク終リタル射手ハ發射地點ノ後方約十五歩ノ所ニ位置ス
裝填、抽出及銃ノ安全裝置ハ發射地點ニ於テ標的ニ對シ行フモ
ノトス

射手ハ最初發射地點ニ出テタルトキ射撃手簿ヲ記點者ニ出シ射

撃終リタルトキ之ヲ受領スルモノトス

發火セサル彈藥アルトキハ徐カニ遊底ヲ開キ彈藥ヲ回ハシテ新位置ヲ取ラシメ再ヒ射撃スヘシ此ノ如クスルモ發火セサルトキハ監視者ハ不發彈ト認定スヘシ

第八十五 監的勤務左ノ如シ

各中隊ハ監的長トシテ下士若ハ上等兵一名監的手トシテ每標的ニ上等兵一名 數標的ヲ設立スルトキハ二的ニ一名 兵卒二名若ハ三名ヲ出ス而シテ此勤務ハ二時間以上ニ亘ルトキハ通常之ヲ交代セシムルモノトス

監的長ハ射撃中監的手ノ動作ヲ監視シ諸規則ヲ嚴正ニ履行セシ

ムヘシ

上等兵ハ命中成績ノ報告ヲ正確ナラシメ兼テ射場ノ信號若ハ記號ニ注意スヘシ

監的手ノ一名ハ號旗手ニシテ號旗ヲ以テ命中ヲ報シ他ノ一名ハ治痕手ニシテ彈痕ヲ修理シ兼テ彈著點ヲ射手ニ示ス旋回シ若ハ繰出ス標的ヲ用フルトキハ第三ノ兵ハ標的ノ操作ヲ爲スモノトス

合格點數ヲ定メサル豫習射撃ニ在リテハ每發命中ヲ報スルコトナク同一射手ノ同一標的ニ對スル規定彈數ノ射撃ヲ終リタル後上等兵ハ其彈著ヲ彈痕圖ノ相當位置ニ記載シ之ヲ監的長ニ呈シ

且彈痕ヲ修理セシム監的長ハ彈痕圖ヲ適宜取纏メ射場ニ於ケル
監視者ニ送付スヘシ

數標的ヲ設立スルトキハ二標的毎ニ一ノ監的鏡ヲ備フ

數中隊同時ニ同一射擊場ニ於テ射擊ヲ行フトキハ高級古參ノ監
的長ハ監的勤務全般ノ取締ニ任スルモノトス之カ爲要スレハ士
官ヲ以テ監的取締ニ任スルコトアリ

第八十六 命中ヲ標示スル記號及方法左ノ如シ

命中記號ハ標的面上ニ記シタル數字ニ應スル點數ヲ號旗ヲ以テ
報スルモノニシテ命中點數十點ナルトキハ白旗ヲ左右ニ振り九
點ハ上下シ八點ハ直立シ七點ハ標的ニ對シ右斜ニ六點ハ左斜ニ

出ス五點以下ハ赤白旗ヲ用ヒ右ト同一ノ順序ニ從ヒ命中點數ヲ
標示ス

圈的及圈頭的ニ在リテ圈外ニ彈著シタルトキハ命中記號ヲ爲ス
コトナク唯彈痕ヲ修理シ彈著點ヲ指示シタル後治痕竿ヲ左右ニ
振り命中セサルコトヲ報ス

彈丸點數ノ限界線ニ命中シタルトキハ其高キ點ノ記號ヲ爲スモ
ノトス

彈丸標的ニ命中セサルトキハ單ニ治痕竿ヲ左右ニ振ルモノトス
號旗手ハ彈痕ノ修理終ルマテ號旗ヲ收ムルコトナシ但治痕竿ヲ
掩ヒ射手ノ目視ヲ遮ルコトナキニ注意スヘシ

跳彈ノ命中ハ彈痕ヲ修理シタル後命中セサルトキト同一ノ記號ヲ爲スモノトス而シテ跳彈ノ彈痕ハ通常圓形ヲ爲ササルモノナルヲ以テ監的手ハ精密ニ彈痕ノ形狀ニ注意スルヲ要ス

第八十七 標的ハ彈痕ノ調査困難ナルニ至ルマテ使用スヘカラス

第八十八 射擊ノ終始、中止並彈著ノ疑問等ヲ射場ヨリ監的ニ通スル爲記號板附圖第十一ヲ以テ左ノ記號ヲ爲スモノトス此記號ハ記號板及監的壕内數箇所ニ揭示シ置クヘシ

射擊開始前若ハ中止間ハ標的の面前ニ赤旗ヲ立テ射場ノ記號板ハ其裏面ヲ標的ニ向ハシム

射擊開始ハ記號板ノ表面ヲ標的ニ向ケ之ヲ左右ニ振り監的手ノ應答即チ赤旗ヲ左右ニ振りテ倒スヲ待チテ記號板ヲ立ツ

射擊中止ハ記號板ノ裏面ヲ標的ニ向ケテ左右ニ振り監的手ノ應答即チ赤旗ヲ左右ニ振りテ立ツルヲ待チテ記號板ノ裏面ヲ標的ニ向ケ植立ス此記號ノ終ニ記號板ヲ倒ストキハ射擊全ク終リタルヲ示ス

彈著疑問ハ標的ニ對シ記號板ヲ俯仰ス

右ノ外要スレハ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第八十九 射場ト監的トノ信號ニ電氣ヲ用フルトキハ次ノ如ク信號法ヲ定ム

電燈點火ノ色	信	號	摘	要
白	第一、第四、第七的等標的ノ番號ヲ示ス		信號器ハ白、赤、青ノ電燈三箇ヲ各別又ハ廿十箇宛點火シ得ルモノニシテ之ヲ三的ノ爲ニ一組宛設置シタルモノトス	此信號ヲ用フルニハ先ツ標的ノ番號ニ應スル信號ヲ爲シ次ニ所要ノ信號ヲ爲スモノトス
赤	第二、第五、第八的等標的ノ番號ヲ示ス			
青	第三、第六、第九的等標的ノ番號ヲ示ス			
白、赤、青	射擊始メ及射擊終リ			
白	射擊中止			
赤、白	彈著疑問ヲ示スヘシ			
赤、青	彈著再示ヲ再示セヨ			

監的ニ於テ信號不明ナルトキハ二本ノ號旗ヲ勉メテ赤ノミヲ標的面ヲ避クヘシ

前ニ植立シテ之ヲ示スヘシ

第九十 射場ト監的トノ通信ニ電話機ヲ用フルヲ可トス

射擊場ノ警戒

第九十一 射擊ノ際不慮ノ危害ヲ豫防スル爲左ノ事項ヲ守ルヘシ

- 一 射擊ヲ始ムル若干時間前ヨリ射擊場ニ赤旗ヲ掲ケ警戒ヲ爲スヘシ
- 二 射場ト監的壕トノ交通ハ特別ニ設置セル通路ニ依ルカ或ハ一時射擊ヲ中止セシメタル後ニ於テスヘシ
- 三 總テ噪カシキ所爲ハ射場ニ於テ嚴禁ス故ニ射場ト監的壕

- トハ聲音又ハ號音ヲ以テ通信スルヲ禁ス
- 四 必要ニ際シ監的手壕外ニ出ツルニハ各標的同時ニ赤旗ヲ左右ニ振り射撃ノ中止ヲ求メ射場ニ於テ確實ニ應答シ全ク射撃ヲ中止シタル後ニ於テスヘシ
- 五 同一射撃場ニ於テ異ル距離ヨリ同時ニ射撃スルヲ許サス
- 六 装填セシ銃ハ手ヨリ離スヘカラス
- 七 装填シアル銃ヲ他人ニ托セントセハ先ツ彈藥ヲ抽出スヘキモノトス若否ヲサルトキハ装填シアルコトヲ告知スヘシ
- 八 射撃場ニ於テ許可ナクシテ照準演習ヲ爲スヲ禁ス

第五章 戦闘射撃

要則

第九十二 戦闘射撃ハ實包ヲ以テスル部隊ノ戦闘教育ニシテ最モ重要ナルモノトス即チ指揮官ヲシテ諸種ノ戦況ニ應スル射撃指揮ニ慣熟セシムルト同時ニ兵卒ヲシテ射撃軍紀ヲ確守シ實戰的射撃ニ熟達セシムルヲ目的トス

第九十三 戦闘射撃ハ射撃ノ效果即チ射撃指揮ノ適否、射撃軍紀ノ張弛並射撃術ノ熟否ヲ事實的ニ證明シ得ルモノナルヲ以テ此射撃ノ計畫及實施ハ特ニ周到ナル注意ヲ必要トス然レト

モ此演習ハ經濟上及危險ノ顧慮等ヨリ屢々行フコト能ハサルノ
ミナラス諸種ノ戰況ノ變化ヲ任意ニ現ハスコト困難ナリ故ニ空
包又ハ擬製彈ヲ用ヒ此射撃ノ豫習並補足ノ演習ヲ行フコト緊要
ナリ

第九十四 戦闘射撃ハ通常分隊、小隊、中隊ヲ以テ之ヲ行
ヒ分隊、小隊ノ射撃ニ在リテハ中隊長、中隊ノ射撃ニ在リテハ
聯隊長之ヲ統監ス

第九十五 分隊ヲ以テ行フ戦闘射撃ハ射手ヲシテ散兵線ニ
於ケル協同動作ト射撃軍紀トニ慣レシメ且分隊長ヲシテ其職責
ヲ習得セシムルニ在リ

第九十六 小隊ヲ以テ行フ戦闘射撃ハ小隊長ヲシテ中隊長
ヲ輔佐シ射撃ノ應用ヲ適切ナラシメ又要スレハ獨斷ヲ以テ小隊
ノ射撃指揮ヲ完全ニ實施シ得ル如ク習熟セシムルト共ニ分隊長
ノ教育程度ヲ進メ適當ニ小隊長ヲ輔佐シ得ルノ能力ヲ養成スル
ニ在リ

第九十七 中隊ヲ以テ行フ戦闘射撃ハ中隊長以下各級指揮
官ヲシテ射撃指揮ニ熟練セシメ特ニ中隊長ヲシテ中隊ヲ手裏ニ
掌握シテ十分ナル火力ヲ發揚シ以テ火戰ヲ有利ニ實行シ得シム
ルニ在リ

第九十八 戦闘射撃ハ基本射撃ノ大部ヲ終ヘタル後之ヲ行

フヘキモノトス然レトモ初年兵以外ノ者ニ在リテハ適宜ノ時期ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第九十九 戰闘射撃ノ教育ニ在リテハ火戰中ノ某時期ヲ捉ヘテ射撃ニ關スル要件ヲ綿密ニ演練スヘキモノトス而シテ此演習ハ成ルヘク單簡ナル戰況ヲ基礎トシテ構成スルヲ要ス

第百 戰闘射撃ニ於テハ特ニ適切ナル計畫指導ト周到ナル準備トヲ緊要トス苟モ非實戰的ニ涉リ徒ニ命中效力ノ増大ヲ圖ルカ如キハ嚴禁トス

第百一 戰闘射撃ニ於テハ主トシテ中距離六百乃至千ニ在ル低キ散兵ニ對スル射撃ヲ演練セシムヘシ然レトモ其他ノ目標ニ對

シ又遠距離千以上稀ニハ近距離六百以內ニ於テモ此射撃ヲ行フヲ可トス但分隊ノ射撃ニ在リテハ概ネ八百米以內ノ距離ニ於テ行フモノトス

第百二 戰闘射撃ニ於ケル目標ハ實戰ノ景況ヲ現ハシ得ヘキ標的ヲ用フルモノニシテ其豫習及補足ノ爲行フ演習ニ在リテハ主トシテ幕的又ハ實員ヲ用フルモノトス

第百三 分隊、小隊ノ射撃ニ在リテハ中隊ノ幹部、中隊ノ射撃ニ在リテハ聯隊内ノ將校ハ勉メテ出場スヘキモノトス

第百四 戰闘射撃ニ於ケル服裝ハ軍裝トス但執銃本分ノ者ハ通常刀及手套ヲ除ク

實施

其一 要旨

第百五 戰團射撃ノ設計ハ目標、射撃位置、照尺等ノ變化スル毎ニ射撃指揮及銃ノ用法ノ適否ヲ判定シ得ンカ爲其命中成績ヲ精密ニ調査シ得ル如クセサルヘカラス而シテ目標ハ演習ノ目的ニ從ヒ固定シ或ハ隱現セシムルモノトス

第百六 統監ハ所要ノ補助官ヲ使用シ主トシテ射撃ノ效果ヲ秤量シ得ヘキ左ノ諸件ヲ正確ニ調査セシメ且部隊射撃命中效力表附表第五ニ對照シ以テ射撃ノ指揮及銃ノ用法ノ適否ヲ檢知シ戰術殊ニ射撃ニ關スル事項ニ就キ詳細ナル講評ヲ與フルモノトス

甲第四表參照 又其豫習及補足ノ爲行フ演習ニ在リテモ時々之ニ準シテ講評スヘキモノトス

- 一 射撃部隊ノ景況及地形ノ利用
- 二 目標ノ狀態及其指示法
- 三 距離、照尺要スレハ照準點
- 四 發射彈數及射撃速度
- 五 命中成績
- 六 彈著ノ觀測

第百七 統監ハ戰團射撃場一般ノ取締ニ任ス
統監ハ一名若ハ數名ノ士官ヲ監的取締ニ任シ監的勤務者ヲ監督

シテ標的ノ設置、運轉並成績調査等ヲ正確ニ履行セシメ特ニ危害ノ豫防ニ注意セシムヘシ但分隊ノ射撃ニ在リテハ下士ヲシテ監的取締タラシムルコトヲ得

第百八

危害ヲ豫防スル爲左ノ事項ヲ守ルヘシ

一 射撃中赤旗ハ射撃ノ終始及危険ノ記號ニノミ用フルモノトス

二 射撃ヲ行フトキハ危害ヲ避クル爲射撃方向及目標位置ノ選定ニ關シ特ニ注意セサルヘカラス而シテ射撃中ハ危険地界ニ通スル諸通路ヲ閉鎖シ遠望シ得ル地點ニ赤旗ヲ掲ケ且必要ナル地點ハ嚴密ニ警戒スルヲ要ス危険地界ノ幅員ハ平

坦地ニ在リテハ射撃方向ニ約四千米射線ノ左右ニ各、約千米トス

三 通路閉鎖等ノ爲使用スル監視兵ハ必ス危険地界外ニ位置セシムルヲ要ス

四 監的勤務者ハ射撃間監的壕内ニ入ルモノトス若監的壕ヲ設ケサルトキハ危険ナラサル地ニ避ケシムルヲ要ス

五 射撃ヲ開始セントスルトキハ射場ニ示號標ヲ植テ監的壕ニ於テハ直ニ赤旗ヲ左右ニ振り勤務者悉ク壕内ニ入りタル後赤旗ヲ倒シ其應答ヲ確實ニス而シテ射撃中ハ常ニ示號標ヲ植テ射撃終了ノ際之ヲ倒スモノトス

六 射撃終リタル後或ハ射撃中故障ヲ生シタルトキト雖射場ト監的トノ連絡確實ニ通シタル後ニアラサレハ監的手ヲシテ壕外ニ出テ又ハ危險地界内ニ入ラシムヘカラス

七 通信ノ爲喇叭ノ號音ヲ用フルヲ禁ス

八 射撃ノ時日並射方向等ヲ地方官憲ニ豫報スルコト其他演習場ノ警戒ニ關シテハ陸軍演習場規則ニ據ルヘシ

第百九 射場ト監的トノ通信ニハ電話機ヲ用フルヲ可トス

其二 射撃指揮

第百十 射撃指揮ノ適否ハ部隊射撃ノ效果ニ著大ノ影響ヲ及ホスモノトス故ニ指揮官特ニ將校ハ之ヲ練習スヘキ凡百ノ機

會ヲ求メテ其精熟ヲ圖ラサルヘカラス而シテ射撃指揮ヲ完全ナラシムルニハ射撃ニ關シ操典ノ規定セル諸制式及法則ヲ理解シ且以下示ス所ノ諸件ヲ知悉スルコト最モ緊要ナリ

第百十一 射撃指揮ト相俟テ射撃ノ效果ヲ偉大ナラシムル爲緊要ナルモノハ射撃軍紀ナリ抑、射撃軍紀トハ戦闘動作中射撃ニ關スル命令ト動作トヲ確實ニ實行シ銃ノ使用法ヲ嚴守スルヲ謂フ

第百十二 射撃ニ方リテハ己ニ對スル正面ニ射撃スルヲ最モ容易ナリトシ其左右各、十五度以上ニ銃ヲ指向シテ發射スルハ困難ナリ故ニ射撃スル部隊ノ正面ハ目標ニ對スル方向ト成ル

ヘク直角ナラシムルコト肝要ナリ

第百十三 每發必中ヲ期シテ射撃セシムルハ散兵ニ要求スヘキ要件ナリ而シテ散兵ハ示サレタル目標ノ幅員中己ニ對向セル部ニ於テ比較的明瞭ナルモノヲ射撃スルモノトス

第百十四 敵ノ散兵線ノ後方ニ近ク有利ノ目標現出スルモ更ニ之ニ對シテ銃ヲ指向セシメサルモノトス是散兵線ニ對向セラレタル集束彈ニ依リ通常併セテ效力ヲ收メ得ヘケレハナリ

第百十五 機關銃ニ對シテハ其運動中或ハ陣地進入若ハ撤去ノ際等ニ於テ射撃スルヲ最モ有效ナリトス又陣地ニ在リテ遮蔽セル機關銃ト雖其所在ヲ確認シ得ルトキハ中距離ニ在リテモ

尙效力ヲ期シ得ルモノトス

第百十六 集束彈ノ稠密部ヲ目標ニ導カンカ爲採用セントスル照尺度カ若照尺分畫ノ中間ナルトキハ其照尺度ニ近キ照尺ヲ以テ射撃スルモノトス

第百十七 射撃效力觀測ノ爲ニハ目標ノ前後ニ反跳スル彈丸ノ多寡ニ注意スルコト緊要ナリ而シテ其觀測ノ難易ハ主トシテ目標所在地ノ地形ニ關スルモノトス

低キ目標ニ對シテ全跳彈ノ約二分の一、高キ目標ニ對シテ約三分の一ヲ目標ノ直前ニ認ムルヲ得ハ其射撃ハ良好ノ景況ニ在ルモノトス

第一百十八

躍進スル敵ニ對シテハ通常其運動中ニ照尺ノ變換ヲ行フコトナク射撃ヲ繼續シ敵ノ停止ヲ待テ之ヲ改装スルヲ有利トス又前進シ來ル騎兵ニ對スルトキ七百米 三十年式騎銃ニ在リテハ六百米 以內ニ於テハ照尺ノ變換ヲ要セサルモノトス

延長セル散兵等橫廣ナル目標ニ對シテハ通常左右ニ於ケル照準ノ修正ヲ要セサルモ狹小面ノ密集部隊又ハ陣地ニ在ル砲兵ノ各砲若ハ機關銃ノ各銃ニ對シ射撃スルトキ要スレハ之ヲ修正ヲ忽ニスヘカラス是集束彈ヲ目標外ニ逸出セシムルノ虞アルヲ以テナリ而シテ此修正ヲ行フニハ射線ノ方向ニ關スル風向、風速等ニ注意スルヲ要ス

第一百十九

夜間或ハ濃霧ノ際ノ如キ直接精密ニ照準シ能ハサルトキニ於テモ銃ヲ地面ト平行ニシ且正確ニ据銃スルトキハ最近距離ニ於テ大ナル目標ニ對シ多大ノ效力ヲ收メ得ルモノトス

又胸牆ノ火線及頂斜面ニ二橫木ヲ概ネ平行シテ固定シ銃ニ必要ノ方向及傾度ヲ與ヘ得ル如ク之ニ溝ヲ鑿開スル等胸牆上ニ銃ヲ依托スヘキ設備ヲ爲スカ或ハ假標ヲ照準スル等適宜ノ方法ヲ設ケ以テ豫メ射撃スヘキ地點ニ彈道ヲ導ク如クスルトキハ有效ナル射撃ヲ施行シ得ルモノトス此方法ハ成シ得レハ晝間ニ於テ豫メ實包射撃ヲ以テ其適否ヲ檢知シ置クヲ可トス

第六章 特別射撃

第二百二十 特別射撃ハ幹部及兵卒ヲシテ益々射撃ニ精熟シ併セテ射撃ノ嗜好心ヲ喚起セシムル爲ニ行フモノトス而シテ其方法ハ概ネ第二篇第四章ニ準シ臨時之ヲ定ムルモノトス
幹部ハ最良ノ模範ヲ示シ兵卒ヲ教育セサルヘカラサルヲ以テ特ニ此射撃ヲ屢々行ハシムヘシ
此射撃ハ聯隊、中隊内ニ於テ施行スルモノトス
此射撃成績ハ射撃成績表並射撃手簿ニ登記スヘキモノトス

第七章 乘馬射撃

第二百二十一 乘馬射撃ノ目的ハ下士、兵卒ヲシテ馬上ニ於ケル射撃ノ要領ヲ會得セシムルニ在リ
此射撃ニ在リテハ實包ヲ用フルコトナク空包ヲ以テ行フニ止ムルモノトス
第二百二十二 馬上ニ於テ照準ヲ爲スニハ小勒韁ヲ放チ大勒韁ノ間ニ在ル無名指ヲ脱シ小指ノ外ヨリ大勒韁ヲ其端末マテ左手中ニ滑ラシ兩手ヲ以テ銃ヲ上ケ照準ス
第二百二十三 擊發ノ操作ハ徒歩ニ於ケル射撃ニ同シ但發射

後兩手ヲ以テ銃ヲ下ケ右手ヲ以テ大勒韁ノ端末ヲ執リ馬口ニ大勒銜ノ輕ク感スルマテ之ヲ引キ構ヘ銃ノ姿勢ニ復ス
 乘馬射撃ニ於テ馬若驚動シ其位置ヲ變セントスルトキハ左手ニ大勒韁ト銃トヲ保持シ右手ニテ韁ヲ執ルコトヲ得

第八章 拳銃射撃

第二百二十四 二十六年式拳銃ノ各距離ニ應スル照準點左ノ如シ

距離	照準點	命中セシメントスル點ノ下方	距離	照準點	命中セシメントスル點ノ下方
一〇米			五〇米		
		〇、一四			〇、四八

二〇	〇、二六	六〇	〇、四三
三〇	〇、三六	七〇	〇、二七
四〇	〇、四五	八〇	〇、〇〇

第二百二十五 現役、豫備役、後備役士官以下拳銃携帯者ハ拳銃射撃ヲ行フモノトス

第二百二十六 拳銃射撃ハ營内若ハ練兵場ニ設クル狹窄射撃場ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第二百二十七 拳銃射撃ニ於ケル危害ノ豫防法ハ概ネ騎銃射撃ニ準スルモノトス

第二百二十八 照準及撃發ノ操作左ノ如シ

「構へ銃」ノ姿勢ヲ取り右腕ヲ輕ク曲ケ銃ヲ目標ニ向ケ食指ノ第二節ヲ引鐵ニ懸ケ頭ヲ傾クルコトナク照準ス此際身體ヲ堅固ニ保ツヲ要スト雖決シテ凝固ナラシムヘカラス肩及肘ヲ特ニ然リトス

正シク照準シタル後騎銃ト同一ノ要領ニ從ヒ擊發ス

第二百二十九 彈痕ノ修理ハ每發之ヲ爲スヲ要セス又命中ニ關スル記號ハ特別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第二百三十 拳銃射撃ハ左表ニ依リ施行スヘシ但豫備役、後備役ノ者ニ在リテハ第一、第二習會ノミ施行スルモノトス

習會 順次 距離 姿勢 標的 彈數

一	二〇 ^米 架上立、	圈	的	六
二	二〇立、	圈	的	六
三	三〇立、	圈	的	六

第九章 距離測量

第二百三十一 迅速且正確ナル距離ノ測定ハ射撃效力ヲ發揚スルノ基礎ナリ故ニ兵卒殊ニ幹部ハ絶エス之ヲ練習シ之ニ熟達セサルヘカラス蓋シ射手ノ伎倆精熟スルニ從ヒ射彈ノ集束益々良好トナルカ故ニ僅少ノ誤測ト雖射撃效力ヲ減殺スルコト著大ナレハナリ

第二百二十二 距離測量法中最モ多クノ場合ニ適用スヘキモノハ目測法ナリ

距離測量ハ各種ノ地形、天候及姿勢ニ於テ諸種ノ目標ニ對シ練習セシムルヲ要ス

第二百二十三 兵卒ハ通常近距離ヲ目測シ得ルヲ以テ足レリトス然レトモ技能之ニ適スル者ニ在リテハ特ニ中距離以上ノ目測ヲ練習セシムルヲ可トス

幹部ハ一般ニ近距離、中距離ノ目測ニ熟達シ尙遠距離ヲモ目測シ得ルヲ要ス

距離測量ノ熟達ハ絶エス之ヲ行フコトニ依リテ維持セラレヘキ

モノトス

第二百二十四 射撃場、練兵場及屯營附近ニ於テ諸種ノ地點

ニ目標ヲ設置シ或ハ適當ノ地物ヲ目標ト爲シ豫メ其距離ヲ測定シ置キ以テ測量演習ノ補助ト爲スヲ可トス而シテ其各目標及距離等ハ之ヲ略圖距離測量ト稱スニ調製シ置クヲ便トス

第二百二十五 步測ニ依リ距離ヲ測量スルニハ先ツ自然ノ步

法ヲ以テ百米ノ長ヲ歩ミテ得タル複步數二歩ヲ以テ一複歩ト謂フヲ知得セシ

メ此複步數ト測量スヘキ地上ヲ歩ミテ得タル複步數トヲ比較シ其距離ヲ定ムルモノトス

騎測ハ通常經過時間ト步度トニ依リ距離ヲ測定スルモノトス

第二百二十六 音響波動ノ速度ヲ利用シ距離ヲ測量シ得ルコトアリ即チ天候平穩ノ場合ニ於テ音響ハ一秒時間ニ約三百三十三米ニ達スルモノナルヲ以テ三秒時間ニ一ヨリ十マテノ數ヲ連呼シ得ル如ク口調ヲ練習スルトキハ一箇ノ呼唱ハ百米ニ相當スルヲ以テ例ヘハ發光ヲ見テヨリ音響ノ耳ニ達スル間ニ要スル時間ヲ口調ニ依リ測ルトキハ其距離ヲ知ルヲ得ルモノトス

第二百二十七 目測ハ地上ノ長ト目標視像ノ景況トニ依リテ距離ヲ判知スルモノニシテ概ネ左ノ方法ニ依ル

一 數回ノ演習ニ依リ記憶シタル地上ノ距離或ハ目前ノ某既知距離ヲ以テ測量スヘキ距離ニ比較シテ測定スルカ或ハ測

量スヘキ距離ノ中央ニ一點ヲ定メ此點ニ至ル距離ヲ目測シ之ヲ倍シテ測定距離ト爲ス

二 一定距離ニ在ル目標視像ノ明暗大小ヲ記憶シ以テ測量スヘキ距離ニ在ル目標及其附近ノ視像ニ比較シ距離ヲ判知ス第一ノ方法ハ中間ノ土地ヲ通視シ得ルトキニアラサレハ適用シ得サルモ比較的正確ニ測量スルヲ得之ニ反シ第二ノ方法ハ何レノ場合ニモ適用シ得ヘシト雖其結果稍々不正確ナルヲ免レス蓋シ同一ノ距離ニ在ル同一ノ物體モ諸種ノ原因ニ依リ其視像ヲ異ニスレハナリ故ニ以上ノ諸法ヲ巧ニ應用スルトキハ迅速且正確ニ距離ヲ判知シ得ヘシ

第二百二十八 土地ノ形狀、目標ノ位置、天候、氣象其他種々ノ原因ハ目視ニ差異ヲ生セシムルモノニシテ其場合左ノ如シ

一 近ク誤リ易キ場合

天候晴朗ナルトキ、測手太陽ヲ背ニセルトキ、目標其背後ノ物色ノ關係ニ依リ鮮明ナルトキ、遠隔セル明瞭ナル獨立物體、水面、平坦地、波狀地、特ニ中間ノ土地ヲ通視シ得サルトキ等

二 遠ク誤リ易キ場合

炎暑ノトキ、測手太陽ニ面セルトキ、目標其背後ノ物色ノ關係ニ依リ鮮明ナラサルトキ、曇天、濃霧、曉暮、森林内及

狹長ノ土地等

概シテ實戰ニ於テハ目測一般ニ近キニ失シ又低キ姿勢ニ在リテ目測スルトキハ遠キニ失スルヲ常トス

第二百二十九

目測法ヲ教フルニハ測點ヨリ諸方向ニ二百、四百及六百米ノ距離ニ標兵ヲ出シ諸種ノ動作ヲ爲サシメ各自視ル所ニ從ヒ其地上距離及目標視像ノ景況ヲ記憶セシムヘシ中距離以上ニ在リテモ之ニ準ス

此演習ニ於テ距離ノ遠近ニ從ヒ地上ノ同一長度及目標視像ノ變化スル景況ヲ教示スヘシ此距離ノ記憶ヲ檢知スル爲ニハ各自ノ目測セル二百米或ハ四百米等ノ距離ニ標兵ヲ位置セシメ或ハ單

ニ此距離ヲ地上ニ指示セシメ以テ其適否ヲ檢スヘシ此演習ヲ反覆行ヒタル後ハ未知距離目測ニ移ラシム

未知距離目測演習ノ初ニ在リテハ已知距離ニ標兵ヲ置キ目測スヘキ標兵ニ比較シテ目測ヲ容易ナラシメ次テ諸種ノ距離、地形及景況ニ於テ各種ノ目標ニ對シ特ニ低キ姿勢ヲ以テ速ニ距離ヲ目測スルコトニ慣レシムヘシ

目測演習ノ爲距離測量圖ヲ用フルトキハ毎次ノ演習ヲシテ大ニ單簡ナラシムルヲ得ヘシ若此準備ナキトキハ演習實施ノ都度測繩若ハ步測等ヲ以テ距離ヲ實測スルカ或ハ器械ニ依リ又ハ地圖ヲ以テ距離ヲ檢知スルヲ要ス

第一百四十 適宜ノ時期ニ於テ聯隊長ハ士官、准士官、下士ノ距離測量ヲ檢閱スヘシ

第三篇 銃ノ命中試験

第一百四十一 命中試験ハ新ニ銃ヲ中隊ニ支給セラレタルトキ或ハ大ニ修理ヲ加フルカ若ハ命中不良ノ銃アルトキ其銃ノ命中精度ヲ點檢スル爲中隊ニ於テ行フモノトス

第一百四十二 命中試験ニハ命中試験的附圖第六ヲ用ヒ靜穩ノ天候ヲ選ヒ良射手ヲシテ之ヲ行ハシム射撃ノ際ハ勉メテ誤差ノ原因ヲ避ケ照準機ノ掩蔽ヲ設ケテ太陽ノ光線ヲ防キ絞鍊ハ正シク

之ヲ緊著スルヲ要ス
 射手ハ二百米ノ距離ニ於テ銃ノ下帶ノ下部ヲ托架上ニ托シ黒點
 ノ下際ヲ照準シ連續五發ヲ射撃ス但各彈ノ彈著ヲ指示スルコト
 ナシ

此射撃ニ於テ彈著悉ク標的面ノ矩形内ニ收容セラレ且縱零米四
 五橫零米四〇ノ間ニ集合スレハ其銃ハ良好ナルモノニシテ其命
 中成績疑ハシキモノハ他ノ良射手ヲシテ更ニ射撃セシメ尙命中
 セサルトキハ不良銃ト認定シ其原因ト認ムヘキモノアレハ之ヲ
 記シ彈痕圖ヲ添ヘ修理或ハ交換ヲ請求スヘシ

第四篇 射撃材料

第一章 標的

第四百四十三 標的ノ種類左ノ如シ

- 一 圈的カク
- 二 人像的ジンゾウ
- 三 圈頭的カント
- 四 散兵的サンペイ
- 五 機關銃的キカン
- 六 騎兵的キ

七

砲車的

八

命中試驗的

第四百四十四 圈的ハ高さ一米六五、幅一米ノ標的板ノ中央ニ同心ノ十圈ヲ畫キ各畫帶ニ外方ヨリ逐次1乃至10ノ番號ヲ附ス其10ハ半徑零米〇五ノ圓ニシテ其他ノ圈ハ中心ヲ遠サカルニ從ヒ圈線ノ外縁ニ於テ半徑ニ各零米〇五ヲ增加ス而シテ外圍線ノ太サハ零米〇一トシ其他ノ圈ハ監の手ヨリ認メ得ルヲ度トス8及9ノ圈帶ハ之ヲ黑色ニ塗り此二圈帶ト10ノ圓内トヲ合シテ黑環ト稱ス又標的ノ中央ニ於テ黑環ヲ除キ幅零米〇六ノ垂直黑線ヲ畫キ其各圈ト交會スル部分並8及9圈帶ノ接際ハ之ヲ白色

ニス 附圖 第一

第四百四十五

人像のハ分チテ立的、膝的、伏的及頭的ノ四

種トス其尺度ハ附圖第二ニ從フヘシ

第四百四十六

圈頭のハ圈的ノ垂直線ヲ除キ外圍線ノ太サヲ

其他ノ圈線ニ等シクシ8、9ノ圈帶ヲ塗ルコトナク圈ノ中心ニ頭的ノ下端中央ヲ一致セシムル如ク之ヲ畫ク而シテ其人像内ノ圈線ハ之ヲ白色ニス 附圖 第三

第四百四十七

基本射擊ニ用フヘキ膝的ニ在リテハ圈的ト同

形ノ標的板ノ中央ニ膝的ヲ畫キ其上下兩端ニ水平線ヲ畫ク而シテ人像及各區畫ニ點數ヲ附シタルモノトス 附圖 第四

第四百四十八 散兵のハ高サ一米六五、幅二米ノ標的ニシテ中央ニ各零米四〇ノ間隔ヲ取リテ三箇ノ伏的ヲ畫キ中央的ノ周圍ニハ二箇ノ方形ヲ畫ク其内部ノ方形ハ高サ零米六五、幅零米五〇トシ外部ノ方形ハ高サ一米三〇、幅一米トス第五附圖

第四百四十九 機關銃的、騎兵的、砲車的ノ尺度ハ附圖第七乃至第九ニ從フヘシ

第四百五十 命中試験的ハ高サ一米六五、幅一米ノ標的ニ零米一〇ノ方眼ヲ畫シ標的ノ中央ニ縱零米九八、橫零米五〇ノ長方形ヲ畫キ其下邊ノ中央ヨリ上方零米三五ヲ中心トシ中徑零米三〇ノ黑點ヲ附シ圈的ノ如ク垂直線ヲ畫クモ、トス第六附圖

第四百五十一 圈頭的、散兵の並基本射擊用膝的ニ畫キタル人像ハ黑色ニ塗リ其他ノ部分ハ灰白色ニ塗ルモノトス

戰鬪射擊ニ使用スル標的ハ通常茶褐色ニ著色スルモノトス

第四百五十二 戰鬪射擊ニ於テハ通常第四百四十五及第四百四十九ニ示セル標的ヲ使用スルモノトス其他戰場ニ於ケル敵兵ノ狀態ニ模擬シタル標的ヲ使用スルコトヲ得

第四百五十三 幕的マクテキハ使用ニ便ナル如ク適宜製作スヘキモノニシテ通常附圖第十ノ如ク之ヲ製作ス

第二章 射擊用具

第百五十四 射擊場及標的ニ附屬スル射擊用具ハ記號板、
號旗、示號標、監的鏡、治痕竿及監的用具トス其他電話機、双
眼鏡、秒時計、氣象器械等ヲ備ヘ得レハ便ナリ

第百五十五 記號板ハ矩形板ニ一桿ヲ固著シタルモノニシ
テ其表面ハ白色ニ塗り標的ニ應スル番號ヲ墨書シ裏面ハ赤色ニ
塗り之ニ諸記號等ヲ記載スヘシ附圖第十一

第百五十六 號旗ハ赤色、白色及赤白色相半スル矩形ノ布
ヲ竿頭ニ附シタルモノニシテ一般ノ警戒ヲ表スルニハ大形ノ赤
旗ヲ用フルモノトス附圖第十二
及第十三

第百五十七 監的鏡ハ一桿ノ上方及下方ニ螺子ヲ以テ隨意

ニ俯仰シ得ル如ク鏡ヲ附著シタルモノニシテ監的壕或ハ掩蔽内
ニ在リテ射場ノ記號ヲ視ルニ供ス附圖第十四

第百五十八 治痕竿ハ竿頭ノ一側ニ圓板ヲ附シ其背面ニ治
痕具ヲ備ヘタルモノトス附圖第十五

第百五十九 示號標ハ戰鬪射擊ニ於テ射擊ノ終始及射擊中
ナルコトヲ表示スル爲用フルモノトス附圖第十六

第百六十 監的用具ハ糊壺、治痕紙等ニシテ戰鬪射擊ニ在
リテハ右ノ外彈痕圖、携帶圖板、鉛筆等ヲ要スルモノトス

第五篇 彈藥

第百六十一 射擊教育ノ爲毎年支給スヘキ彈藥ノ定數ヲ次ノ如ク定ム

現役ノ者ニハ定員ニ依リ之ヲ支給ス但一箇中隊毎ニ二人ヲ減ス又候補生、一年志願兵及豫備役、後備役ノ者ニハ現員ニ從フ

現役	豫備役	一役種階級		一人ニ對スル定數	
		實包	空包	拳銃實包	狹窄射擊實包
士官、准士官	士官、准士官、下士	八〇	/	二四	/
下士、喇叭手	兵卒	八〇	/	二四	/
候補生、一年志願兵	兵卒	八〇	/	六〇	二五

備考	後備役		豫備役	
	兵卒	士官、准士官、下士	兵卒	士官、准士官、下士
一 拳銃實包ハ拳銃携帶者ニ限リ支給ス	二〇	二〇	二五	二五
二 候補生、一年志願兵ニハ本表ノ外下士ト同數ノ拳銃實包ヲ支給ス	一〇	二〇	二〇	二〇

第百六十二 支給セラレタル彈藥ハ中隊ニ於テ概ネ左ノ區分ニ從ヒ使用スヘシ

戰闘射擊	射擊種類	配當	實包數
現役兵卒	戰闘射擊	一人	二十發
候補生、一年志願兵	戰闘射擊	一人	二十發

銃ノ命中試験	中隊ニ	三百發
基本射撃		
特別射撃		
試射及其他ノ射撃		

戦闘射撃及銃ノ命中試験用彈藥ヲ除キタル殘餘ノ彈藥全部ヲ之ニ充用ス

戦闘射撃ノ彈藥ハ他ノ射撃ニ用フルヲ許サス其他ノ射撃ニ於テ
 彈藥ニ剩餘ヲ生シタルトキハ適當ニ之ヲ用ヒ射撃教育ヲ完全ナ
 ラシムヘシ又剩餘彈中次年度ニ於ケル使用計畫ノ確定セルモノ
 ハ之ヲ繰越シ此規定ニ從ヒ使用シ否ラサルモノハ返納スヘキモ
 ノトス空包、狹窄射撃實包ニ於テモ亦然リ
 空包ハ射撃豫行演習、戦闘演習、陣中勤務ノ演習、乘馬射撃及

馬ノ銃聲慣馴ニ用フルモノトス

狹窄射撃實包ハ狹窄射撃ニ、拳銃實包ハ拳銃射撃ニ用フルモノ
 トス

豫備役、後備役ノ者ニ支給セル彈藥ニ剩餘ヲ生シタルトキハ聯
 隊長ノ許可ヲ受ケ現役兵ノ教育ニ使用スルコトヲ得

第六十三 聯隊本部附士官、下士ニ支給スヘキ彈藥ハ之
 ヲ配屬セラレタル中隊ニ配與スルモノトス

第六篇 記録及報告

第一章 記録

第百六十四 中隊ハ射撃ニ關シ左ノ諸表ヲ備フヘシ

一 射撃成績表^{甲第}_{一表}

本表ハ士官、准士官、下士及兵卒ニ區分シ兵卒ニ在リテハ
射手ノ等級ニ從ヒ其順序ニ一冊ニ綴リ毎年新調スルモノト
ス

豫備役、後備役ノ者モ之ニ準ス

二 命中試験成績表^{甲第}_{二表}

本表ハ第三篇ニ示ス命中試験ノ成績ヲ記載スルモノトス

三 戦闘射撃其他特ニ施行セル射撃成績表

第百六十五 基本射撃ノ成績ハ射撃場ニ於テ射撃成績ノ草

稿表ニ記入シ歸營後直ニ射撃成績表ニ淨寫スルモノトス

特別射撃ニ在リテモ之ニ準ス

第百六十六 各中隊ニ於テ下士、兵卒ノ射撃成績一覽表^{甲第}_{三表}

ヲ製シ射撃實施後直ニ其發射彈、點數等ヲ記入シテ舍内適宜ノ

所ニ揭示スヘシ

第百六十七 射撃手簿^{甲第}_{六表}ハ現役射手ノ全員ニ所持セシム

ルモノトス

第二章 報告

第百六十八 中隊長ハ毎年射撃教育終了後射撃報告^{乙第}_{一表}彈

藥射耗報告^{乙第}二表ヲ聯隊長ニ呈出スヘシ

第百六十九 聯隊長ハ中隊戦闘射擊報告^{乙第}三表射擊成績報告

表^{乙第}一表ニ準スニ射擊教育及兵器ニ關スル意見ヲ附シ旅團長^{旅團ニ屬セサル乙}

聯隊長ニ在リニ呈出スヘシ

各中隊ヨリ呈出セル報告ハ之ヲ聯隊長ニ保存シ置クモノトス

旅團長ハ各聯隊長ノ報告ニ意見ヲ附シ師團長ニ呈出スヘシ

第百七十 師團長ハ各旅團(聯隊長)ノ報告ニ意見ヲ附シ十二

月盡日迄ニ教育總監ニ進達スヘシ

騎兵射擊教範終

騎兵射擊教範附録

其一 氣球隊ノ射擊教育

第一 氣球隊ノ射擊教育ハ以下示スモノノ外總テ本教範ニ準據スヘシ

第二 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ノ射擊技能ヲ訓練シテ基本射擊ニ熟達セシメ以テ自衛ノ爲ニスル戰鬥任務ヲ遂行シ得シムルノ基礎ヲ完成スルニ在リ

第三 狹窄射擊ハ左表ニ依リ實施スヘシ

習會順次	距	離	採用照尺	姿	勢	彈	數
------	---	---	------	---	---	---	---

考備	一	二	三
一 立姿ニ於テ銃ヲ依托スルニハ三脚架ニ載セタル砂嚢上又ハ階段狀ヲ爲シタル托架等適宜ノモノヲ用フルモノトス	一五 ^米	一五	一五
	三〇〇 ^米 架上立、	三〇〇 膝、	三〇〇 伏、
	五	五	五

第四 戰鬥射撃、乘馬射撃、拳銃射撃ハ之ヲ行ハス

第五 基本射撃ノ習會表ヲ次ノ如ク定ム

各級射手基本射撃習會表

種別	習會順次	距離	姿勢	標的	合格點數
三等射手	二				一四
二等射手	一				一三
一等射手					一二

考備	實 習				豫 習			
	七	六	五	四	三	二	一	一
一 三等射手豫習射撃ニ用フル團的ニ在リテハ射手ヲシテ照準ヲ容易ナラシムル爲標的面上ニ中徑零米二〇ノ黒點ヲ適宜附著スルヲ得	五	四	三	二	二〇〇 伏、	二〇〇 依托伏、	二〇〇 ^米 架上立、	二〇〇 ^米 架上立、
二 第一習會ハ通常連續シテ射撃セシムルモノトス	三〇〇 伏、	三〇〇 膝、	三〇〇 伏、	三〇〇 立射 胸壁 依托 團頭的	三〇〇 伏、	三〇〇 依托伏、	三〇〇 ^米 架上立、	三〇〇 ^米 架上立、
	人像 一四	人像 一〇	人像 一〇	人像 九	團頭的 九	團頭的 一四	團頭的 一四	團頭的 一四
	一六	一〇	一〇	一二	一二	一二	一二	一二
	二〇	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二

第七 交通兵旅團長ハ氣球隊ノ報告ニ意見ヲ附シ師團長ニ呈出スヘシ

師團長ハ之ニ意見ヲ附シ十二月盡日迄ニ教育總監ニ進達スヘシ

其二 輜重兵隊ノ射擊教育

第一 輜重兵隊ノ射擊教育ハ以下示スモノノ外總テ本教範ニ準據スヘシ

第二 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ノ射擊技能ヲ訓練シテ基本射擊ニ熟達セシメ以テ自衛ノ爲ニスル戰鬥任務ヲ遂行シ得シムルノ基礎ヲ完成スルニ在リ然レトモ輸卒ニ在リテハ銃ノ機能及射擊術ノ要領ヲ習得セシムルヲ以テ足レリトス

第三 狹窄射擊ハ左表ニ依リ實施スヘシ

習會順次	距	離	採用照尺	姿	勢	彈	數
------	---	---	------	---	---	---	---

一	一五	三〇〇	架上立、	五
二	一五	三〇〇	膝、	五
三	一五	四〇〇	伏、	五

備考 一 立姿ニ於テ銃ヲ依托スルニハ三脚架ニ載セタル砂囊上又ハ階段狀ヲ爲シタル托架等適宜ノモノヲ用フルモノトス

第四 戰鬪射擊及乘馬射擊ハ之ヲ行ハス然レトモ本教範第二篇第五章其二ニ示ス所ノ諸件ハ操典上射擊ニ關スル諸制式及法則ノ實施ニ關聯シテ之ヲ準用スルモノトス

第五 基本射擊ノ習會表ヲ次ノ如ク定ム

各級射手基本射擊習會表

種別	環					習會順次	距離	姿勢	標的	合格點數		
	一	二	三	四	五					三等射手	二等射手	一等射手
三等射手	架上立、	伏、	膝、	立射、 胸壁依托	伏、	一	二〇〇	圈的	一五	一四	一六	一八
二等射手	架上立、	伏、	膝、	立射、 胸壁依托	伏、	二	二〇〇	圈的	一五	一四	一六	一八
一等射手	架上立、	伏、	膝、	立射、 胸壁依托	伏、	三	二〇〇	圈的	一五	一四	一六	一八
二等射手	架上立、	伏、	膝、	立射、 胸壁依托	伏、	四	三〇〇	圈頭的	九	一一	一二	一四
一等射手	架上立、	伏、	膝、	立射、 胸壁依托	伏、	五	三〇〇	圈頭的	九	一一	一二	一四

習會順次	距	離	姿	勢	標	的	彈	數	習											
									六	五	七	六								
一	二〇〇 ^米	依	托	伏	圈	的			七	五〇〇	依	托	伏	散	兵	的	一〇	一三	一〇	一三

備考
 一 豫習射擊ニ用フル圈的ニ在リテハ射手ヲシテ照準ヲ容易ナラシムル爲標的面上ニ中徑零米二〇ノ黑點ヲ適宜附著スルヲ得
 二 第一習會ハ通常連續シテ射擊セシムルモノトス

輸卒射擊習會表

豫備役、後備役射擊習會表

習會順次	距	離	姿	勢	標	的	合格點數	備考											
								一	二	三	三								
一	二〇〇 ^米	依	托	伏	圈	的		一	二〇〇	依	托	伏	散	兵	的	一〇	一四	一〇	一四
二	二〇〇 ^米	依	托	伏	圈	的		二	二〇〇	依	托	伏	散	兵	的	一〇	一四	一〇	一四
三	三〇〇	伏			圈	頭	的	三	三〇〇	伏			散	兵	的	一〇	一四	一〇	一四

第六 射擊教育ノ爲毎年支給スヘキ彈藥ノ定數ヲ次ノ如ク定ム

備考	後備役			現役			役種階級	一人ニ對スル定數
	兵卒	下士、喇叭手	士官、准士官	輪卒	候補生、一年志願兵、兵卒	下士、喇叭手		
一 候補生、一年志願兵ニハ本表ノ外下士ト同數ノ拳銃實包ヲ支給ス	一八	一八	/	一〇	四二	四二	四二 _發	一 人ニ對スル定數
	/	/	/	一〇	一五 _發	/	/	拳銃實包
	/	一八	一八	/	/	二三	二三 _發	狹窄射撃實包
	/	/	/	/	二〇 _發	/	/	

右ノ外銃ノ命中試験用トシテ中隊ニ實包二百五十發ヲ支給ス

第七 輸卒ニハ射撃手簿ヲ用ヒサルモノトス

第八 師團長ハ輜重兵大隊ノ報告ニ意見ヲ附シ十二月盡日迄ニ教育總監ニ進達スヘシ

其三 三十年式騎銃使用ニ關スル特別ノ規定

- 第一 三十年式騎銃使用ノ爲特ニ次ノ諸件ヲ規定ス
- 第二 銃ノ性能ニ關スル諸件ハ附錄附表第一乃至第四ニ之ヲ示セリ
- 部隊射撃ノ命中效力表ハ附錄附表第五ニ示セリ
- 第三 側方ニ移動スル目標ノ照準點左ノ如シ

距離	目標種類				
	速歩徒歩兵	駝歩徒歩兵	常歩乘馬兵	速歩乘馬兵	駝歩乘馬兵
二〇〇 ^米	〇、五一 ^米	〇、八七 ^米	〇、六〇 ^米	一、二六 ^米	一、八六 ^米

三〇〇	〇、八一	一、三七	〇、九五	一、九九	二、九五
四〇〇	一、一五	一、九五	一、三五	二、八三	四、一九
五〇〇	一、五四	二、六〇	一、八〇	三、七八	五、五八
六〇〇	一、九五	三、三〇	二、二九	四、七九	七、〇八
七〇〇	二、三九	四、〇五	二、八〇	五、八八	八、六八
八〇〇	二、八八	四、八七	三、三七	七、〇七	一〇、四四
九〇〇	三、四〇	五、七六	三、九九	八、三六	一二、三六
一〇〇〇	三、九六	六、七〇	四、六四	九、七三	一四、三七

備考 一本表ハ目標ノ中央ヨリ前方ヲ照準スヘキ尺度ヲ示ス

第四 基本射撃ニ於ケル合格點數ヲ次ノ如ク定ム

騎兵隊ニ於ケル合格點數

習會 順次	射撃種類 等級		現	役	豫備役 後備役
	三等	二等			
一	一六	一六	一八		一四
二	一四	一二	一二		一四
三	一〇	一〇	一二		九
四	九	九	一二		八
五	七	人像 一六一	人像 一三二		
六					

氣球隊ニ於ケル合格點數

習會 順次	射撃種類 等級		現	役	豫備役、後 備役、演習 召集補充兵	教育召集 補充兵
	三等	二等				
一				等		
二	一二	一〇	一二	一	八	一三
三	一〇	一〇	一二	二		八
四	八	九	一〇	三		八
七	人像 一三一	一二	一二			
八	人像 一〇一	九	一〇			
九	一〇					

附錄 三十年式騎銃使用ニ關スル特別ノ規定

百三十三

七	六	五
八	八	八
/	/	九
/	/	一〇
/	/	/

輜重兵隊ニ於ケル合格點數

射手種類 等級	習會 順次	三	二	一
		現	役	豫備役、後備役
四	三	二	一	
九	一二	一三	一四	一六
一〇	一二	一四		一三
一二	一三	一六		九

第五 銃ノ命中試験ニ用フル標的ハ附録附圖第一ノ如シ而シ
テ合格スヘキ彈著ノ方形ハ縱零米四四、横零米二八トス

七	六	五
一〇	七	八
九	一〇	九
一〇	一三	一二

附錄 三十年式騎銃使用ニ關スル特別ノ規定

百三十三

其四 目標設置要領

- 第一 本要領ハ戰鬪射撃ニ於ケル目標ノ設置並成績調査ニ關スル一般ノ標準ヲ示スモノトス
- 第二 目標ノ設置ハ演習ノ目的ニ適應シ教育進歩ノ程度ヲ顧慮シ勉メテ實戰ノ景況ニ近カラシメ且命中效力ノ審査ヲ確實ニ爲シ得ルコトニ注意セサルヘカラス
- 第三 目標ヲ製作スヘキ材料ハ原料ノ價格、運搬ノ便否等ヲ顧慮シ保存良好、修理並彈痕調査簡易ナルモノヲ選フヘシ
- 標的ハ麻布(ツツク)ヲ以テ製作スルヲ最良トス之カ爲ニハ各種

標的ノ形狀ニ麻布ヲ截斷シ日本紙ヲ以テ之ヲ被覆シタルモノヲ脚柱ト爲スヘキ小角材ニ釘著ス而シテ此脚柱ニハ骨子トナルヘキ竹片ヲ適宜十字形ニ釘著シテ麻布ヲ堅固ニ保持セシム

附錄
附圖

第二

麻布ハ甚タ厚カラス織目ノ緻密ナルモノヲ選ヒ脚柱ハ杉、檜、樅等ノ約一寸角ヲ適度トス

板ヲ以テ標的ヲ製作スル場合ニ在リテハ杉、檜、樅、松等ノ四分乃至六分ノ厚サヲ有スル物ヲ適度トス

防楯ヲ現ハスヘキ標的ノ爲ニハ中距離以上ニ於テ銃彈ノ貫通セサル爲厚サ約二分以上ノ軟鋼板ヲ用フヘシ

第四 射撃ノ成績ハ其狀態變化スル毎ニ各別ニ之カ調査ヲ要スルヲ以テ目標ハ時機ノ異ルニ從ヒ容易ニ之ヲ變換シ得サルヘカラス之カ爲目標ノ種類並設置ノ地形等ヲ顧慮シ目標ヲ起伏シ旋回シ或ハ運動シ若ハ射彈ノ命中ニ依リ自動的ニ轉倒スヘキ裝置ヲ爲スヲ要ス

起伏裝置ハ主トシテ歩兵ヲ現ハス標的ニ適ス固定シテ植立スル標的ハ變化ナキ一時期ニ於テ射撃スル場合ニノミ用フルモノトス

第五 起伏裝置ノ要領並之ニ要スル材料ノ名稱、尺度等ノ標準ハ附錄附圖第三ニ示スカ如シ

標的ヲ横木ニ裝著スル爲裝的鐵ヲ用フルトキハ標的ノ間隔ヲ隨意ニ伸縮シ得ルヲ以テ起伏横木ノ長ヲ一定ニ爲シ得ヘシト雖裝入鐵ヲ用フルトキハ之ヲ横木ニ固著スルヲ要スルヲ以テ起伏横木ハ散兵用並密集用等各別ニ調製セサルヘカラス

起伏横木ハ檜、杉ヲ最良トシ樅、落葉松等之ニ次ク接續鐵ノ接合部並支柱ノ枝分部ハ特ニ堅固ナルヲ要スルカ故ニ其製作ニ方リテハ深ク注意スルヲ要ス

滑車ハ木製ヲ可トス

引繩ハ纜ノ堅キモノヲ用フヘシ其柔カニシテ伸縮シ易キモノハ使用ニ適セス

第六 起伏裝置ハ平坦地上ニ於テ用フルヲ最モ容易ナリトス
然レトモ多少ノ凹凸アル地形ニ在リテモ亦之ヲ適用シ得ルモノ
トス

幾何ノ起伏横木ヲ接合シテ一ツノ起伏裝置ト爲シ得ヘキヤハ地
形並標的ノ種類ニ依リ異ルモノトス平坦地ニ在リテ天候平穩ノ
トキニ於ケル横木接合數ノ標準次ノ如シ

標的種類	伏、頭的	膝	的	立	的
接合スヘキ横木數 (標的ノ間隔ニ關セス)	約 十三本	約 八本	約 六本	約 六本	約 六本

風速強キトキ及土地ノ凹凸多キトキハ接合數ヲ減スルヲ要ス
横木並引繩等ハ勉メテ地面ニ近ク之ヲ裝置スヘシ

楨杆ニ大小二種アリ其大ナルモノハ立的及之ヨリ大ナル標的ヲ
裝置スルトキ或ハ風強キトキ或ハ比較的多大ノカヲ要スル部分
等ニ之ヲ用ヒ其小ナルモノハ膝的以下ノ小ナル標的ヲ裝置スル
場合ニ用フ而シテ楨杆繩ト引繩トノ接合ハ特ニ注意シテ適度ニ
緊張シ且堅固ナラサルヘカラス

第七 一地ニ停止セル敵ヲ現示スヘキ標的ハ其一地ニ於テ景
況ノ異ル數次ノ射撃ニ對スル射彈ノ效力ヲ各別ニ調査シ得サル
ヘカラス之カ爲射撃狀態ノ變化スル毎ニ標的モ亦變換ヲ要スル
ヲ以テ各時期ニ應シ得ル如ク所要ノ標的ヲ前後ニ重疊シ各約
三米ノ距離ヲ間シテ數線ニ設置スルヲ要ス

此場合ニ於テ隱伏シ置キタル標的ニ若干ノ射彈ヲ受クルコトアリト雖其彈痕ハ現出セルトキ受ケタル直射彈若ハ跳彈ト其形狀ヲ異ニスルヲ以テ容易ニ之ヲ區別シ得ヘシ

標的ヲ數線ニ重疊シテ設置スルトキハ彈丸ノ命中ニ依リ屢々引繩及其他ノ材料ニ故障ヲ生スルコトアルヲ以テ標的設置ノ際特ニ注意ヲ加フルヲ要ス

第八 陣地ヲ變移スル敵ヲ現示スヘキ標的ハ通常停止間ノ爲ニ伏的、運動間ノ爲ニ立的ヲ用フ例ヘハ甲地ヨリ乙地ニ運動スルモノヲ現ハスニハ先ツ甲地ニ伏的ヲ現ハシ次ニ此敵ノ運動スル景況ヲ現ハス爲此伏的ヲ隱匿スルト同時ニ其線上若ハ甲乙兩

地ノ中間ニ立的ヲ起シ其現出時間ヲ甲乙兩地ノ行進時間ニ等シカラシム次ニ立的ヲ倒スト共ニ乙地ニ伏的ヲ起シ以テ敵ノ停止セルヲ現ハスモノトス

此等相互ノ關聯シタル標的ノ操作ヲシテ圓滿ナラシメンニハ特ニ其通信敏速正確ナラサルヘカラス

第九 中隊縱隊、側面縱隊等ノ如キ縱長アル目標ヲ設置スルニハ目視ノ景況ヲシテ實際ノ如クナラシムルト成績調査ヲ遺漏ナカラシムルトヲ顧慮シ標的ノ數ヲ決定スヘシ此種ノ目標ニ在リテ後方ニ設置スル各標的ニハ直射ヲ受クヘキ部分ト前方ノ標的ヲ貫通シテ命中スヘキ部分トノ界ニ劃線シ置クヲ要ス

此等ノ標的ヲ隱現スルニハ起伏裝置ヲ用フ
側方又ハ斜方向ヨリ射撃スヘキ標的ハ人身厚ヲ有スル筐的ナル
ヲ要ス

第十 放列ヲ現示スル標的ヲ隱現セントセハ通常起伏裝置ヲ
用フ其各標的ヲ配置スヘキ位置通常附錄附圖第四ノ如シ

第十一 監的壕ノ位置ハ成ルヘク標的線ノ側方若ハ前方射場ニ寄
ル方ニシテ勉メテ其數ヲ減スルヲ要ス

監的壕ハ勉メテ自然地下ニ掘下スヘシ而シテ其深サハ自然地面
下一米八〇ヲ適度トス若掘下シ得サル土質ニ在リテハ積土ヲ以
テ之ヲ補フコトヲ得然ルトキハ積土厚ハ一米五〇以上ニシテ積

土頂ト壕底トノ差ヲシテ二米以上ナラシムルヲ要ス

監的壕ノ正面幅ハ收容スヘキ人員ニ依リ定マルモノニシテ一人
ノ占領面ヲ約零米五〇ト算スヘシ而シテ壕幅ハ勉メテ之ヲ狭ク
シ一米以下ト爲スヲ可トス

監的壕ヲ掘開シタル除土ハ其近傍ニ於ケル自然地ノ色合ト勉メ
テ同シカラシムヘシ之カ爲要スレハ草、樹葉等ヲ以テ被覆スル
ヲ可トス又彈丸跳飛ノ危害ヲ避クル爲壕ノ近傍ニハ岩石等ヲ露
出シ置クヘカラス

第十二 標的ノ操作ヲ指揮シ且諸通信ノ爲電話機ヲ用フルヲ
最良トス

電線ハ射彈ノ爲ニ切斷セラレ通信ニ故障ヲ生シ易キヲ以テ標的ノ近傍等彈著ノ多カルヘキ地區ニ在リテハ少クモ零米一〇ノ深サニ埋線スルヲ要ス

監的鏡ト號旗トヲ以テスル記號ハ其設備最モ單簡ナリト雖天候及地形ノ障害ヲ受クルコト多シ

何レノ通信法ヲ採用スルモ常ニ周到ノ注意ヲ以テ詳細ニ規定シ確實ニ實施セサルヘカラス否ラサレハ標的ノ操作ヲ誤リテ演習ノ價值ヲ減スルノミナラス不測ノ危害ヲ招クコトアリ

第十二 演習統監ハ實際得タル命中成績ヲ學理上得ヘキ成績ニ對照比較シ若著シキ差違ヲ發見スルトキハ其原因ヲ探求シテ

正鵠ナル判斷ヲ與ヘ以テ將來ニ於ケル射擊教育ノ指針ト爲スヘシ之カ爲命中彈ノ調査ハ最モ正確ナラサルヘカラス

命中成績ノ調査ニ方リテハ監的勤務者ハ能ク彈痕ノ形狀ニ注意シ直射彈ナルヤ跳彈ナルヤヲ確認シテ之ヲ彈痕圖ノ相當位置ニ記入スヘシ

彈痕ハ通常紙ニテ貼り又ハ白墨、鉛筆等ヲ以テ標スヘシ

嘗テ使用シタル標的ヲ設置スルトキハ射擊前ニ綿密ニ舊彈痕ヲ補修スルヲ要ス

(密十六百七歷氣度五十温氣)

四 四 道

附表第一

射 距 離	表 角				垂 直 標 的		射 距 離
	落 角	發 射 角	射 距 離	落 角	半 數 必 中	平 水 隔	
100	98.72	46.18	1525	37.40	21.5	4.6	5.2
200	102.98	47.82	1550	39.52	22.2	10.0	11.2
300	107.36	49.50	1575	41.73	23.1	15.8	17.8
400	111.87	51.22	1600	44.03	24.2	22.8	25.4
500	116.52	52.99	1625	46.42	25.3	30.4	34.2
600	121.29	54.81	1650	48.90	26.2	39.4	44.2
700	126.21	56.67	1675	51.48	27.4	49.4	55.6
800	131.26	58.58	1700	54.15	28.6	60.8	68.6
900	136.45	60.53	1725	56.93	29.7	73.6	83.4
1000	141.79	62.53	1750	59.80	30.8	88.0	100.0
1100	147.27	64.58	1775	62.78	31.9	104.0	118.6
1200	152.90	66.68	1800	65.87	33.2	122.0	139.4
1300	158.67	68.83	1825	69.06	34.4	141.6	162.6
1400	164.60	71.03	1850	72.36	35.6	163.6	188.4
1500	170.68	73.28	1875	75.78	37.8	177.4	216.8
1600	176.91	75.58	1900	79.91	38.8	193.8	248.0
1700	183.30	77.94	1925	82.95	40.4	222.4	282.0
1800	189.85	80.34	1950	86.71	41.7	236.6	319.4
1900	196.57	82.80	1975	90.59	43.0	274.4	360.0
2000	203.44	85.32	2000	94.60	44.3	344.0	404.0

騎兵射擊教範附錄終

附錄 目標設置要領

騎兵射擊教範附錄終

表 擊 射 銃 騎 (式 八 三) 式 四 四

(密十六百七壓氣度五十温氣)

附表第一

表 角 落 及 角 射 發												存 速	經 過 時 間	界 險 危			騎 兵	界 半 二 垂 數 於 直 必 於 ケ 標 中 ル 的		射 距 離
落 角	發 射 角	射 距 離	落 角	發 射 角	射 距 離	落 角	發 射 角	射 距 離	落 角	發 射 角	射 距 離			兵 步				平 水	直 垂	
														伏 姿	膝 姿	立 姿				
98.72	46.18	1525	37.40	21.33	1025	10.07	7.87	525	0.32	0.32	25	636	0.15	100	100	100	100	46	5.2	100
102.98	47.82	1550	39.52	22.25	1050	10.88	8.35	550	0.64	0.64	50	577	0.31	200	200	200	200	100	11.2	200
107.36	49.50	1575	41.73	23.21	1075	11.74	8.86	575	0.97	0.96	75	527	0.49	300	300	300	300	158	17.8	300
111.87	51.22	1600	44.03	24.19	1100	12.65	9.37	600	1.31	1.29	100	486	0.69	110	400	400	400	228	25.4	400
116.52	52.99	1625	46.42	25.21	1125	13.60	9.91	625	1.65	1.62	125	450	0.91	65	200	500	500	304	34.2	500
121.29	54.81	1650	48.90	26.26	1150	14.61	10.46	650	2.01	1.95	150	420	1.14	44	102	600	600	394	44.2	600
126.21	56.67	1675	51.48	27.34	1175	15.67	11.03	675	2.38	2.29	175	393	1.38	32	69	132	248	494	55.6	700
131.26	58.58	1700	54.15	28.45	1200	16.79	11.62	700	2.76	2.63	200	369	1.65	24	50	90	139	608	68.6	800
136.45	60.53	1725	56.93	29.59	1225	17.97	12.23	725	3.16	2.98	225	349	1.92	18	38	66	98	73.6	83.4	900
141.79	62.53	1750	59.80	30.77	1250	19.21	12.86	750	3.58	3.33	250	330	2.22	15	30	51	73	880	100.0	1000
147.27	64.58	1775	62.78	31.99	1275	20.51	13.52	775	4.02	3.70	275	313	2.53	12	24	40	57	1040	118.6	1100
152.90	66.68	1800	65.87	33.33	1300	21.87	14.19	800	4.49	4.07	300	298	2.86	9	19	32	45	1220	139.4	1200
158.67	68.83	1825	69.06	34.52	1325	23.31	14.88	825	4.98	4.44	325	284	3.20	8	16	26	37	1416	162.6	1300
164.60	71.03	1850	72.36	35.84	1350	24.81	15.60	850	5.50	4.83	350	272	3.56	6	13	21	30	1636	188.4	1400
170.68	73.28	1875	75.78	37.20	1375	26.38	16.34	875	6.05	5.23	375	260	3.94	5	11	18	25	1874	216.8	1500
176.91	75.58	1900	79.31	38.60	1400	28.02	17.11	900	6.63	5.64	400	250	4.33	5	9	15	21	2138	248.0	1600
183.30	77.94	1925	82.95	40.03	1425	29.74	17.90	925	7.24	6.06	425	240	4.74	4	8	13	18	2424	282.0	1700
189.85	80.34	1950	86.71	41.51	1450	31.53	18.72	950	7.89	6.49	450	231	5.16	3	7	11	15	2736	319.4	1800
196.57	82.80	1975	90.59	43.02	1475	33.40	19.56	975	8.57	6.94	475	223	5.60	3	6	9	13	3074	360.0	1900
203.44	85.32	2000	94.60	44.58	1500	35.36	20.43	1000	9.30	7.39	500	215	6.06	2	5	8	11	3440	404.0	2000

(密十六百七歷氣度五十温氣)

表(高道彈之負)高道彈銃騎(式八三)

附表第二

最 高 度 *	至 ル 距 離 *	最 高 度 二	2000	1950	1900	1850	1800	1750	1700	1650	1600	1550	1500	1450	1400	1350	1300	1250	1200	1150	1100	1050	1000	950	900	850	800	750	700	650	600	550	500																									
0.32	154																																																									
0.60	208																																																									
1.02	265																						3.04	1.16	5.15	5.98	5.12	1.10	2.01	1.79	1.19	0.53																										
1.60	324																					6.30	3.52	7.06	5.88	5.97	5.29	3.36	2.62	1.77	1.77	0	0.56	0																								
2.40	384																					25.20	16.84	3.83	11.16	8.81	10.74	4.94	7.38	2.05	0.92	0	0.75	1.35	1.80	2																						
3.46	446																					24.75	20.92	17.11	13.88	11.00	8.46	6.24	7.30	2.63	1.20	0	1.00	1.80	2.42	2.89	3.21	3																				
4.86	509																					30.09	25.28	20.96	17.07	13.61	10.52	7.79	5.40	3.32	1.53	0	1.28	2.34	3.19	3.84	4.32	4.64	4.82	4																		
6.66	572																					36.22	30.57	25.44	20.80	16.64	12.92	9.62	6.70	4.14	1.81	0	1.62	2.99	4.10	4.99	5.68	6.17	6.48	6.64	6																	
8.93	636																					43.25	36.83	30.58	25.11	20.17	15.73	11.75	8.22	5.11	2.38	0	2.04	3.76	5.20	6.37	7.50	8.00	8.50	8.80	8.92	8.89	8.71	8														
11.78	701																					51.22	43.49	36.43	30.02	24.19	18.94	14.21	9.98	6.21	2.80	0	2.52	4.69	6.51	8.02	9.24	10.21	10.92	11.41	11.69	11.78	11.69	11.45	11.05	10												
15.28	765																					60.21	51.27	43.09	35.61	28.78	22.61	17.02	12.01	7.52	3.52	0	3.07	5.74	8.01	9.94	11.53	12.80	13.78	14.51	14.98	15.23	15.28	15.13	14.80	14.32	13.68	1										
19.57	830																					70.26	59.99	50.54	41.88	33.07	26.75	20.19	14.29	8.97	4.22	0	3.73	6.98	9.79	12.18	14.19	15.85	17.17	18.17	18.89	19.34	19.55	19.53	19.30	18.89	18.29	17.54	16.64	1								
24.73	894																					81.48	69.73	58.90	48.93	39.78	31.47	23.80	16.83	10.62	5.02	0	4.45	8.37	11.80	14.75	17.26	19.36	21.07	22.43	23.45	24.15	24.57	24.72	24.63	24.31	23.79	23.07	22.18	21.13	19.93	1						
30.88	959																					93.20	79.73	68.28	58.65	49.53	40.79	32.91	25.62	18.81	12.22	0	5.27	9.96	14.08	17.67	20.76	23.99	25.56	27.32	28.70	29.73	30.42	30.79	30.87	30.70	30.28	29.62	28.77	27.72	26.49	25.11	23.58	2				
38.18	1024																					105.48	90.73	78.90	68.93	59.78	51.47	43.80	36.83	30.62	24.22	0	6.22	11.78	16.68	21.00	24.75	27.97	30.70	32.95	34.76	36.16	37.17	37.83	38.15	38.15	37.87	37.32	36.53	35.51	34.29	32.87	31.28	29.53	27.63	2		
46.74	1088																					122.28	105.64	92.90	83.03	74.58	67.01	0	7.26	13.77	19.58	24.74	29.23	33.15	36.50	39.31	41.63	43.48	44.89	45.88	46.48	46.74	46.65	46.25	45.56	44.61	43.42	41.99	40.36	38.54	36.54	34.39	32.08	2				
56.72	1153																					141.48	122.28	107.90	98.93	91.47	84.21	0	8.42	16.02	22.84	28.90	34.27	38.98	43.03	46.50	49.40	51.77	53.65	55.05	56.01	56.56	56.72	56.53	56.00	55.15	54.02	52.62	50.98	49.11	47.04	44.77	42.33	39.73	36.98	3		
68.27	1217																					162.28	141.48	126.90	118.93	112.47	106.21	0	9.71	18.51	26.44	33.55	39.88	45.46	50.34	54.56	58.12	61.11	63.52	65.41	66.80	67.72	68.19	68.24	67.92	67.24	66.22	64.89	63.27	61.39	59.26	56.90	54.34	51.59	48.66	45.57	42.33	3

量徹侵丸彈銃騎(式八三)式四四

附表第三

600	400	200	距離 米	物 質 種 類
0.80	0.87	0.95	米	土積常尋
0.56	0.49	0.56		砂
0.52	0.77	0.95		松ルサ七燥乾
通貫	通貫	通貫		壁瓦煉 (冊二十二厚)
痕凹	通貫	通貫		鉄鋼軟米密五

彈銃騎(式八三)式四四

高射機銃 距離	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000
0.00	0.10	0.20	0.30	0.40	0.50	0.60	0.70	0.80	0.90	1.00
0.00	0.20	0.40	0.60	0.80	1.00	1.20	1.40	1.60	1.80	2.00
0.00	0.30	0.60	0.90	1.20	1.50	1.80	2.10	2.40	2.70	3.00
0.00	0.40	0.80	1.20	1.60	2.00	2.40	2.80	3.20	3.60	4.00
0.00	0.50	1.00	1.50	2.00	2.50	3.00	3.50	4.00	4.50	5.00
0.00	0.60	1.20	1.80	2.40	3.00	3.60	4.20	4.80	5.40	6.00
0.00	0.70	1.40	2.10	2.80	3.50	4.20	4.90	5.60	6.30	7.00
0.00	0.80	1.60	2.40	3.20	4.00	4.80	5.60	6.40	7.20	8.00
0.00	0.90	1.80	2.70	3.60	4.50	5.40	6.30	7.20	8.10	9.00
0.00	1.00	2.00	3.00	4.00	5.00	6.00	7.00	8.00	9.00	10.00

氣温及風(左四) 關(左四) 關(左四)

種類			射距離	種類
各氣温ニ於ケル照尺				
15°	0.0000	0.0000	0.0000	15°
0°	0.0000	0.0000	0.0000	0°
10°	0.0000	0.0000	0.0000	10°
25°	0.0000	0.0000	0.0000	25°
5米 (和風)	0.0000	0.0000	0.0000	5米 (和風)
10米 (和風)	0.0000	0.0000	0.0000	10米 (和風)

量燐火戰機(左八) (左三) 四

強	弱	強	弱
0.00	0.00	0.00	0.00
0.80	0.87	0.80	0.80
0.20	0.40	0.20	0.20
0.20	0.77	0.20	0.20
貫 敵	貫 敵	貫 敵	貫 敵
貫 敵	貫 敵	貫 敵	貫 敵

表三

(銃騎式四四) 係關スホ及ニ離距射ノ速風及温氣

附表第四

考備	2000	1500	1200	1000	800	600*	尺照		種類
							照尺	射撃距離	
一、表中ノ氣温ハ氣壓七百六十密ノ場合トス故ニ若無壓ノ高低差アルトキハ氣壓三密ノ増減ハ氣温一度ノ増減ニ等シキモノト見做スヘシ 二、右或ハ左側方ヨリ射方ニ直角ニ風吹クトキハ表中ノ偏移量大ケテ彈着側方ニ偏移シ若風向射線ニ平行ナルトキハ其方向後方ヨリナルト前方ヨリナルトニ從ヒ表中ノ偏移量大ケテ射程ヲ増減スルモノトス	2090	1567	1254	1045	836	627*	+30°	5米	各氣温ニ於ケル照尺度ニ應スル射距離
	2000	1500	1200	1000	800	600*	+15°	5米	
	1910	1433	1146	955	764	573*	0°	5米	
	1850	1388	1110	925	740	555*	-10°	5米	
	1760	1320	1056	880	704	528*	-25°	5米	
	21.33	12.00	7.68	5.33	3.41	1.92*	右	五米 (和風)	風速ノ爲彈丸ノ側方偏移量
	32.00	18.00	11.52	8.00	5.12	2.88*	左	五米 (和風)	
	17.14	9.64	6.17	4.28	2.74	1.54*	向方射	五米 (和風)	
	48.00	27.00	17.28	12.00	7.68	4.32*	右	十米 (強風)	
	58.66	33.00	21.12	14.66	9.39	5.28*	左	十米 (強風)	
	34.28	19.28	12.34	8.57	5.48	3.08*	向方射	十米 (強風)	

四四式(三八左) 測飛戰火身燃量

附表第三

張	008	004	002
普通蘇土	20.0*	78.0	08.0
彈丸	22.0	94.0	22.0
彈丸+彈丸	20.0	77.0	22.0
刺殺型 (第一種)	貫 敵	貫 敵	貫 敵
近密米燃飛	貫 敵	貫 敵	貫 敵

表力效中命擊射隊部銃騎(式八三)式四四

附表第五

考 備	距離																		種類標目	
	2000	1900	1800	1700	1600	1500	1400	1300	1200	1100	1000	900	800	700	600	500	400	300		
一、本表ハ發射彈百ニ對スル命中數即チ命中百分數ヲ示シタルモノナリ 二、本表記號以外ノ間隔ヲ有スル數兵ニ對スル效力ヲ算出セントセハ軸心間隔一米ノ散兵ニ對スル效力百分數ヲ其軸心間隔ノ値ニテ除セハ可ナリ 三、機關銃隊ノ目標ハ銃數ノ如何ニ關係ナク應用スルヲ得 四、増減係數ハ除形ノ如何ニ關係ナク應用スルヲ得	4.1	4.4	4.7	5.0	5.5	5.9	6.5	7.1	7.8	8.6	9.4	10.5	11.6	12.7	13.9	15.0	16.1	17.2	立	兵 散 (米一隔間心軸)
	2.7	2.9	3.1	3.4	3.7	4.0	4.4	4.8	5.4	6.0	6.6	7.5	8.6	9.9	11.2	13.0	15.0	16.8	膝	
	1.2	1.2	1.3	1.4	1.6	1.7	1.9	2.0	2.3	2.6	2.9	3.3	3.9	4.5	5.3	6.5	8.1	10.3	伏	兵 散 (九米一隔間心軸)
	0.7	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.6	1.8	2.0	2.3	2.7	3.3	4.0	5.1	6.8	頭	
	2.1	2.3	2.5	2.7	2.9	3.2	3.4	3.8	4.1	4.6	5.0	5.6	6.1	6.8	7.4	8.0	8.4	8.9	立	兵 散 (九米一隔間心軸)
	1.4	1.5	1.6	1.7	1.9	2.1	2.3	2.5	2.8	3.0	3.4	3.9	4.4	5.1	5.8	6.8	7.7	8.6	膝	
	0.6	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.0	1.1	1.2	1.3	1.5	1.8	2.1	2.4	2.8	3.4	4.3	5.5	伏	隊横隊小 (名三十三面正) (米一十二幅)
	0.3	0.3	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.3	1.6	1.9	2.5	3.4	頭	
	6.1	6.7	7.2	7.8	8.4	9.2	9.9	10.9	11.9	13.2	14.4	16.0	17.7	19.5	21.4	立	隊横隊中 (名百二員人)			
	4.1	4.5	4.9	5.3	5.7	6.2	6.8	7.5	8.4	9.2	10.3	11.6	13.2	15.2	17.3	膝				
	1.8	1.9	2.1	2.3	2.5	2.7	3.0	3.2	3.5	3.9	4.5	5.2	6.0	7.0	8.1	伏	隊縦隊中 (名百二員人)			
	13.9	14.1	14.2	14.2	14.2	14.3	14.6	15.0	15.6	16.3	17.2	18.2	19.4	20.8	22.1	立				
	11.7	11.9	12.1	12.3	12.6	12.7	12.8	12.9	13.1	13.5	14.0	14.9	16.1	17.6	19.2	膝	隊縦隊併			
	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	7.4	7.7	8.0	8.1	8.2	8.2	8.4	8.8	9.5	10.9	伏				
	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.6	9.8	10.1	10.7	11.7	13.3	15.2	18.0	21.3	25.0	立	於ニ對テ射撃射 隊銃關機ルケ			
	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	8.6	8.9	9.5	10.5	12.1	14.4	17.4	20.6	膝				
	0.9	1.1	1.3	1.5	1.7	2.1	2.5	3.0	3.7	4.6	5.7	7.3	9.3	12.1	15.7	20.7	27.0	32.7	伏	隊横隊小兵騎 (騎七十員)
	0.4	0.5	0.5	0.7	0.8	0.9	1.1	1.2	1.6	1.9	2.5	3.2	4.2	5.6	7.4	10.4	14.6	20.2	膝	
	6.0	6.5	7.0	7.6	8.3	9.0	9.7	10.5	11.4	12.4	13.5	14.6	15.7	16.6	17.4	伏	増減係數			
	0.79	0.82	0.85	0.88	0.90	0.91	0.92	0.95	0.98	1.00	1.02	1.04	1.06	1.07	1.08	1.09		20		
0.30	0.36	0.43	0.50	0.56	0.61	0.67	0.74	0.81	0.87	0.92	0.97	1.02	1.06	1.11	1.15	40				
0.09	0.11	0.14	0.17	0.23	0.29	0.37	0.45	0.53	0.62	0.72	0.82	0.91	1.00	1.08	1.15	60				
0.02	0.05	0.07	0.10	0.13	0.17	0.23	0.30	0.38	0.49	0.60	0.72	0.85	0.98	1.10	80					
			0.01	0.05	0.07	0.10	0.14	0.19	0.28	0.38	0.51	0.66	0.83	1.01	100					
						0.02	0.04	0.07	0.13	0.22	0.33	0.49	0.67	0.87	120					
								0.03	0.06	0.10	0.18	0.31	0.49	0.71	140					
										0.03	0.09	0.18	0.32	0.53	160					
											0.05	0.13	0.24	0.38	180					
												0.01	0.07	0.15	0.25	200				
													0.03	0.09	0.16	220				
														0.04	0.09	240				
0.65	0.68	0.72	0.75	0.77	0.80	0.82	0.83	0.84	0.85	0.86	0.87	0.87	0.88	0.89	0.89	20				
0.25	0.29	0.33	0.38	0.43	0.48	0.53	0.57	0.60	0.63	0.66	0.68	0.71	0.73	0.74	0.75	40				
0.03	0.06	0.10	0.13	0.17	0.22	0.26	0.31	0.37	0.42	0.47	0.51	0.55	0.58	0.60	0.65	60				
		0.03	0.05	0.08	0.10	0.13	0.17	0.20	0.24	0.29	0.34	0.39	0.43	0.46	0.49	80				
				0.02	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13	0.17	0.22	0.26	0.31	0.35	0.39	100				
						0.01	0.04	0.06	0.10	0.13	0.17	0.21	0.25	0.29	120					
							0.01	0.03	0.05	0.08	0.10	0.14	0.17	0.21	140					
									0.02	0.05	0.06	0.10	0.13	0.16	160					
										0.02	0.04	0.06	0.09	0.11	180					
											0.02	0.04	0.05	0.07	200					

風表ハ風表

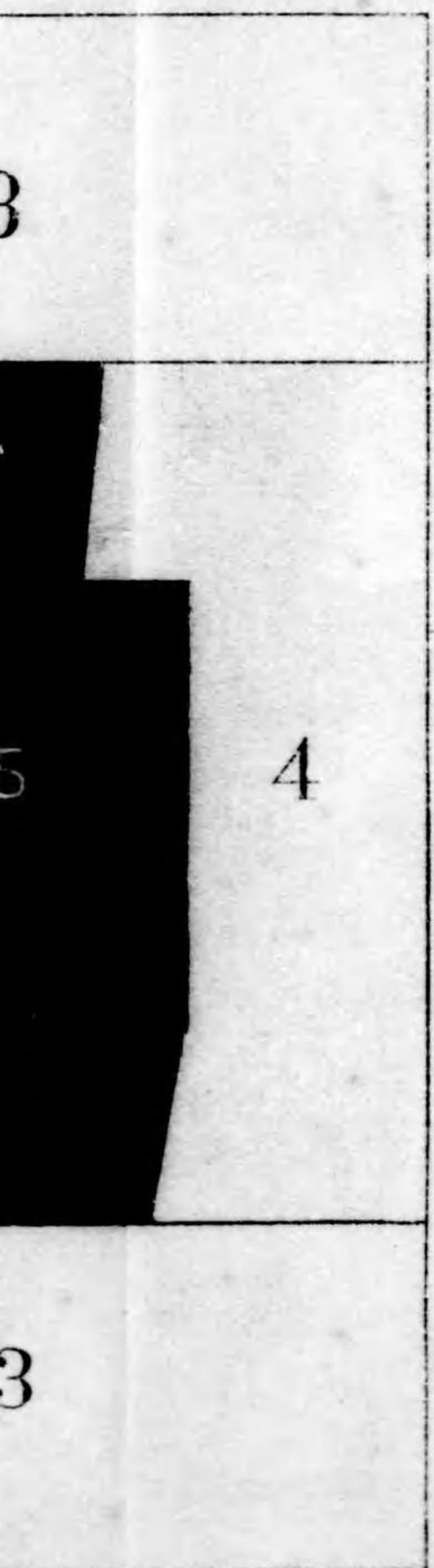
風表ハ風表 正米(時風)	式	照尺	
		000	000
風表ハ風表ハ風表 正米(時風)	式	000	000
	式	000	000
	式	000	000
	式	000	000
	式	000	000

附表第六

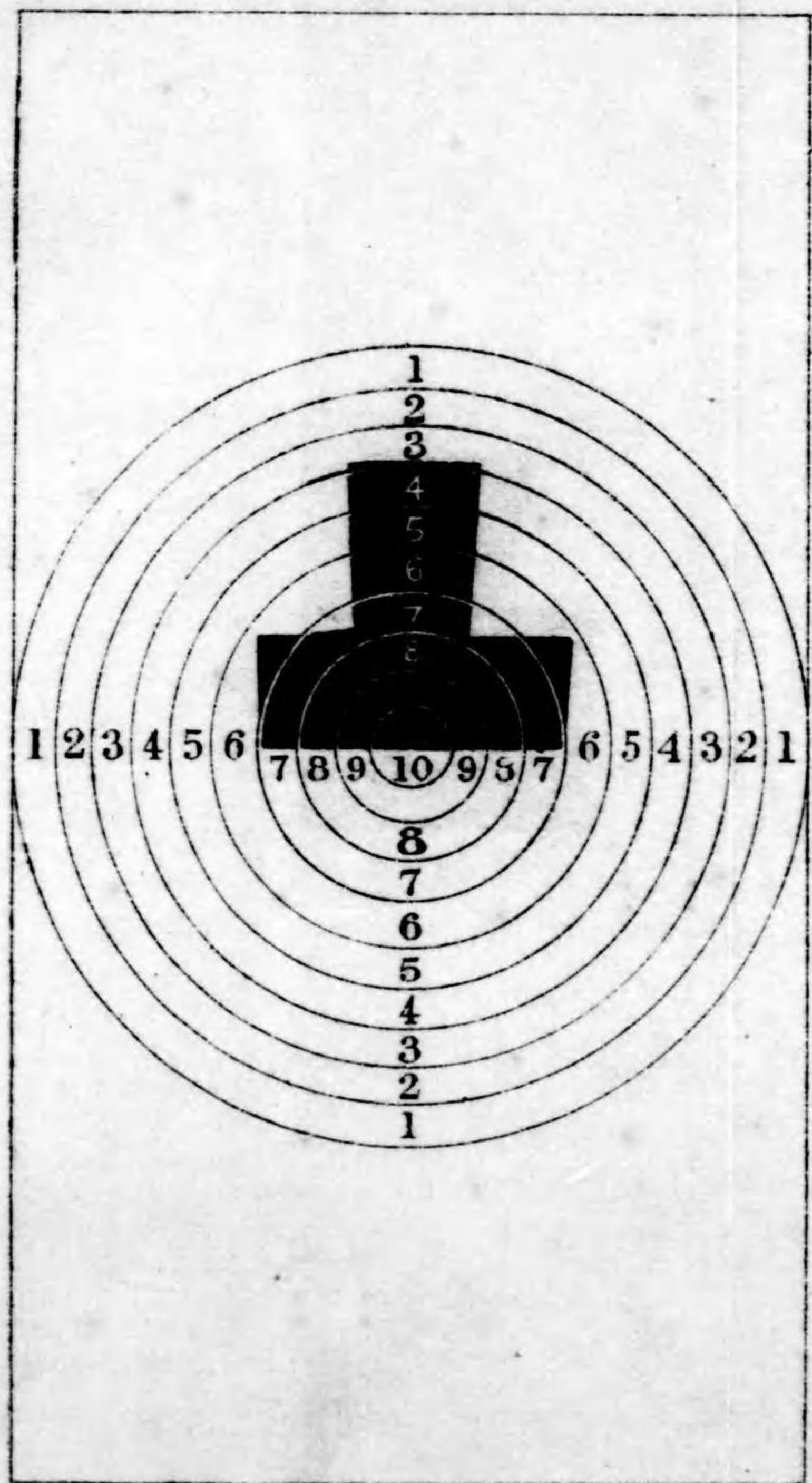
四式 騎銃 被彈地縱長		三八式 騎銃 被彈地縱長	
距離	被彈地縱長	距離	被彈地縱長
一〇〇〇	五五六	一〇〇〇	二五三
一〇〇〇	五五九	一〇〇〇	二三一
一〇〇〇	五三七	一〇〇〇	二一四
一〇〇〇	四七三	一〇〇〇	一九四
一〇〇〇	四二四	一〇〇〇	一八〇
一〇〇〇	三八一	一〇〇〇	一六六
一〇〇〇	三二四	一〇〇〇	一五四
一〇〇〇	二八〇	一〇〇〇	一四三
一〇〇〇	二四〇	一〇〇〇	一三四

距離	被彈地縱長	距離	被彈地縱長
一〇〇	二五三	一〇〇	二五三
二〇〇	二五三	二〇〇	二五三
三〇〇	二五三	三〇〇	二五三
四〇〇	二五三	四〇〇	二五三
五〇〇	二五三	五〇〇	二五三
六〇〇	二五三	六〇〇	二五三
七〇〇	二五三	七〇〇	二五三
八〇〇	二五三	八〇〇	二五三
九〇〇	二五三	九〇〇	二五三
一〇〇〇	二五三	一〇〇〇	二五三

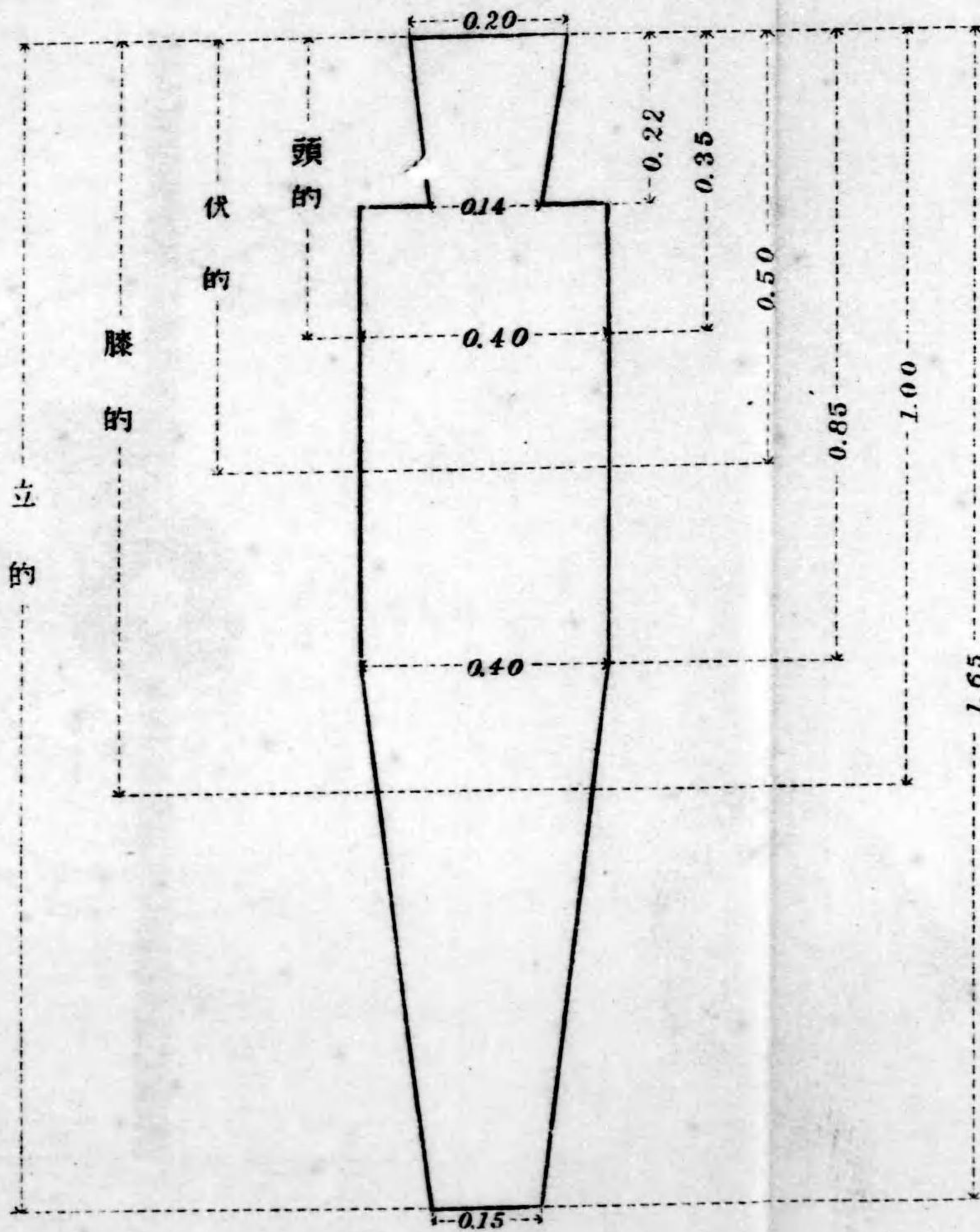
圖附
擊射本基



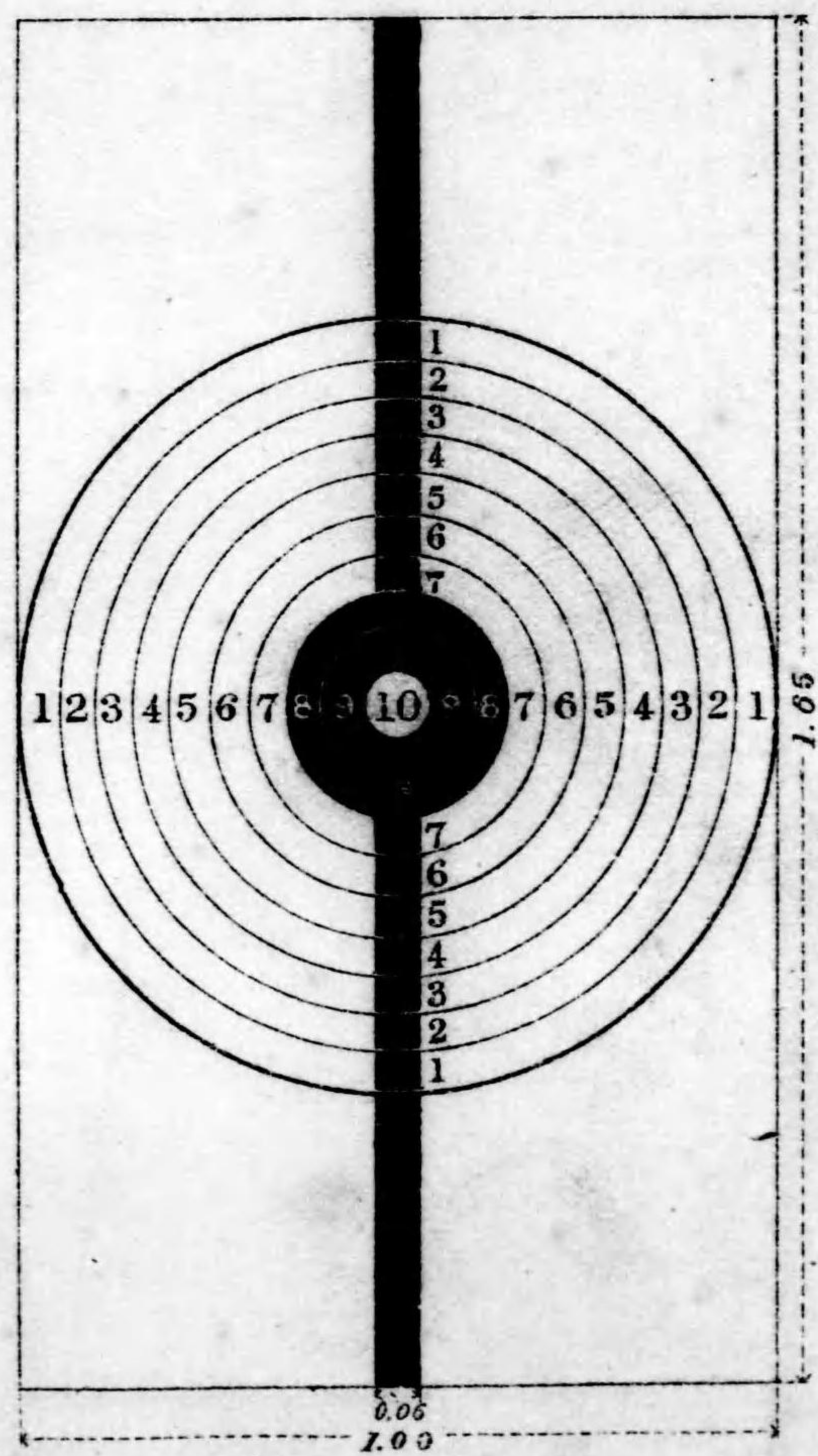
三第圖附
的頭圈



二第圖附
的像人

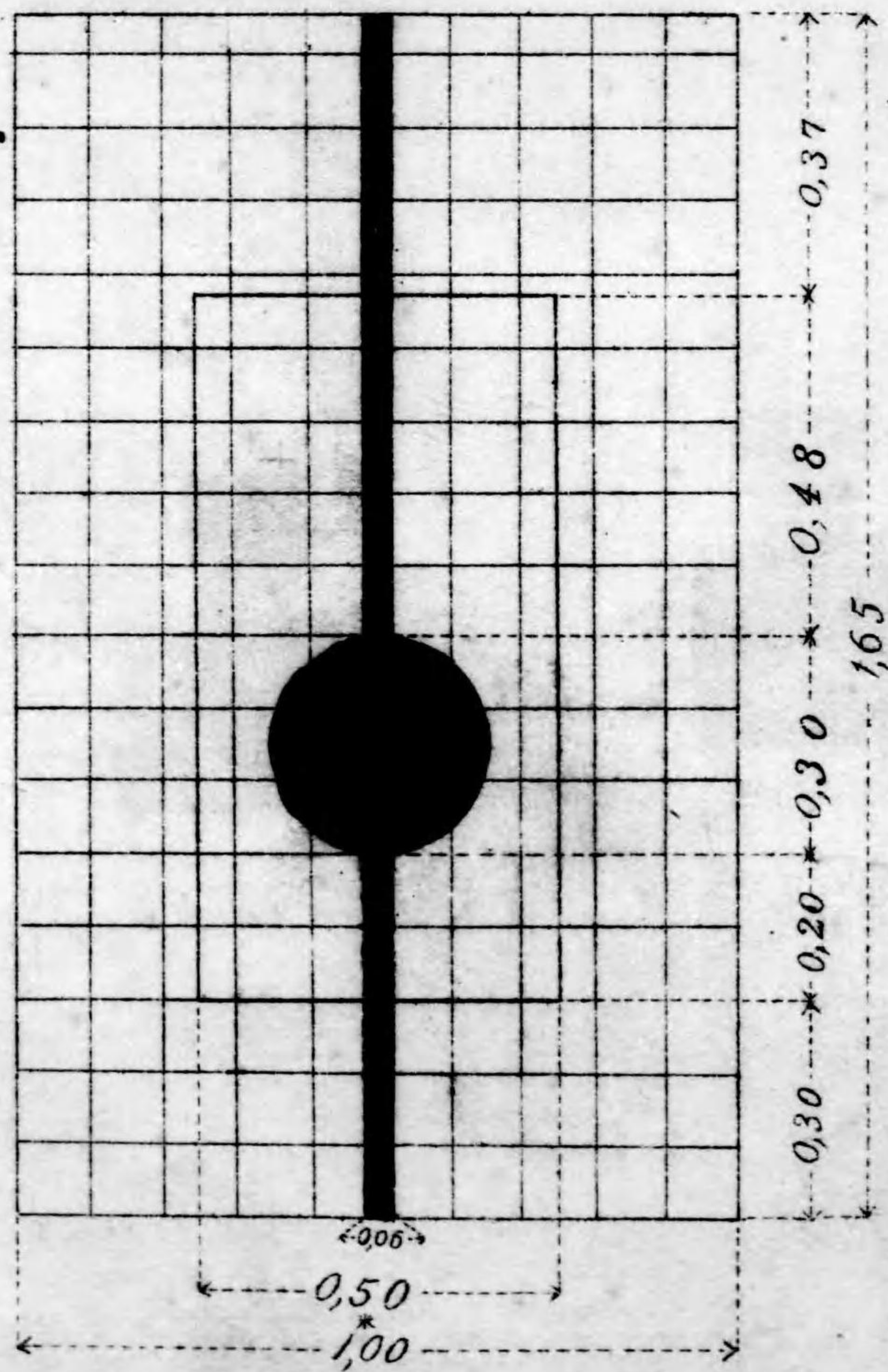


一第圖附
的圈

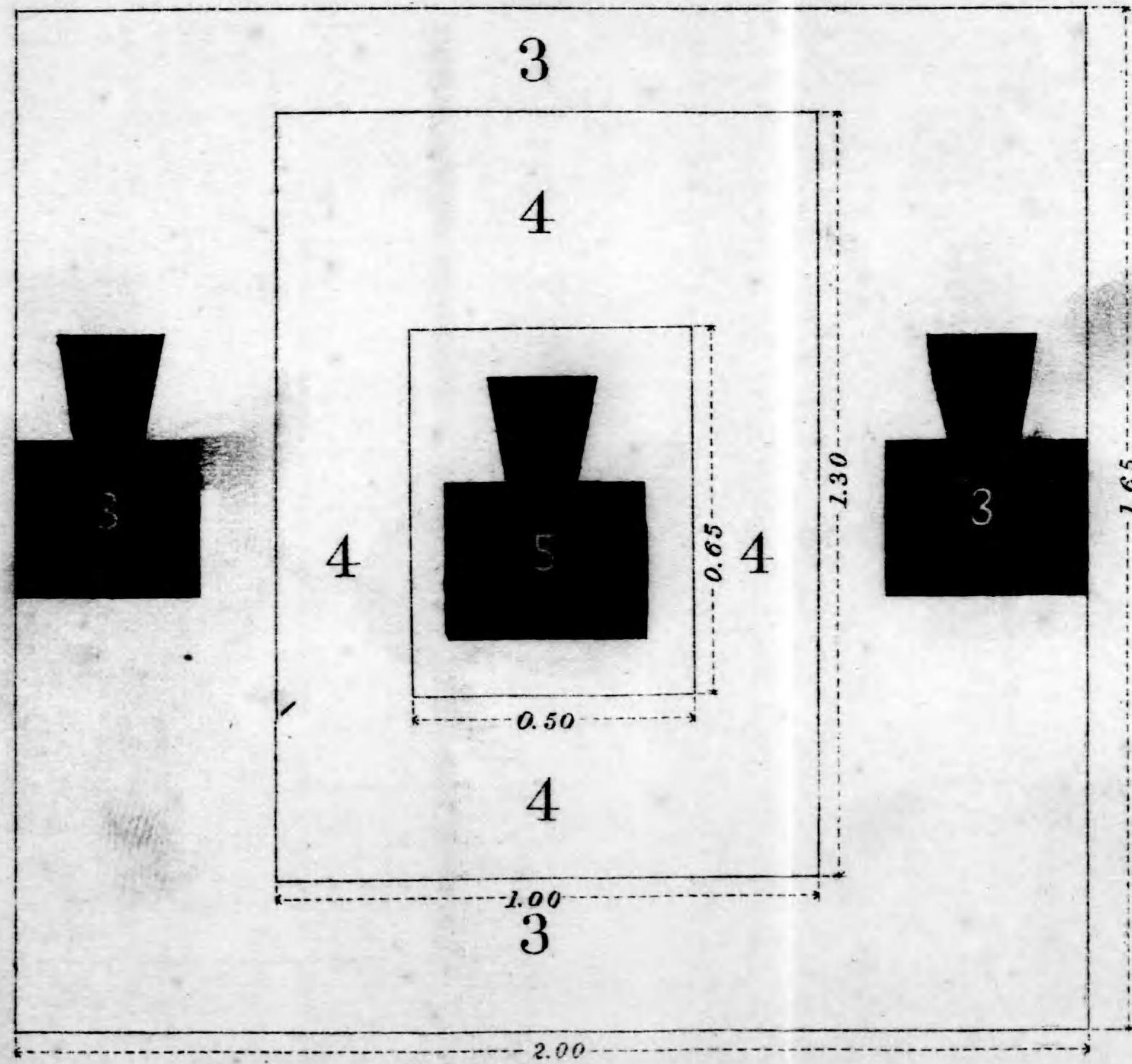


頭	三〇〇
頸	五五六
胸	一二〇
腰	二五三
腿	
脚	
四	
五	
六	
七	
八	
九	
十	

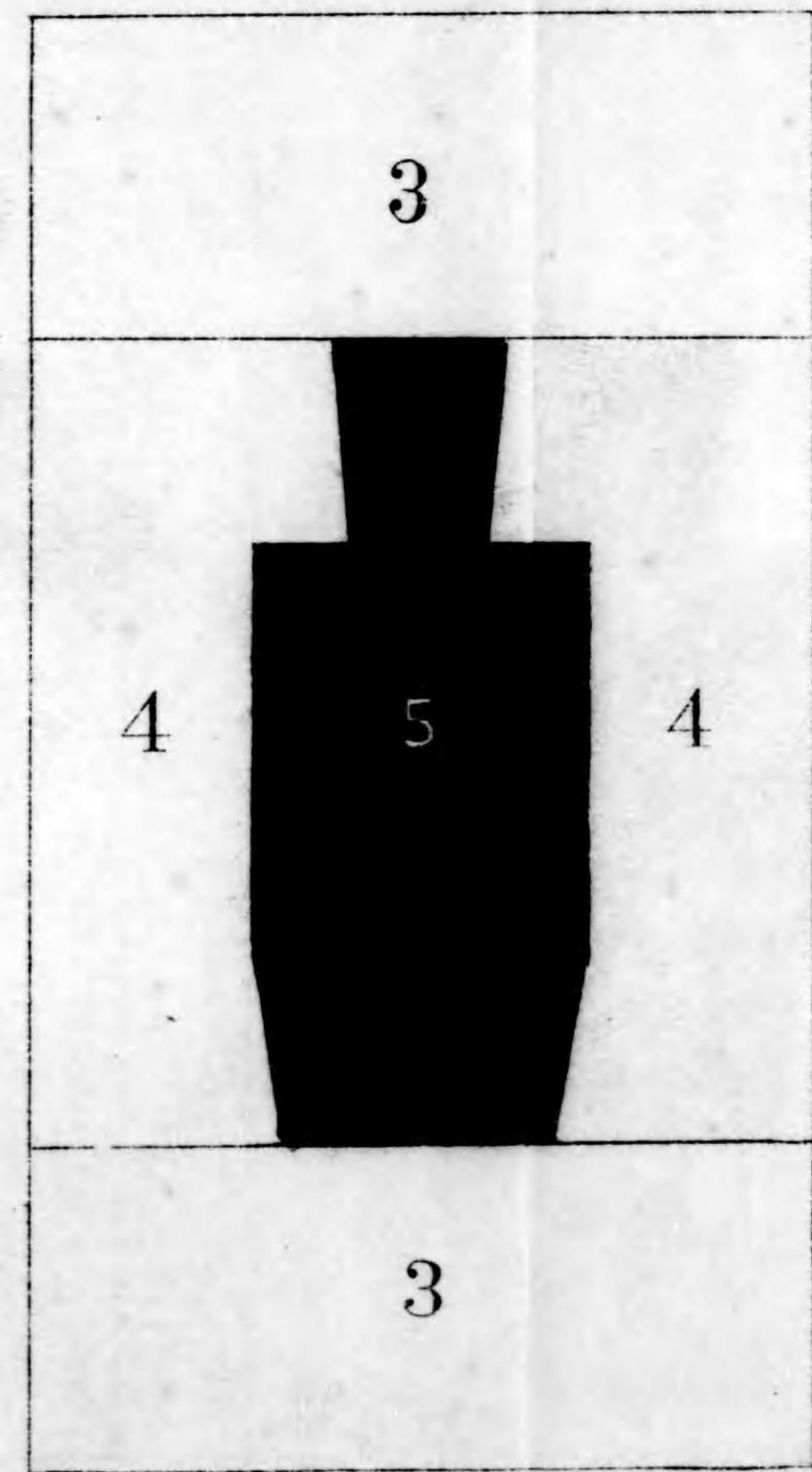
六第圖附
的驗試中命銃騎(式八三)式四四



五第圖附
的兵散



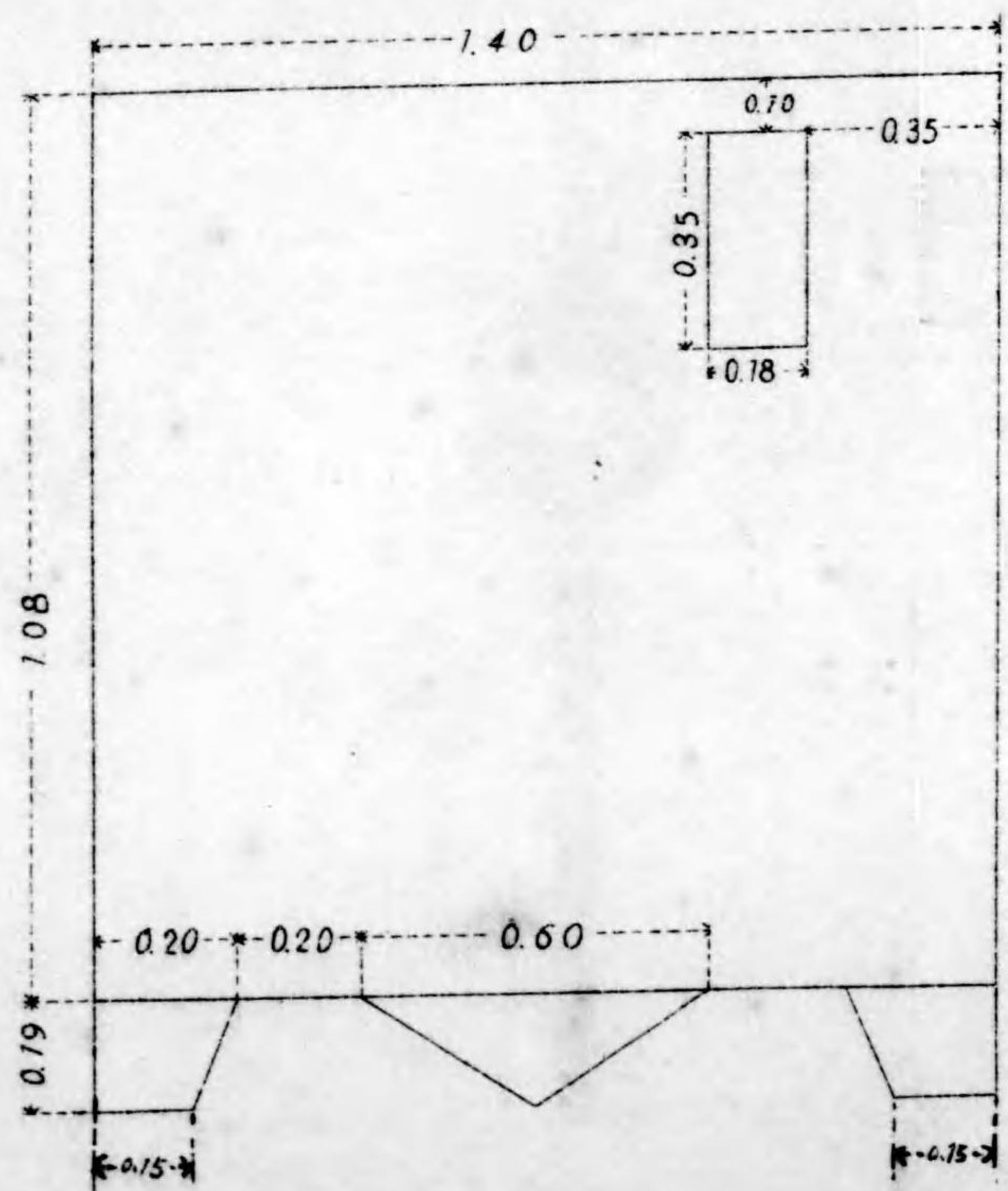
四第圖附
的膝用擊射本基



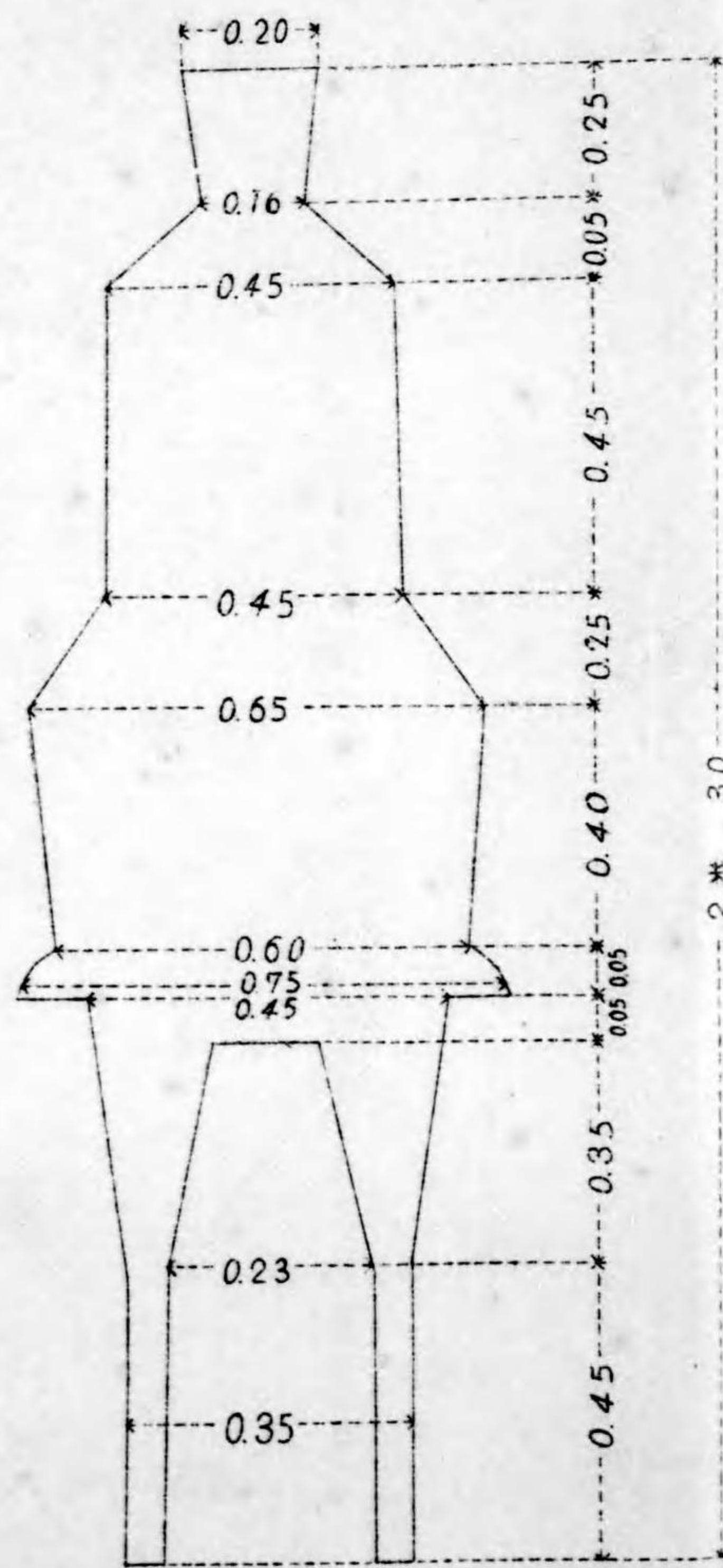
三第
的頭



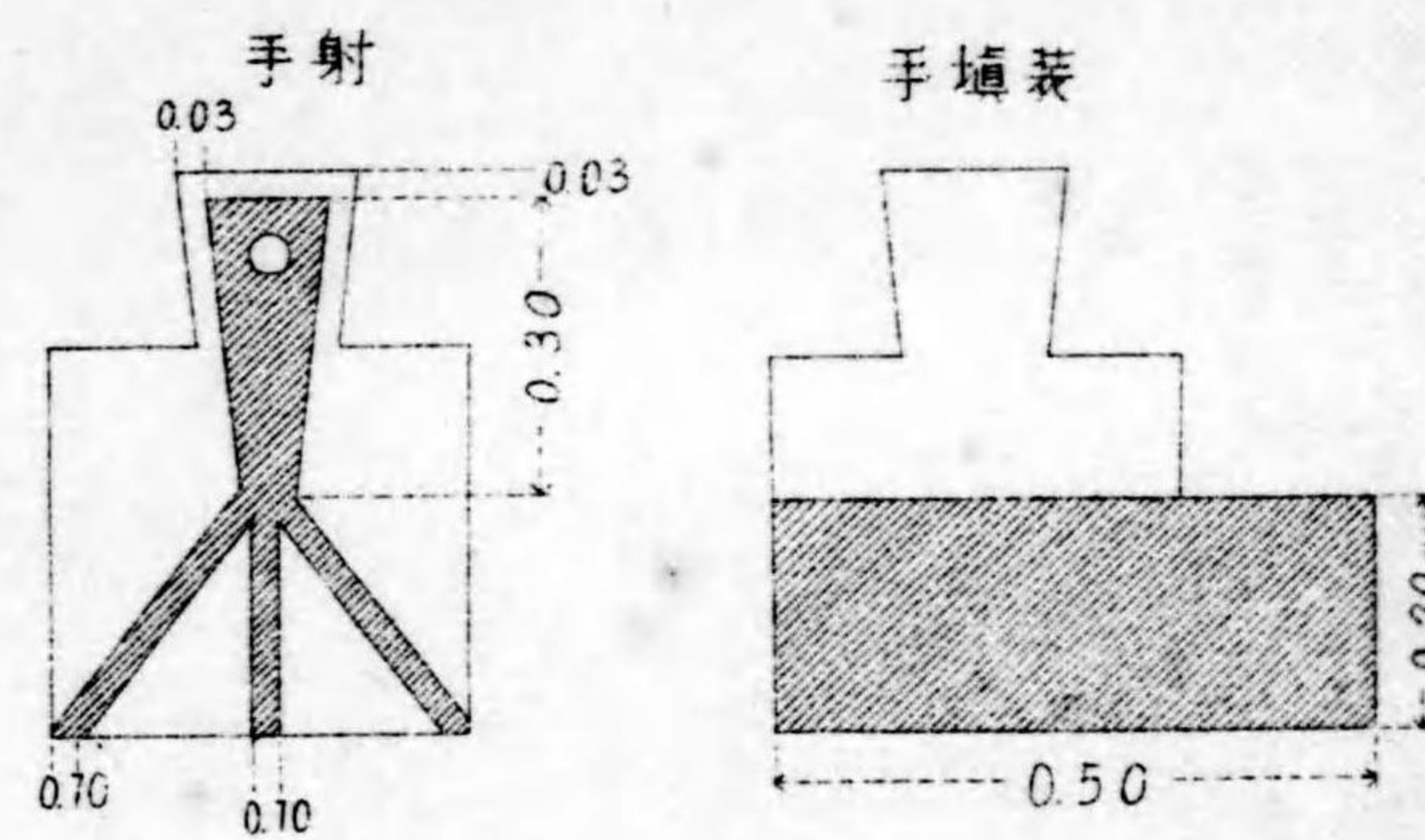
九第圖附
的車砲



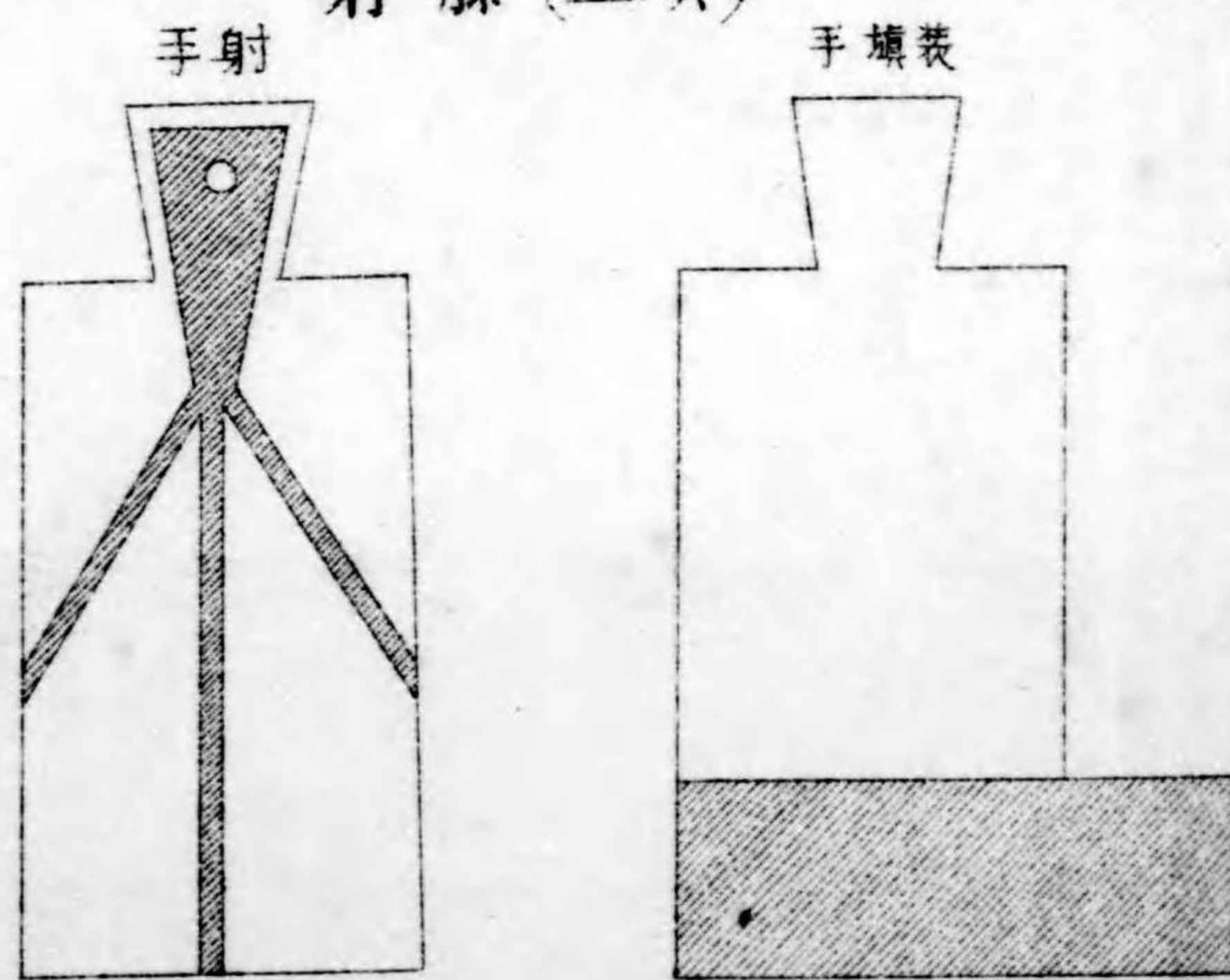
八第圖附
的兵騎



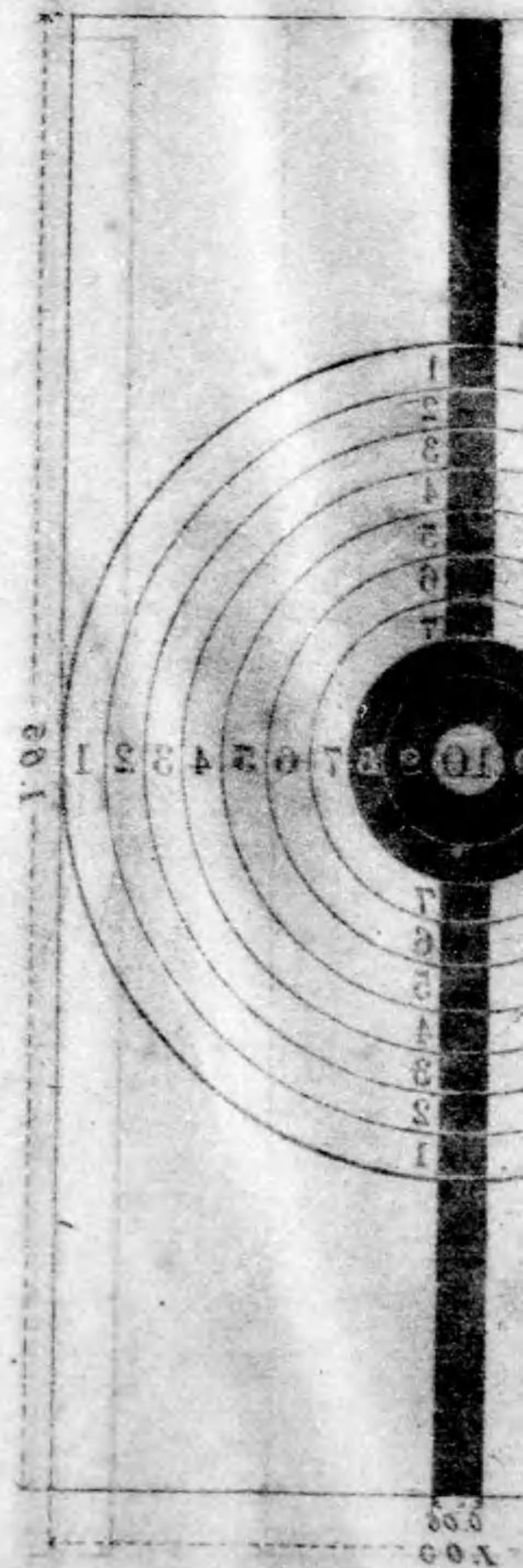
七第圖附
的銃閔機
射伏 (一其)



射膝 (二其)

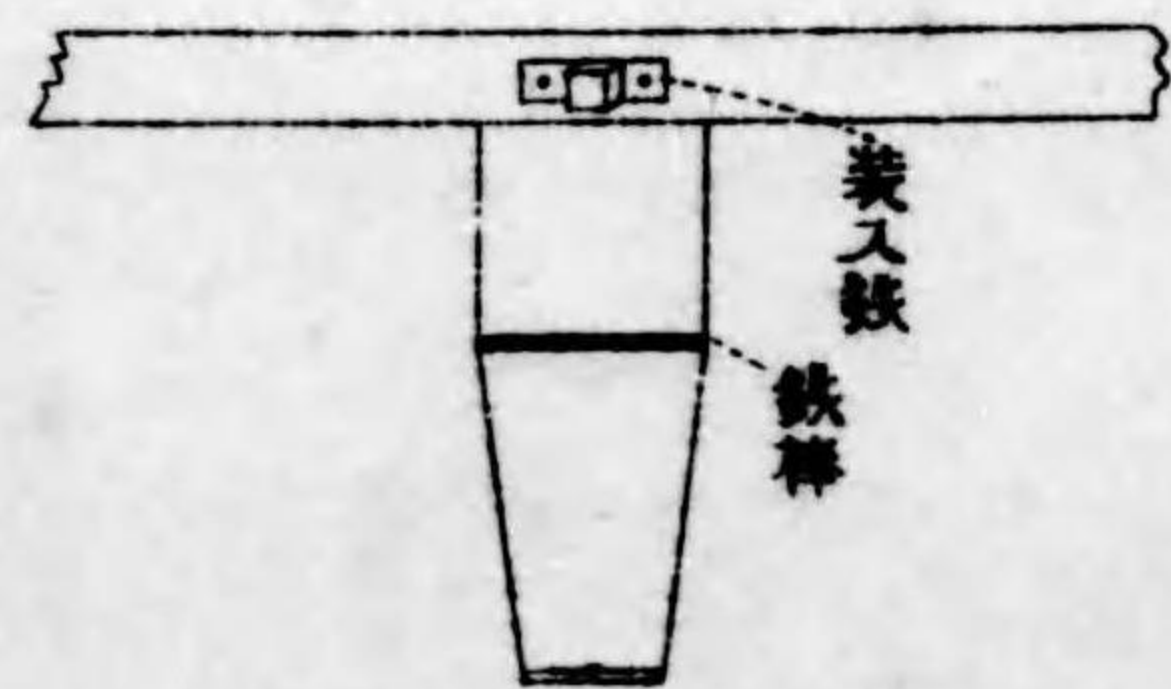
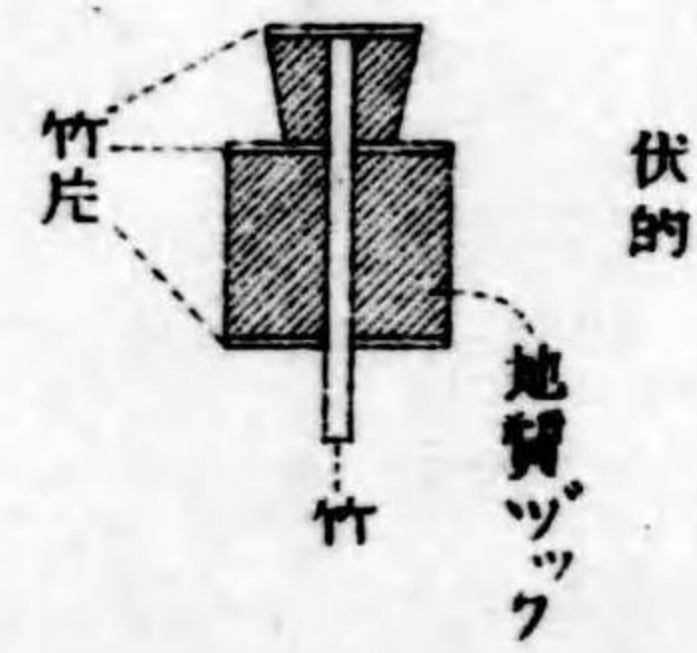


樹圖
圖

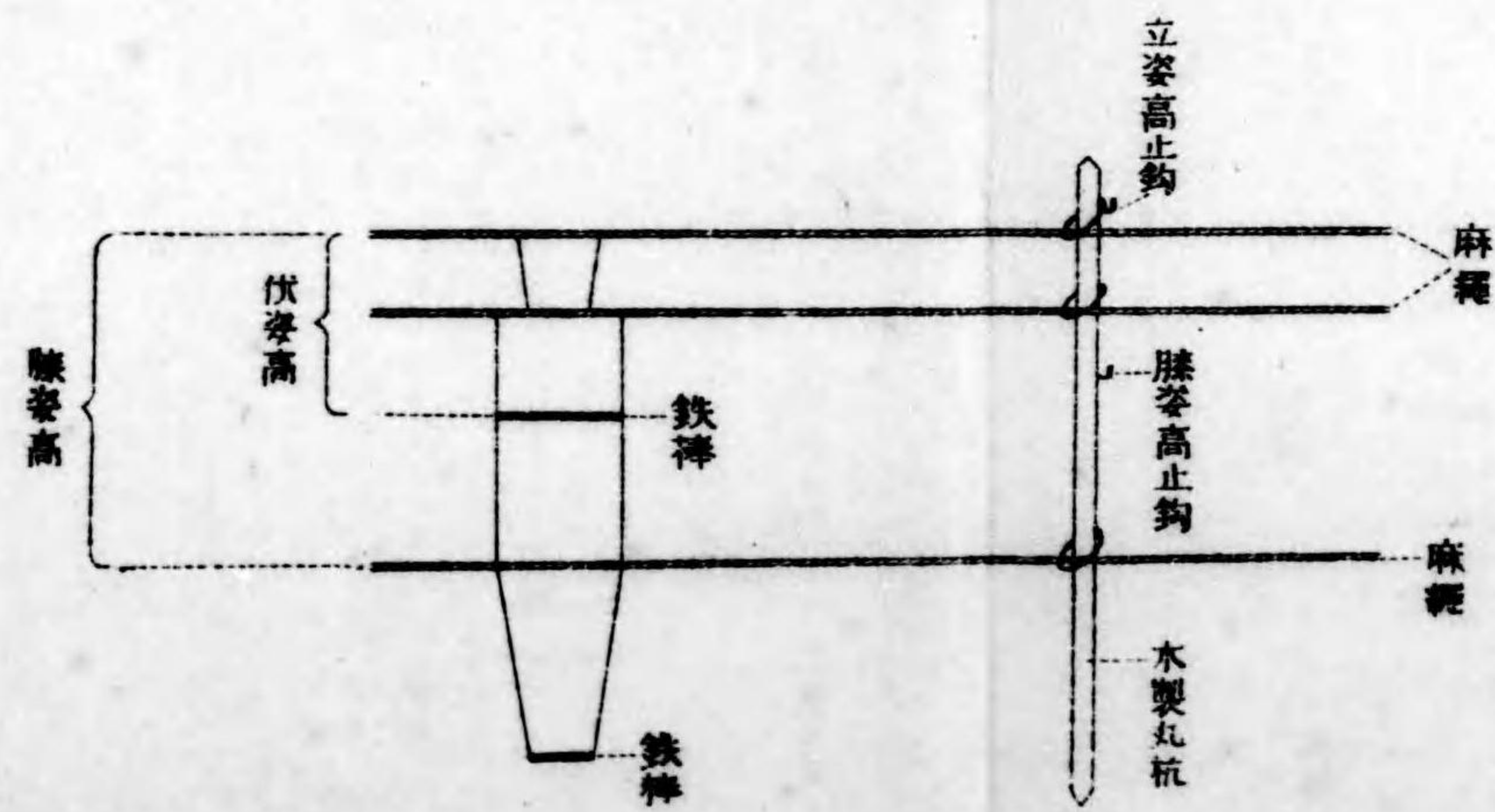
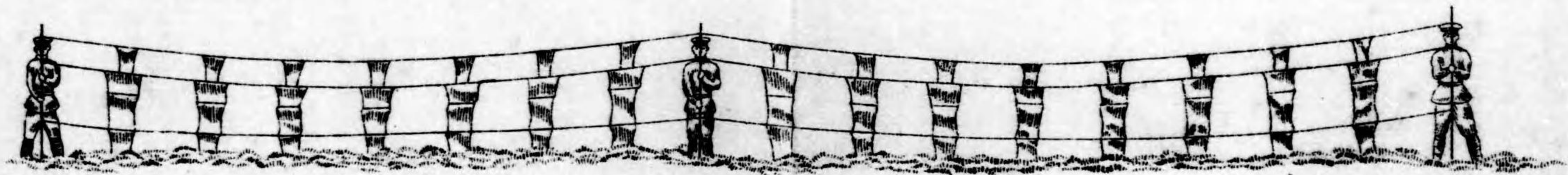


的幕

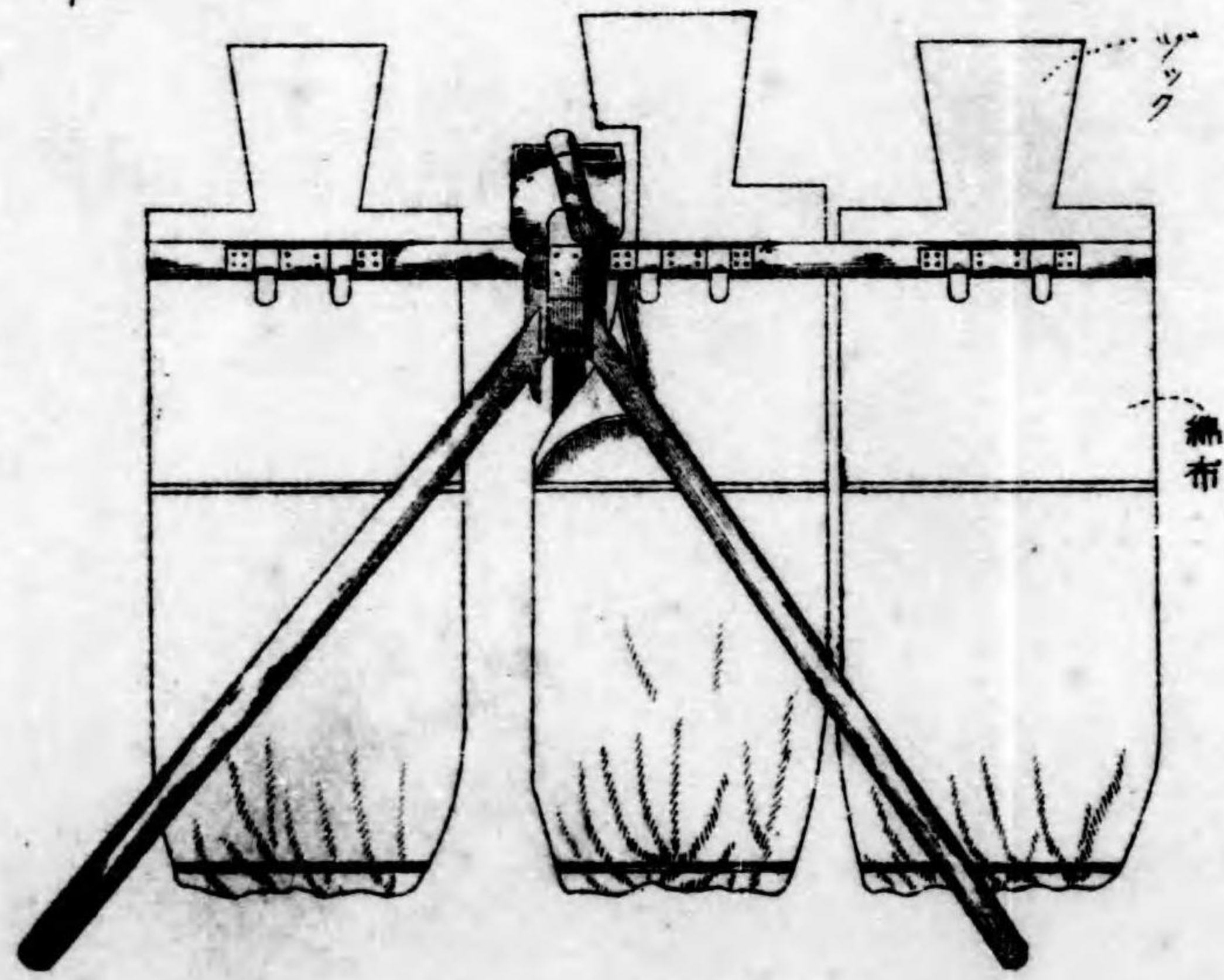
ノモルタシニ高姿膝ヲ的幕用帶携 (其二)



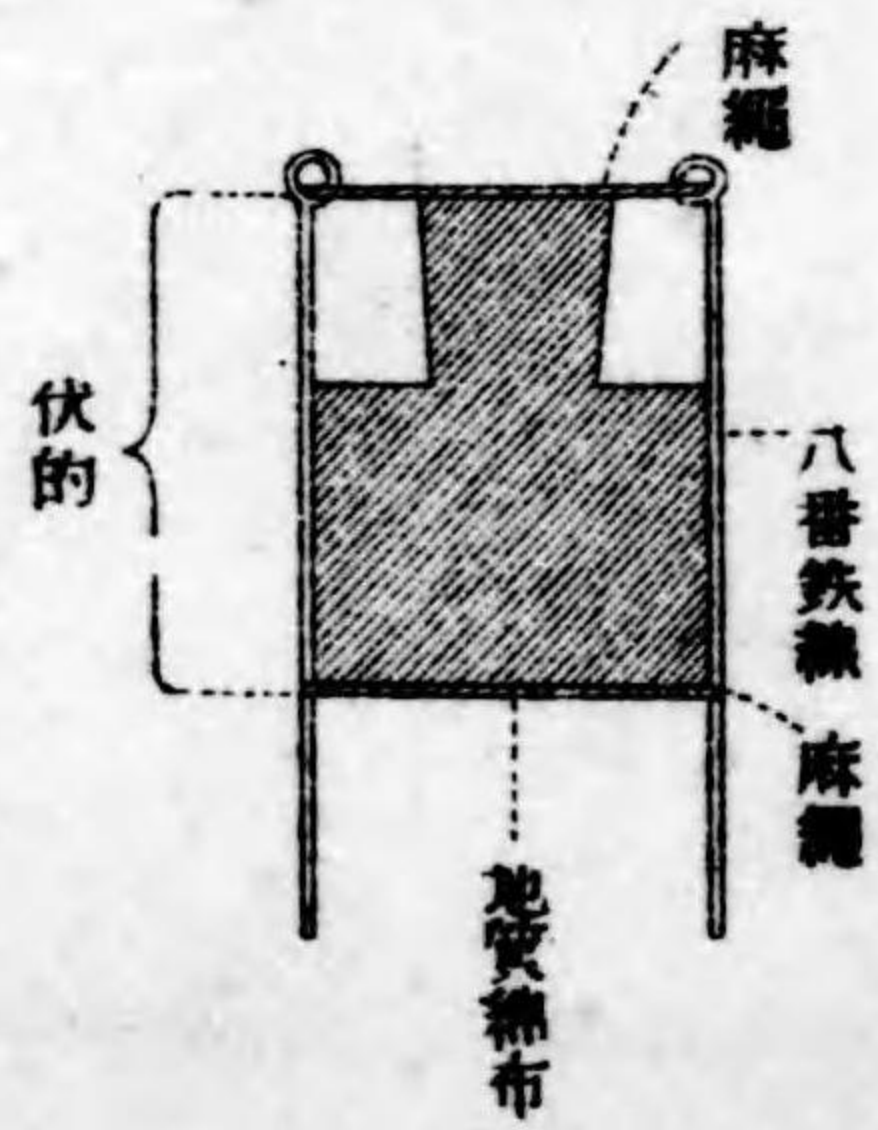
ノモルタシ張展ニ高姿立ヲ的幕 (其一)



的幕統閱機 (其四)

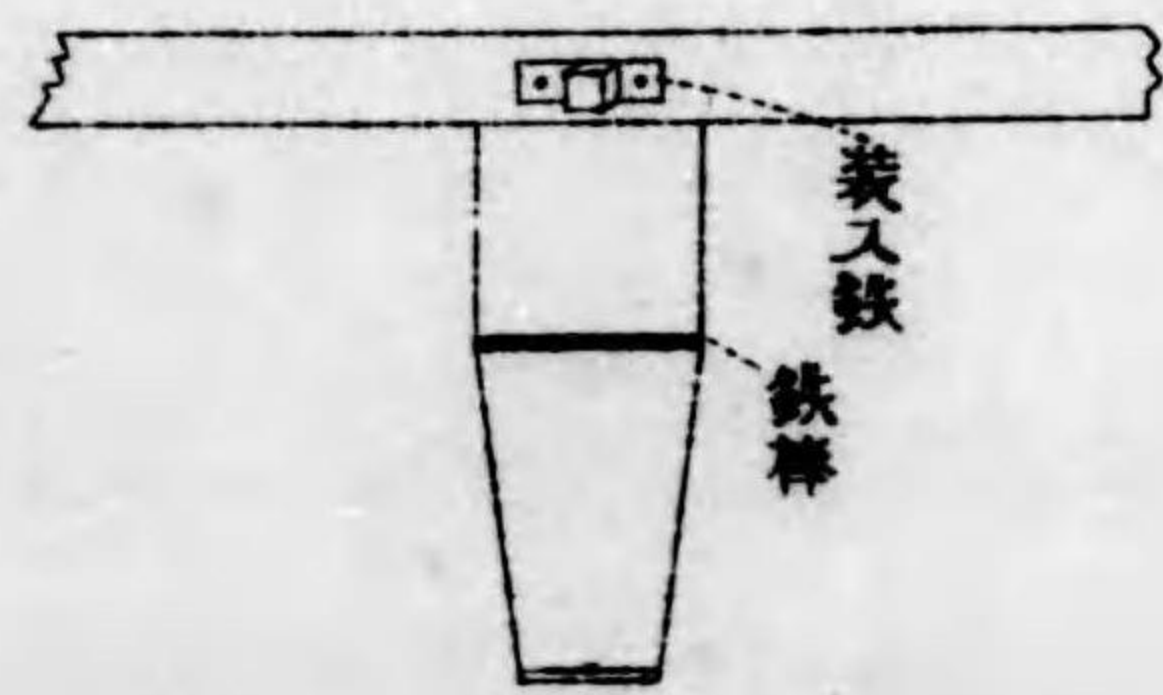
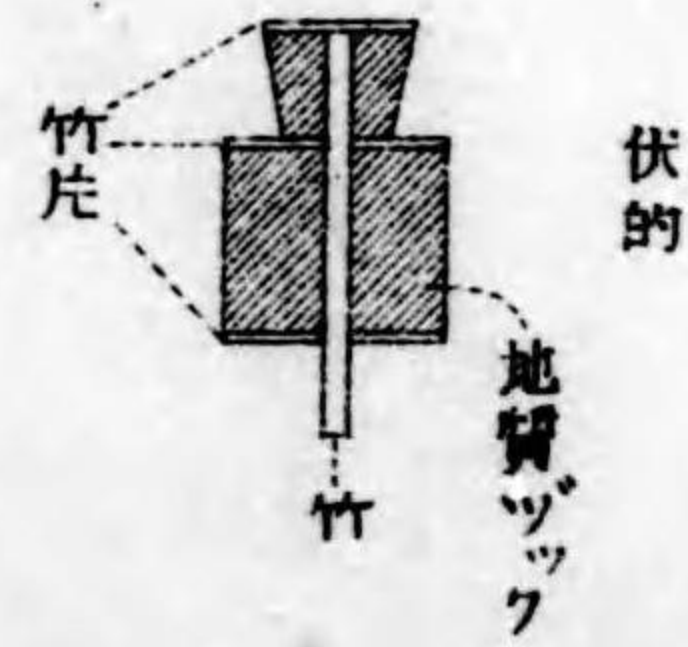


用立植定固 (其三) 的幕首頭

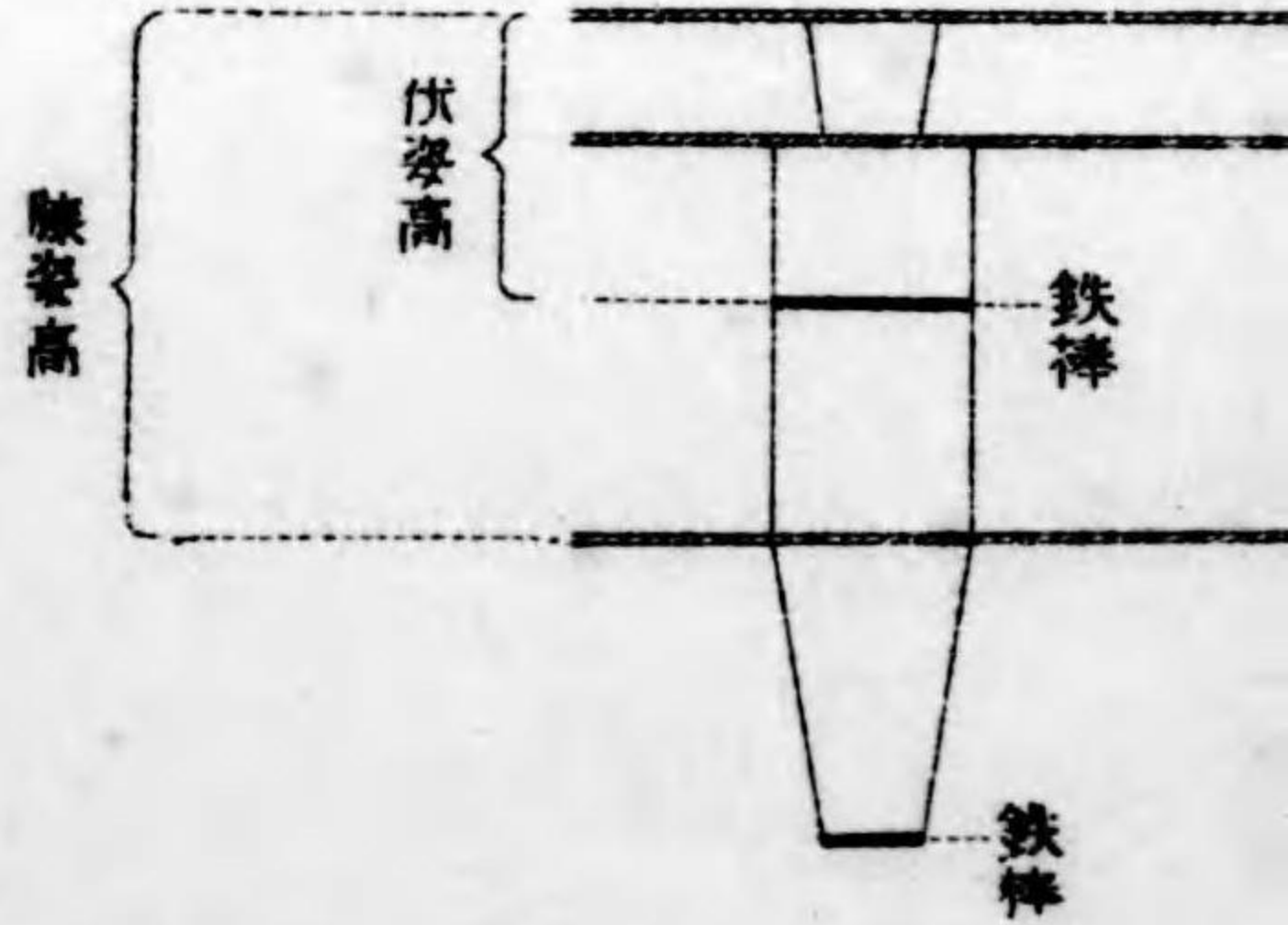
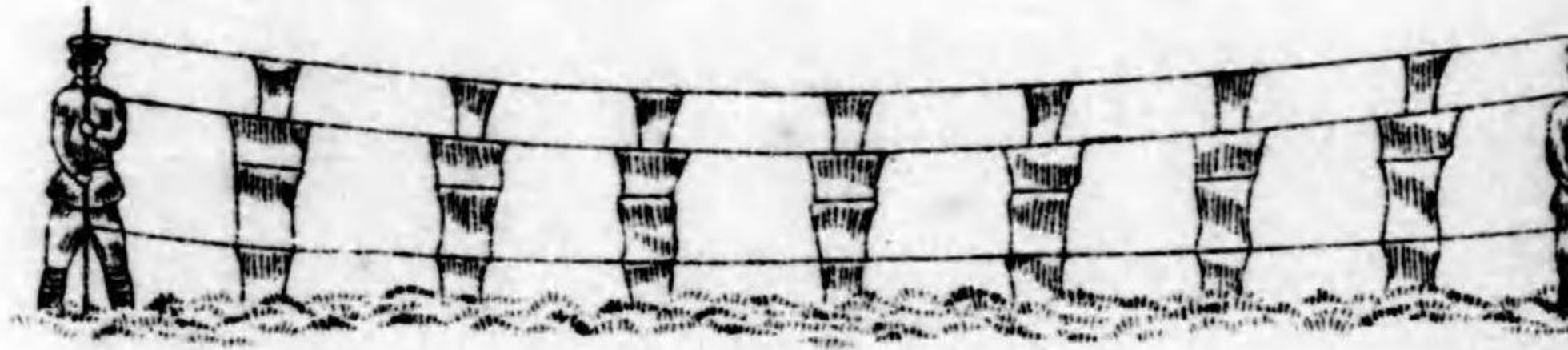


的幕

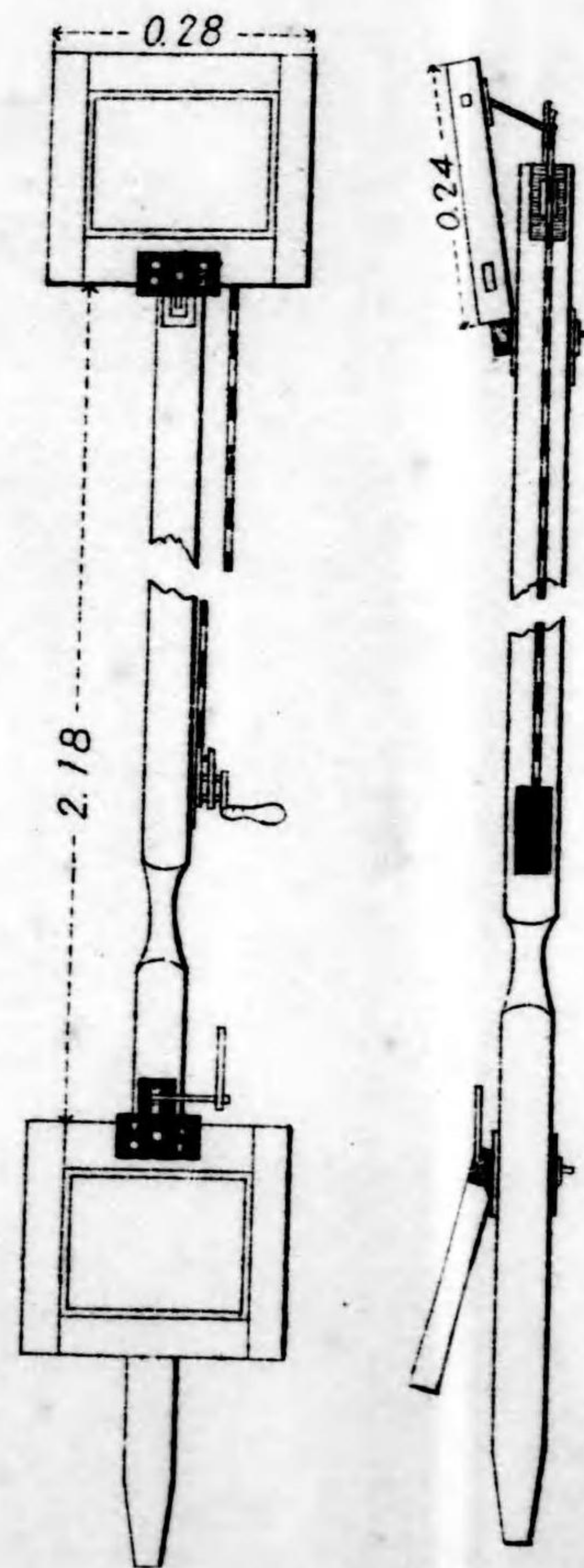
ノモルタシニ高姿膝ヲ的幕用帶携 (其二)



ノモルタシ張展



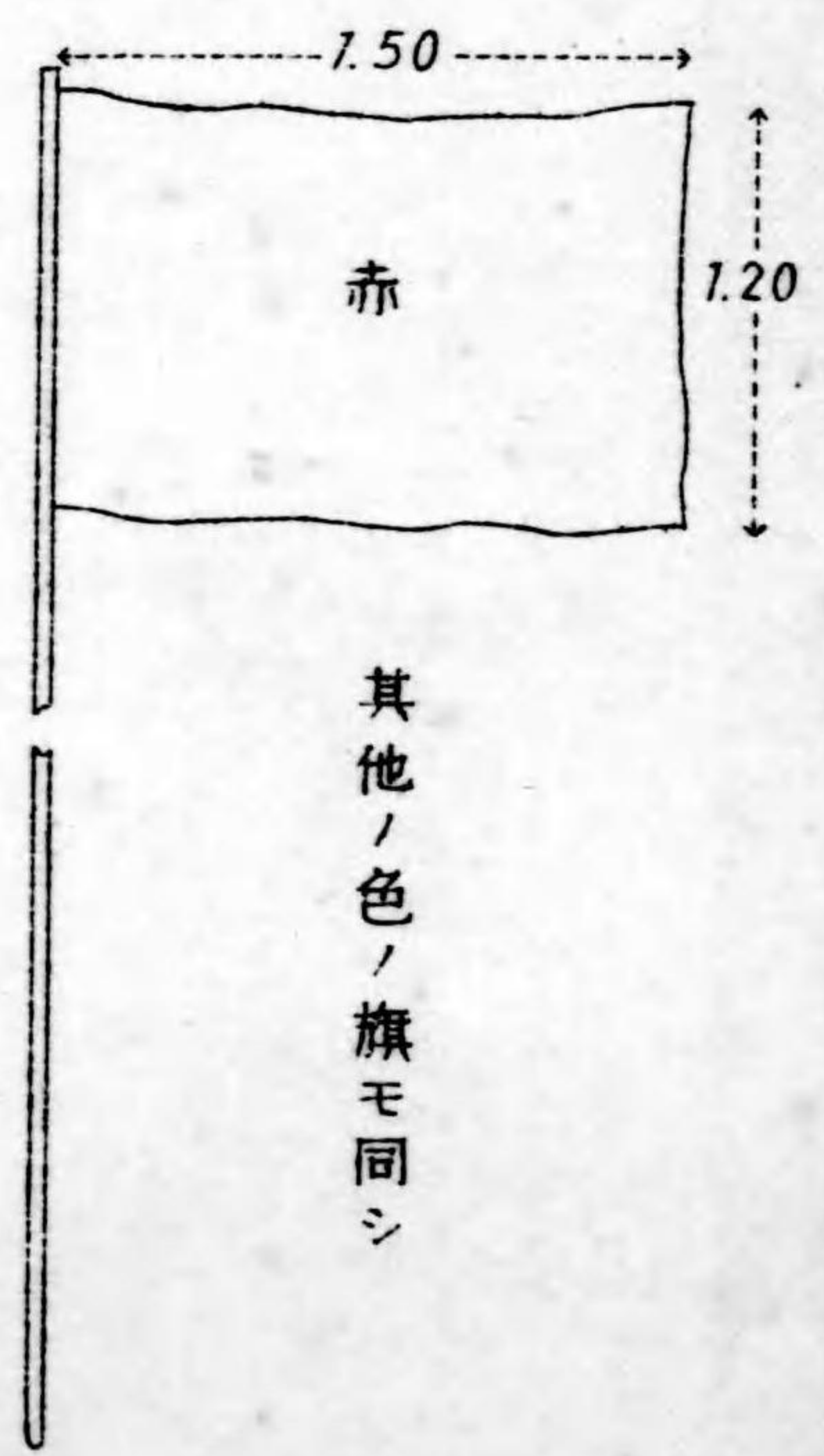
附圖第十五
治痕竿



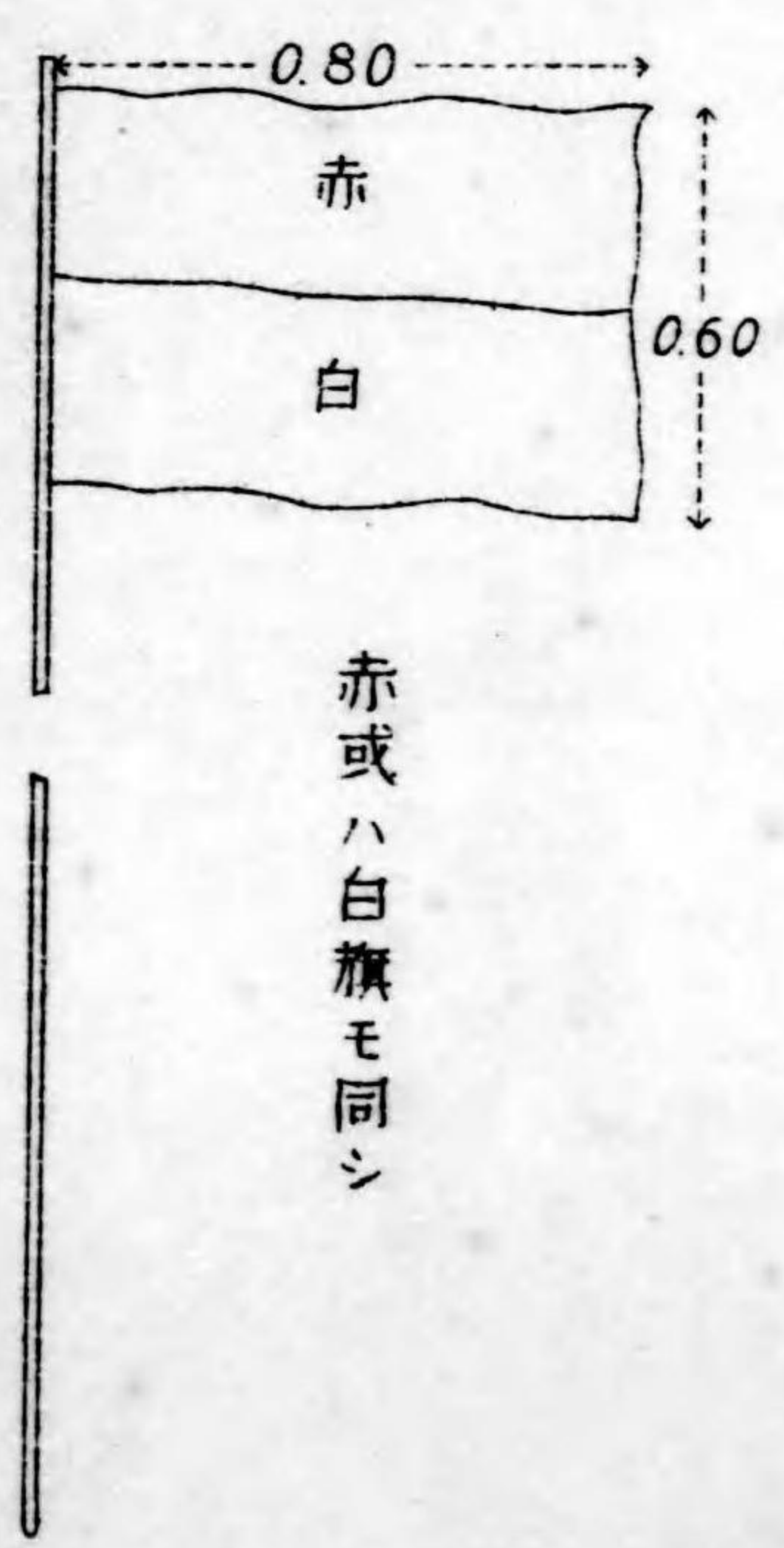
附圖第十四
監的鏡



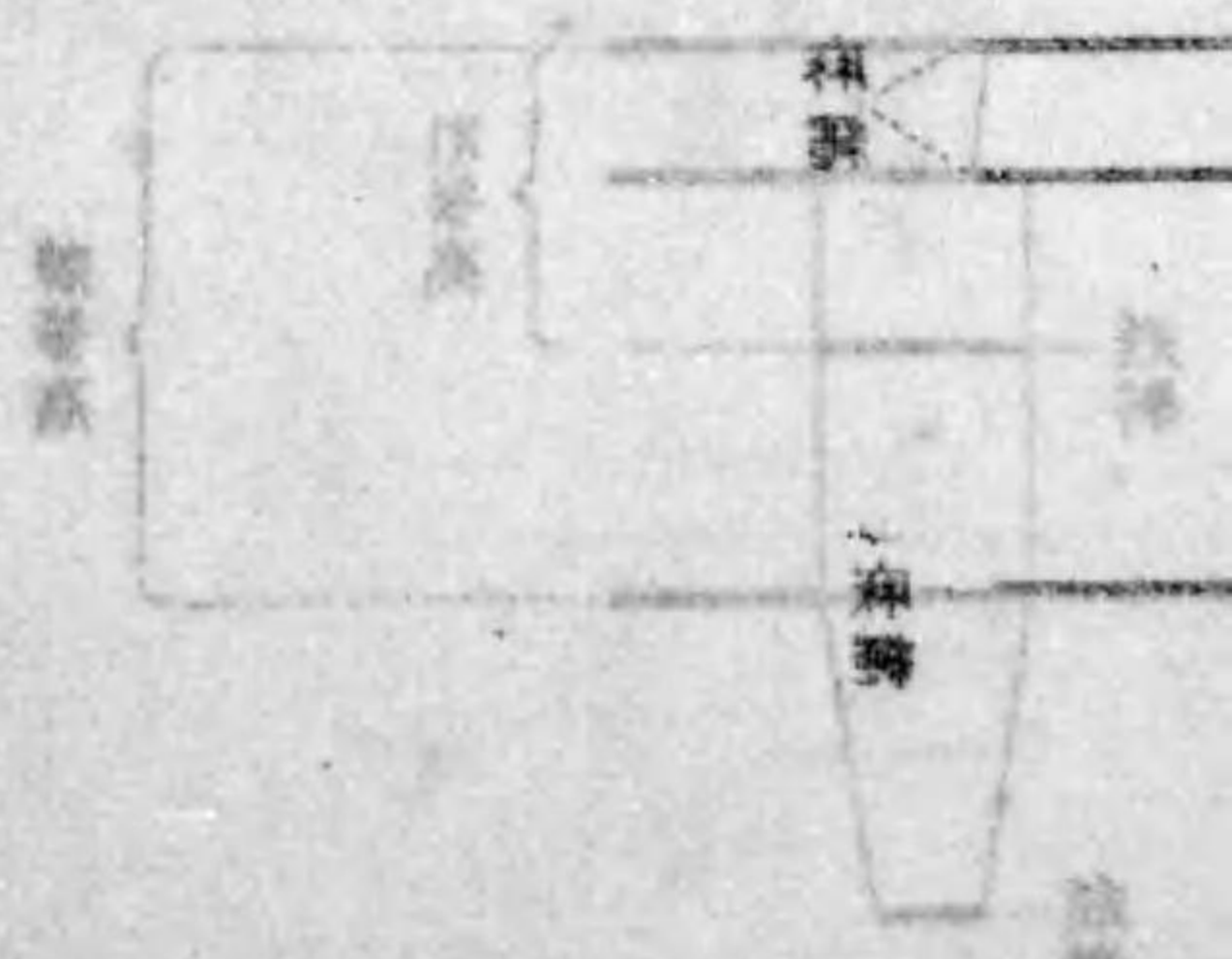
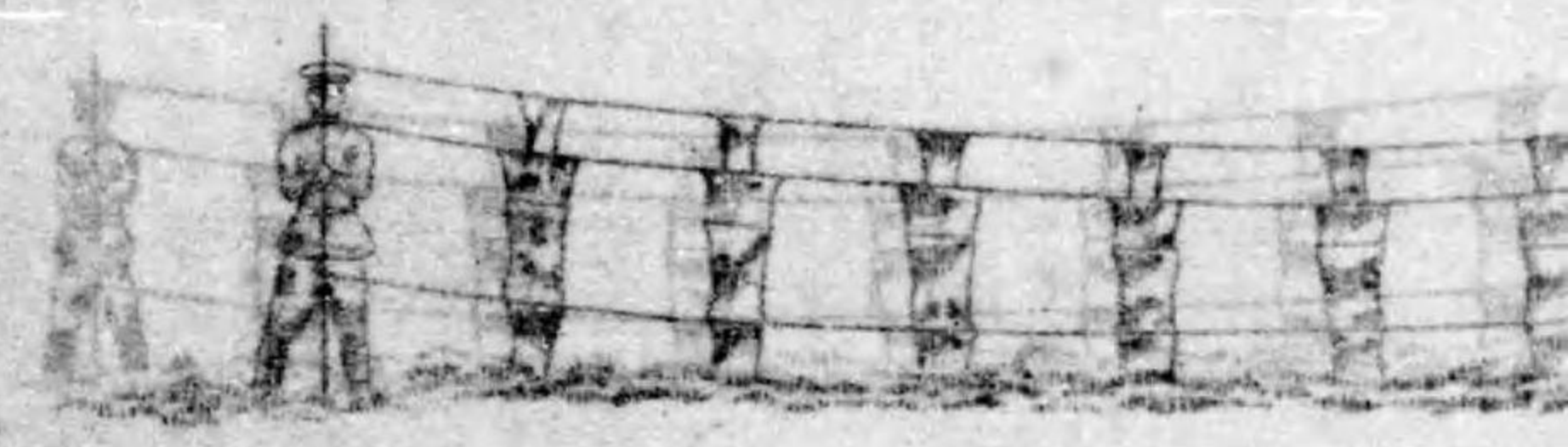
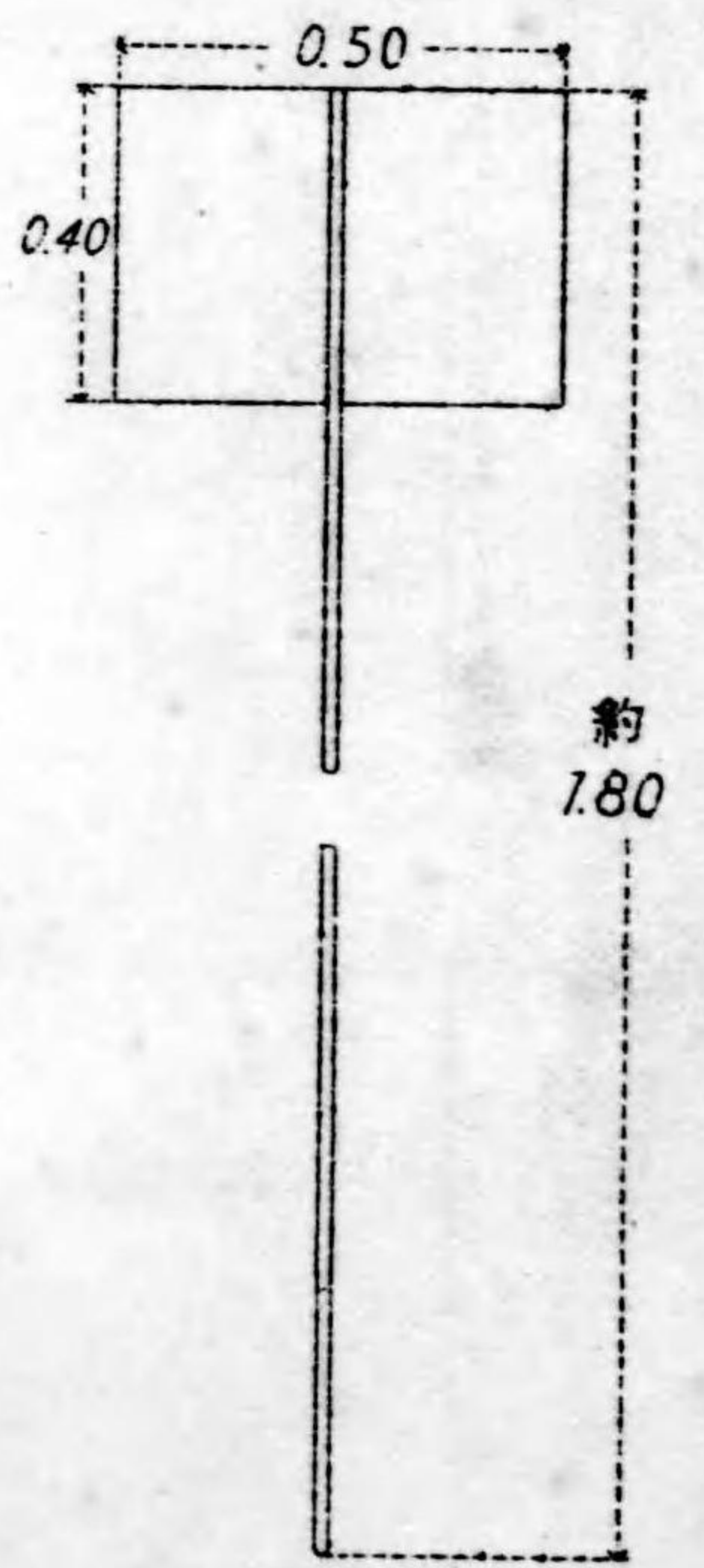
三十第圖附
(大) 旗號



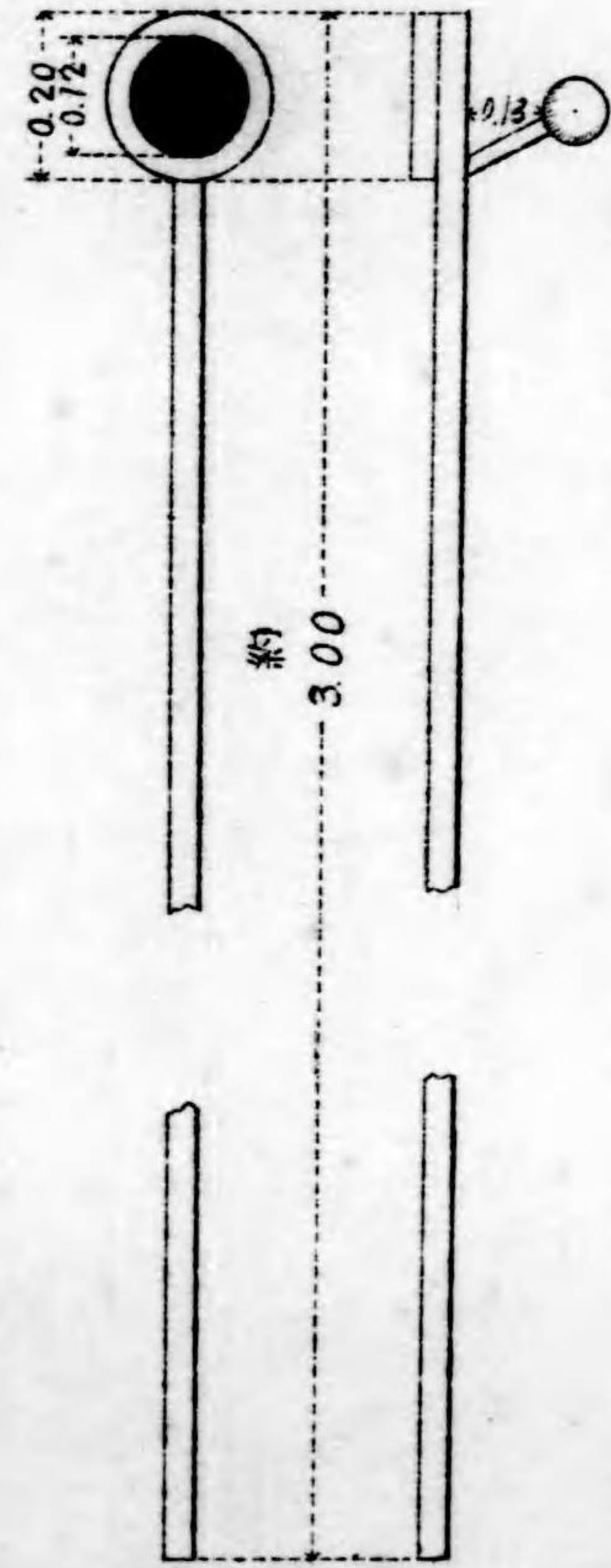
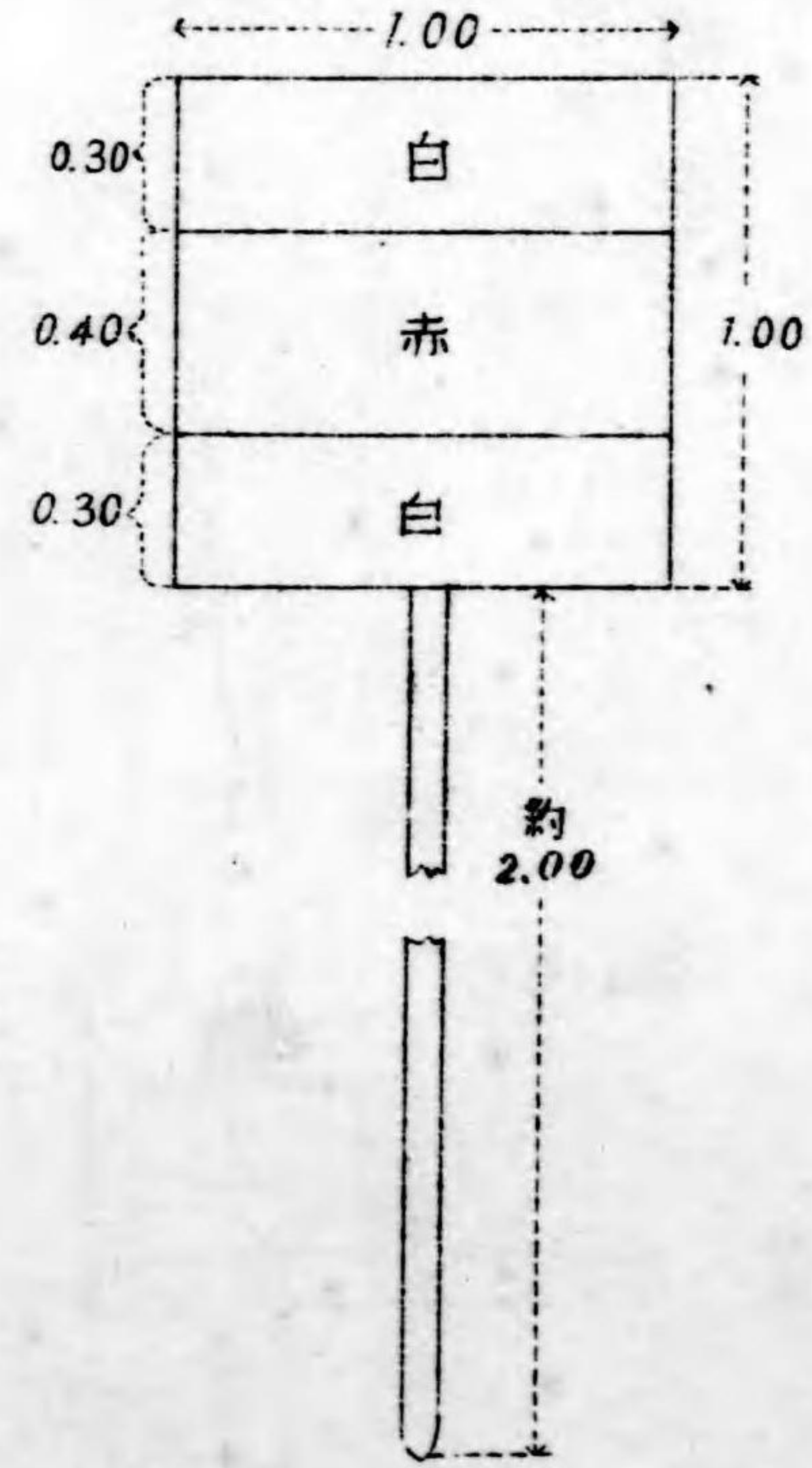
二十第圖附
(小) 旗號



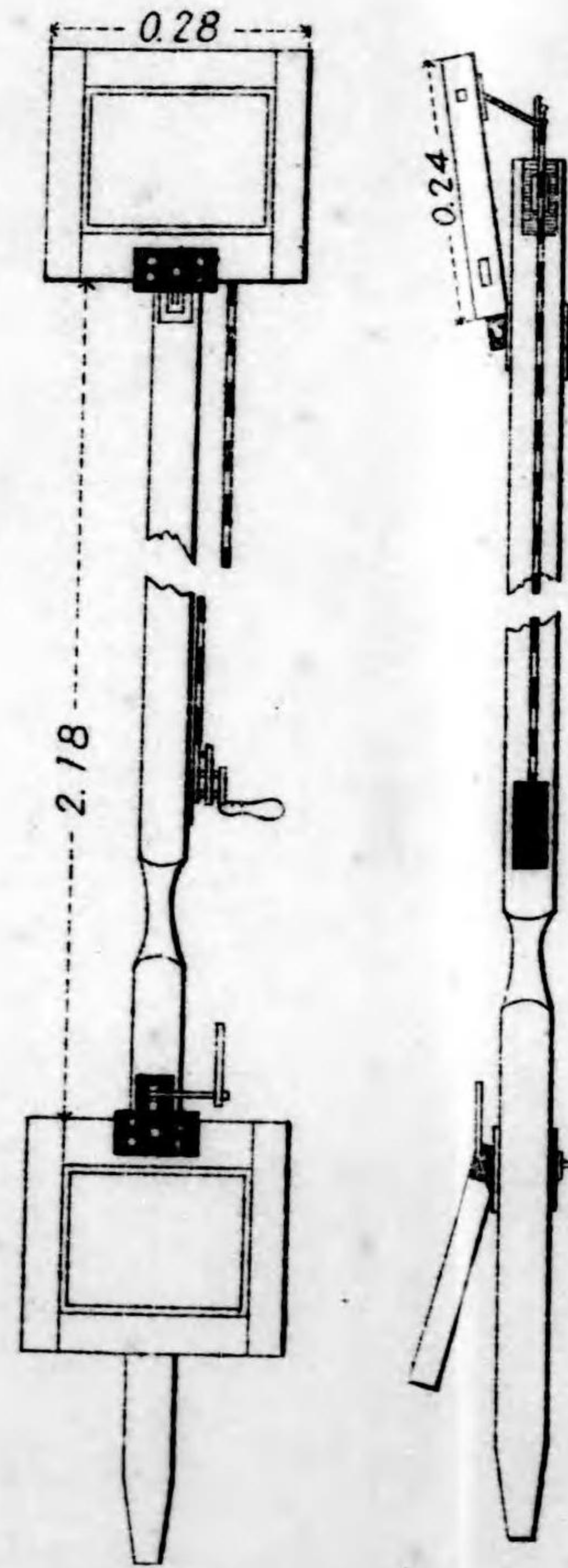
一十第圖附
板號記



六十第圖附
標號示

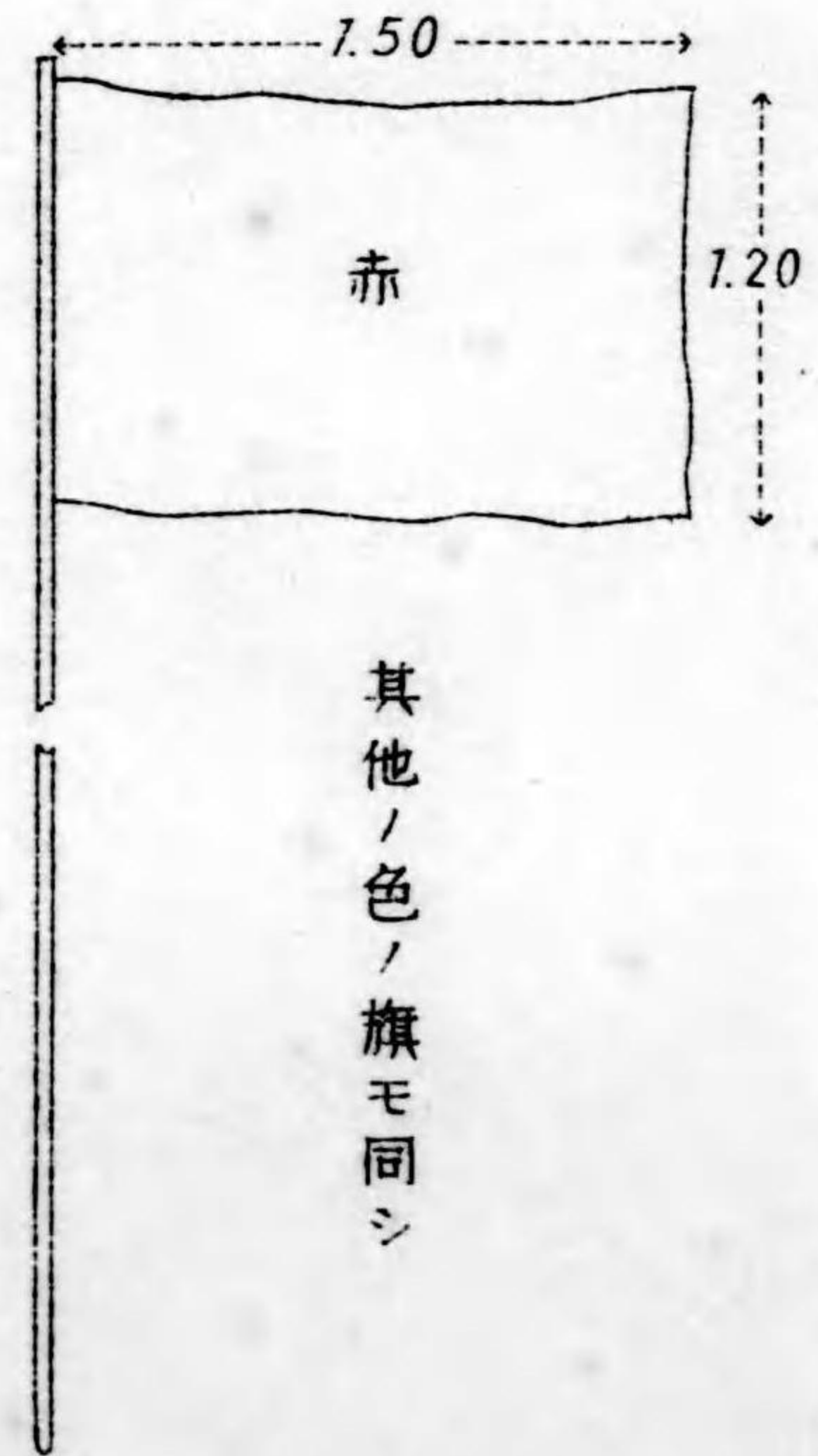


附圖第十五
治痕竿

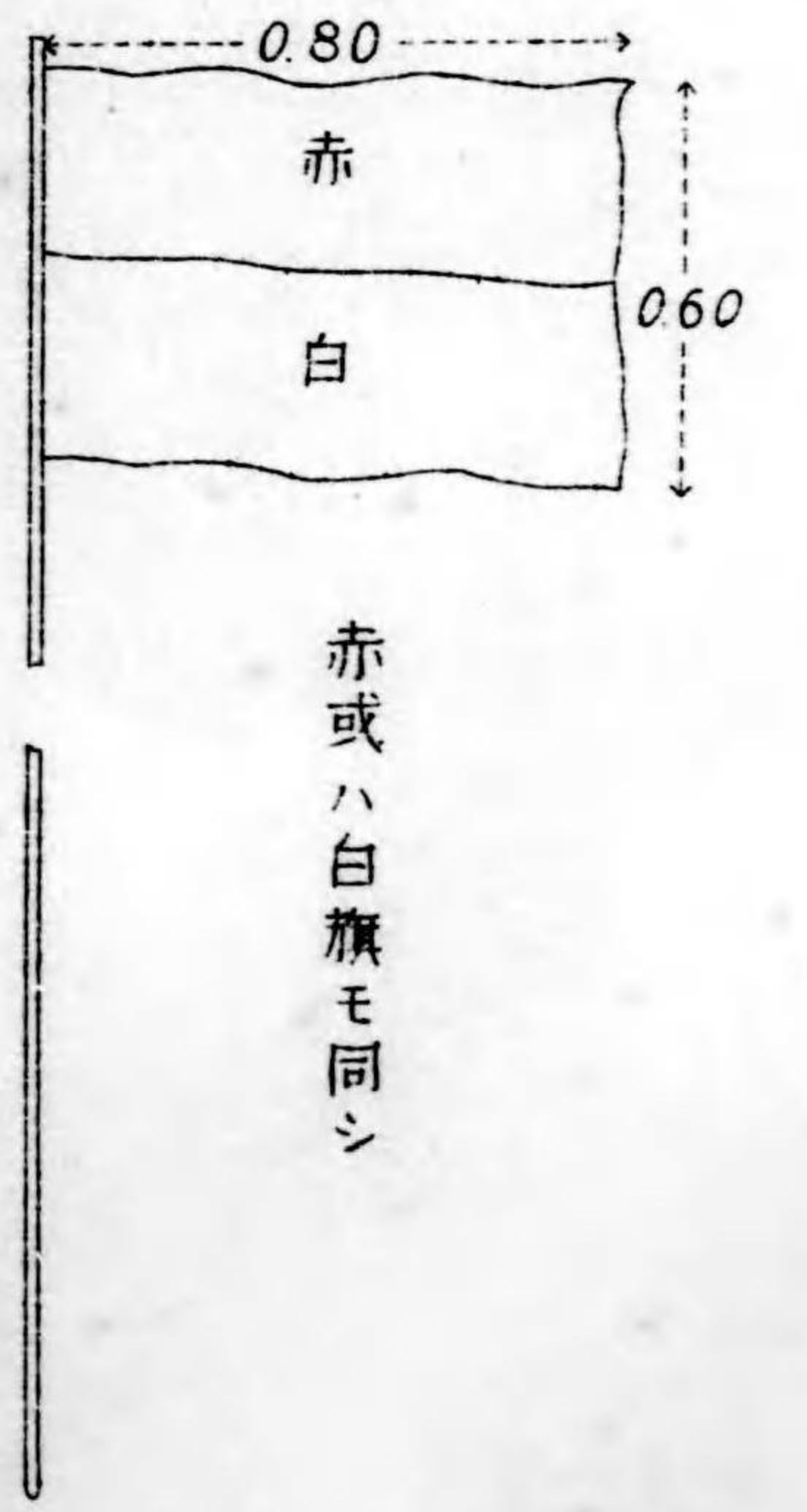


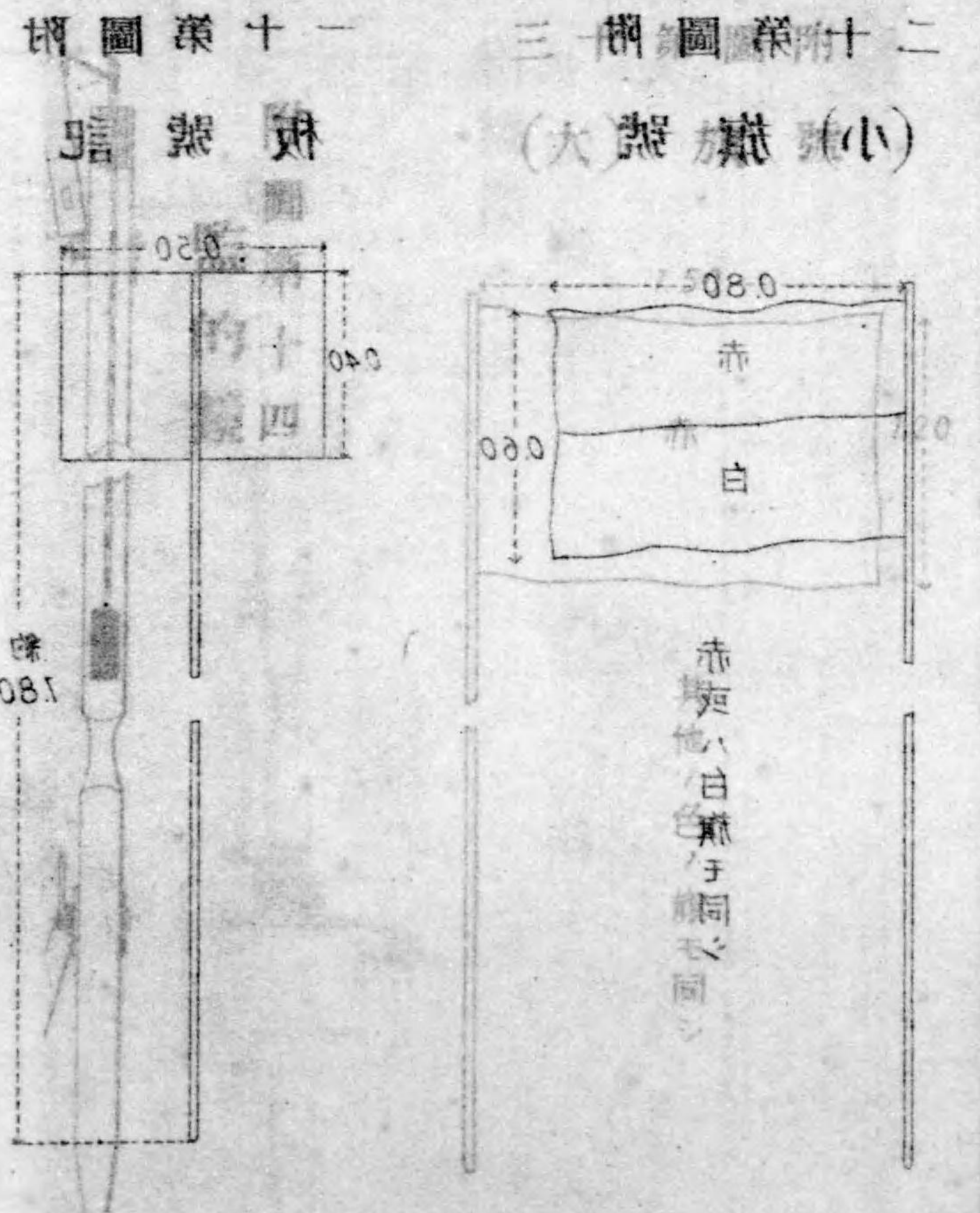
附圖第十四
監的鏡

三十第圖附
(大) 旗號



二十第圖附
(小) 旗號





銃番号 156

基本射撃成績表

總成績	九	八	七	六	五	四	三	二	一	習會月日	彈著	登記	射彈	總點	合否	摘	要	會習一第	三月一日	會習二第	五月二十一日再射合格	三等射手	某	月	日									
	八	八	七	六	五	四	三	二	一																	九	八	七	六	五	四	三	二	一
總發射點	330004	304406	3003048	010078	03406	46787	500054673	32067	32067	九	八	七	六	五	四	三	二	一	習會月日	彈著	登記	射彈	總點	合否	摘	要	會習一第	三月一日	會習二第	五月二十一日再射合格	三等射手	某	月	日
實習成績	6	5	7	6	5	5	9	5	九	八	七	六	五	四	三	二	一	習會月日	彈著	登記	射彈	總點	合否	摘	要	會習一第	三月一日	會習二第	五月二十一日再射合格	三等射手	某	月	日	
總發射點	10	14	18	16	13	13	30	18	九	八	七	六	五	四	三	二	一	習會月日	彈著	登記	射彈	總點	合否	摘	要	會習一第	三月一日	會習二第	五月二十一日再射合格	三等射手	某	月	日	
成績	三	五	三	五	三	三	三	三	九	八	七	六	五	四	三	二	一	習會月日	彈著	登記	射彈	總點	合否	摘	要	會習一第	三月一日	會習二第	五月二十一日再射合格	三等射手	某	月	日	
序列	三	二	三	二	三	二	三	二	九	八	七	六	五	四	三	二	一	習會月日	彈著	登記	射彈	總點	合否	摘	要	會習一第	三月一日	會習二第	五月二十一日再射合格	三等射手	某	月	日	
中二進級	三	二	三	二	三	二	三	二	九	八	七	六	五	四	三	二	一	習會月日	彈著	登記	射彈	總點	合否	摘	要	會習一第	三月一日	會習二第	五月二十一日再射合格	三等射手	某	月	日	

特別射撃成績表

月日	九	八	七	六	五	四	三	二	一	距離	標的	姿勢	射彈	成績	摘	要	其他ノ射撃								
	九	八	七	六	五	四	三	二	一																
九	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	距離	標的	姿勢	射彈	成績	摘	要	其他ノ射撃
九	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	距離	標的	姿勢	射彈	成績	摘	要	其他ノ射撃

其他ノ射撃

種別	戰	闘	射	撃	夜間射撃
	分	隊	小	隊	
回数	八	一	一	一	五
射撃	八	一	一	一	五

甲第一表

